リバプールは繫船々渠の創始者にして、繫船々渠は世界到る所の港灣に在りとせば、余輩が既に船渠を一見して、將に各種の倉庫に潛入せんとする前、一言の船渠沿革歷史に及ぶを許せ、是れ偏に讀者を苦惱せしめんとの惡戲に非ず、記述の進行實に止むを得ざればなり。

『女皇管下の憐れ老朽のリバプール』今は世界第一の繁榮港となりぬ、而して船渠は是か原因又結果なるものゝ如し、遠く是が繁榮の起源を考ふるに、英國西岸クライド及ミルフオードヘヴン間、大約三百哩の沿岸に秀逸拔群の良港ありしに非ず、而もリツプル、マアシー、ディの三河口は、前後相並んで當時舟楫の寄港地なりしが、紀元一千百七十年ヘンブローク侯愛蘭遠征の時に當り、不測の天災ディ河口を海峽に併呑し去り、劇震續でリツプルを埋沒し、軍隊、輸送の重任はリバプール、是を獨占し、以後愛蘭との交通に任じ、亞米利加の奴隸買賣、ランカシヤア及ヨークシヤアの工業發達、世界各地への交通等、漸次にリバプールをして他

港の遂に競爭する能はざる所と爲らしめたり、而して是れ自然の恩惠獨り是をして然らしむるに非ず、人爲の努力常に天與の幸運を攫取して決して放たざりければなり、疑ふものは是をリバプール船渠の歷史沿革に看よ、彼等が如何に其港灣の繁榮に、巨額の資金を投ぜしかを知るに足らん、舊記の今に傳ふるもの、千五百五十一年に水事係の任定あり、同六十一年に各戶壯丁を出して、第港の庸役に任ずとあるのみ、場所と工事は審かならず、さもある可し同六十五年の記錄に依るも、リバプール登簿の船數十五隻、是が噸數二百六十八噸なりき。

されど內地工業の萌芽に連れ、船舶出入の稍や頻繁なるに從ひ、千七百年頃リバプールの計畫は、古來有名のプール即ち水溜りを運河と爲し、此の內に船舶を出入せしめて、以て海潮の高低と、天候の暴惡を拒がしめんと欲するに在りき、此目的を以て、紀元一千七百八年倫敦の技師トマス、スチアーを聘して、其所謂水溜りを檢分せしめたるに、彼の報告

は運河の計畫を放棄し、宜しく此水溜を繫船船渠に形成す可しと勸告せり。

抑も水門を設けて流水を堰へ、以て船舶の碇繫に便ずる事、遠くアッシリヤ、埃及の昔に始まり、近くは和蘭以太利に採用されたり、而も是を高低度なき港灣に適用して、人爲の力能く天然を凌駕す可き、繫船々渠を計畫したるは、トマス、スチアーの功を多とせざる可らず、

一千七百九年リバプール繫船々渠掘築の議始めて英國々會に提出せらる、倫敦の乾酪商等、不用の船渠稅を支拂ふを欲せずとて反對せしも、議遂に可決せられて、府知事其他を委員とし、リバプール市よりは五百磅を醵金し、六千磅の公債を募る可き特權を得、總計六千五百磅を以て、彼の所謂プールを繫船々渠に變成せんと企てたりき。見れ實に今より百八十八年の昔、リバプール僅々三十七街、人口一万の時に在り、而して當時苦心の古船渠は今那邊にか在る、唯其名稱『舊船渠』を口碑に殘して、

是が費此に今魏然たる稅關、船渠局、郵便局の大建築物は立てり。

舊船渠は廣さ三エークル、北端に多角形の一エークルベイシンと、微細の乾燥船渠を有するに過ぎざりしも、地質軟泥にして、建設の四壁容易に磐石に達せず、六年の苦役一万一千磅を費やして尙果さず、委員止むなく國會に提議して、更に四千磅の公債募集權を得、船渠四周に倉庫建設の特許を賣つて是が費用を支へたり、斯くて舊船渠は千七百十五年に公開され、港としてのリバプールは、是が爲に漸次の繁榮を呼べりと云ふも、千七百二十一年の高潮に際し、タビタ、プリッシラと名づくる一般、マアシー河面より高潮に追はれ、埠頭を越へて船渠に流れ入りしを見れば、舊船渠の如何に粗略のものなりしかを想見せん。

さればリバプールは、直ちに舊船渠の不完全を發見せり、舊船渠の出入口は細小にして、北部のベイシンは狹隘なり、故に船舶避難の急航に適する能はず、千七百三十七年舊船渠に附屬の一船渠を掘築し、出入口の

北端に揚陸埠頭場を新設せんとし、國會より一万四千磅の公債を募集するの權を得て、技師スチアーを再雇す、當時リバプール市は、千磅と十八エークルの地を寄附したり。

是に於てか先づ舊船渠の附近に四エークルのベイシンを造り、其西端に三箇の乾燥船渠を設けしが、是は千八百十三年に改築せられて、今カンニング船渠と呼ばるゝもの即ち是れ也。同時に掘築せられし新船渠は、舊船渠の南端に位置し、水面積四エークル千七百五十三年に開かれ、千八百四十五年に再築され、最初は南船渠と呼ばれしが、近隣に西鹽工場ありしより、ソルトハウス船渠と名づけらる。

舊船渠新開の千七百九年より、千七百十六年迄。船渠出入の船舶噸數一歲の平均は一万八千三百七十一噸に過ぎざりしが、南船渠新開の當時、一万九千九百二十一噸に上り、第三船渠新設の計畫を爲せる千七百六十二年の頃は、俄然出入の船舶增加して、一歲の平均六万二千三百九十

噸に及ぶに至れり。

されば千七百六十二年國會は更に二万五千磅公債募集の權を與へ、一箇の新船渠を掘築するの案を認可す、此船渠は七十一年に開かれ、時の帝王の名を執つて、ジョージス船渠と呼ばれたり、最初の面積三エークル、千八百二十二年より二十五年に再掘せられて、五エークルに增加せらる、千七百七十一年ピッドストンの燈臺を新設し、之に沿ふて數十の旗竿此丘上に並列し、來着の船を認めて、其旗號を竿上に飜へせしかば、船主旗號を望んで、其持船の安着を豫知する仕組なりしが、旗竿は旗竿信號と變じ、今は一片の電文是に代る、事とし物とし一も新陳代謝せざるはあらず。

其後二十年千七百八十六年、出入船舶の噸數は、十五万千三百四十七噸に及びしかば、更に二箇の新船渠建設の認可を得たるに、プリッジウオーター侯は、此時ランクーン運河を創設せん爲め、附近の土地を買收し

居たれば、止むなくソルトハウス船渠を遙か南に離れて、隔絶したる二船渠を造り是を國王及び女皇船渠と呼び做せり、國王船渠所在の地面十四エークルは、リバプール市是を寄贈し、女皇船渠の面積は二万七千三百十五磅にて買はれたり、國王船渠は二万五千磅にて落成し千七百八十八年に開かる、最初の廣さ七エークル、千八百五十二年ウワッピング船渠新設の爲め、六十呎を縮めたり。

女皇船渠は六エークル、建設費用三万五千磅、千七百九十六年に竣成し、千八百十六年に、四エークルを增加せられ、當時リバプール市は、一万五千磅を寄附せしが、千八百五十六年更に再度の改築を爲せり、此他マンチェスタア、ベイシン並に一箇の出入口は、リバプール市の醵金に依つて新設せらる。

千七百九十五年リバプール市は、國王船渠の東側に煙草倉庫を建築し、千八百十一年更に其西側に猶宏大の一倉庫を建つ、地面並に建築物の

價十四万磅、東側の倉庫は、後ウハッピング船渠の掘築に當つて取拂はる。

千七百九十九年の船舶噸數、四十万噸の多額に上る、即ち十二万磅の公債を募つて、更に二箇の新船渠を掘築するの權を得たり、されど未だ新船渠掘築の工事に着手せずして、千八百十一年ジョージ三世の法令に依り、船渠は二十一人の委員を選擇して、是に一切の事務を委任する事、以後船渠稅として啻に船舶のみならず、其搭載の貨物に課稅す可き事、公債募集の權を六十万磅に增加する事、舊船渠の埋め立て、其埋立地に船渠局、稅關を新設する事等を決し、今の稅關、船渠局は三十万磅の巨金を以て、十一年間に建築されたり。

プリンセス船渠は千八百二十一年の新開、廣さ十一エークル地價建設費を併せて六十五万磅、而も千八百二十四年の船舶噸數は百十八万九百十四噸に達し、更に船渠を增加せざるを得ず、船渠益々盛んにして、船

渠委員敗德の聲大に起り、一千八百二十五年の法令は、二十一名の委員中其八名は船主及納稅者より選拔す可しと爲し、公債募集の權を百萬磅に增加せり。

ブランスウヰック船渠は千八百三十二年の新開、廣さ十二ヱークル、南端に二箇の乾燥船渠を有し、木材船の出入に供せられ、是が地面の價九萬六千五磅、クラレンス船渠附近五十六ヱークルの地面は、リバプール市の所有なりしを、十一萬磅にて船渠局に買收し、六ヱークルのクラレンス船渠及四ヱークルの半潮船渠は、千八百三十年に新設せられ、是を蒸漕船の出入に供す、當時船渠局公債の特許は、百四十萬磅に上る。

五ヱークルのウオータールー船渠は、千八百三十四年の新開、ヴヰクトリヤ及ツラッオルガア船渠は、廣さ併せて十一ヱークル、千八百三十六年の新開、千八百三十九年に及んで、船舶の噸數十五年間に二倍して、二百四十四萬五千七百八噸に至り、國會は更に船渠局公債を、二百二十八萬四千磅に增加するの權を與ふ。

船渠に附屬して各種の倉庫を建築す可しとの說は、三十年前より盛んなりき、されど私有の倉庫は此時處々に蔓延して、箇人の財產殆んど二百萬磅、是が爲にリバプール市は常に激烈の反對を爲せしかば、遷延私有の倉庫に一任せるもの數十年、船渠繁榮の結果は、遂に七十一萬千七百三十六、磅の巨金を投じ、七ヱークルの船渠と、是に附屬の倉庫を併せ建つるに決す、千八百四十五年に開かれたるアルバアト船渠即ち是れ也。

是と前後に船渠局は、以北の河岸千ヤードの面積を得んが爲に、ダアビー伯に一万七千五百磅、ランカスタア侯爵夫人に八百磅の地價を償ひ、二十五万三千磅の巨金を投じて、以南のハリントン船渠會社を買收し、更に百五十万磅の公債權を得て、リーズ運河と船渠の連絡を通じ、ハリントン地方に新船渠を建築せんとし、マアシー右岸日を追ふて盛大に

赴くに際し、茲に一箇の大競爭者を生じたり、他に非ずマアシー左岸パアケンヘッドの船渠新設即ち是れ也。

リバプールの名の起源せる水溜は獨りマアシー右岸嚮船渠の水溜のみに非ず、左岸亦ウオラシーの大水溜あり、リバプール船渠の成功せるや、ウオラシー水溜の利用説盛んに行はれ、投機者流は逸早く附近の地面を買收して、運河説船渠説漸次に勢力を得たりしかば、船渠局は大に狼狽して、十八万二百六十四磅の地價を支拂ひ、附近一圓を購ひ去れり、是れ千八百二十八年の事なるに、其後十五年を經て千八百四十三年に至り、パアケンヘッド、亦漸次繁榮に赴かんとする頃、ウオラシー附近の地を買はんと云ふ者あり、船渠局の會議は遂に拂下げに決し、十二萬磅の廉價を以て、是を一私人に賣却せり、何ぞ圖らん一週日の後、パアケンヘッド船渠會社の集會は、マアシー左岸に船渠新設の會議を開かんとは。

パアケンヘッド船渠會社は、國會よりリバプール同樣の公債權を得、孜孜として船渠の掘築に從事せしかば、千八百四十七年モウベス子爵は、モウベス及ユガアトン船渠を開きたり、されど是が費用は豫算の四十萬磅を超過して殆んど百萬磅に上り、船渠會社の狂熱醒めて、一時會社を解散せしが、再び是を組織して、リバプールの河岸にハアキユレニヤム地方を買ひ、實費を以て會社全部を船渠局に賣らんとせしも、船渠局は是に應ぜず。

是と同時に船渠局は二十五萬八百七十九磅を以て、リバプール市より北端の地面七十一エークルを買ひ、五船渠を新設す、サリスバリー、コリングウード、スタンレー、子ルソン、ブラムレー是れなり、水面積總計三十三エークル、埠頭は二哩以上に及び、スタンレー船渠の南北に宏大の倉庫を建築し、數万磅を投じて五百呎の聖ジョージ揚陸埠頭場を造り、ウエリントン船渠及び半潮船渠を落成し、出入の船舶今は三百一万六千

五百三十一噸に達し、更に新船渠の必要を感ずるに至る。

ウワッピング船渠は、實にウワッピング街を移轉せしめて造られしもの地面人家の買收費三十七万七千磅、總計五十三万千三百八十六磅に及ぶ、當時船渠局の公債は四百七十八万四千磅なりき、されどダァビイ伯より九万磅の地面を買ひ入れ、十エークルのサンドン船渠を造り、千八百五十一年に至つて、船渠はリバプール市會の羈絆を脱す可しとの論起り、二十四名の委員其半數は市會より、其半數は納税者より撰拔し、總裁を市會撰出の委員より撰ぶに決せり。

ハスキッソン船渠は、千八百五十二年の新開、始めは水面十四エークル、後七エークルを增加せらる、千八百五十五年の船舶噸數、四百九万六千百噸に達す、即ち船渠新設に三百五十万磅、倉庫建築に百万磅の公債募集權を得んとせしも、バァケンヘッドの反對に逢ふて果さず對岸相競爭の十二年間、バァケンヘッドは數百万磅の巨金を投じて、愈々益々財

政困難に陷り、遂に如何ともす可らず、是に於てか百十四万三千磅を以て、對岸悉皆の船渠倉庫を船渠局に買收合併するに至れり。

千八百五十七年即ち今より四十年前、船渠局は全くリバプール市會と分離し、是が委員は二十八名にして、三名は英政府是を指名し、他は悉く納税者是を選擧し、當時のリバプール市公債百十五萬磅を二分し、六十萬磅は船渠局是を負擔し、五十五萬磅は市會是が責任を負ひ、船渠局より百五十萬磅を市會に辨償して爾來の船渠税を船渠局に徵集するの新組織と爲る。

新船渠局第一の注意は、バァケンヘッド船渠の改良に在り、前後三十年五百四十萬六千十二磅を費やして、バァケンヘッドは漸く數箇の好船渠を有するに至れり、是と同時にリバプール市は十二萬磅を投じて、千二呎の揚陸新埠頭場を造り、船渠局は木材輸送益々盛大なるが爲め、北に十七エークルのカナダ船渠を造り、南に三エークル半のハァキクユ

レニヤム船渠と附屬の乾燥船渠を造る。

リバプールの商業益々盛大に進み、船渠の新設愈々切迫を感ずるや、船渠局は千八百七十二年を以て、北に七箇南に二箇の新船渠を掘築せんと計畫し、國會より四百十萬磅の公債權を得、三十萬磅を以てバアケンヘッドの倉庫、三万七千磅を以て揚陸埠頭場十三萬磅を以て乾燥船渠を新設し、他は新船渠の掘築に怠りなかりしかば、北に於てはボーンビー、プレキサンドラ、ランゲトン等の數大船渠、南に於てはハリントン、トキステスの二船渠を開き猶バアケンヘッドの船渠增築に盡瘁して、毎歲殆んど寧日なく、以つて今日の大英船渠の鄕を顯出するに至れるなり。

(其九)

讀者リバプール船渠の邊に、破れたる温袍を羽織り、垢つける鳥打帽子を被りて、徘徊嗟嘆するの日本人を認めば、是れ中央記者の零落人夫に伍せるものと速斷する勿れ、船渠局より特に余輩の爲に與へられたる、各部隨意縱覽の特權は、余輩を駈つて將に是れよりウオタールー穀物倉庫に潛らしめんとする所なり。

揚陸埠頭場の北、プリンセス半潮船渠を經て東北の入口を北に進めば、廣さ三ユークルのウオタールー穀物船渠に入らん、東西北の三面に魏然雲表を凌げる、六層の大建築物は、是ぞ即ち穀物倉庫にして、東西の倉庫長さ六百五十呎、北の倉庫は百八十五呎、廣さ各々七十呎、高さ八十二呎、煉瓦を用ゆる千三百七十五万箇、石材は百十万立方呎、鐵は六千三百八十噸、總面積二十二ユークル、能く穀物を藏する四十万コータア、防火防水防鼠の建築、而して北倉に三百七十馬力の大機關を備ふ、噫是れ果して何の用乎。

恰も好し一隻の穀物運送船は、今や此船渠内に進入し來れり、宛然たる

一箇古代の黑船にして、搭載の穀物は俵に非ず、袋に非ず、滿船に盛れる麥粒の盤なり、船は北倉中央の塔下に横付けと爲り、北倉内の機關運轉を始めしに似たり、看よ看よ北塔の下に引付けられし、一箇鐵製の穀物吸收機は、鐵鎖に依つて八の字形に、船渠の内に突き出され其一端の口は滿船の麥粒中に下ると見る間に、恰も池水の樋孔を通して迸出するものゝ如く、周圍の麥粒波紋を爲して、下より上に奔騰す、是が猛勢一時間にして、五十噸乃至八十噸の麥粒を、船底より二十間の上に昇らせ、更に穀倉の最下層に注瀉せしむ可しとぞ聽えし。

驚く勿れ驚く勿れ、一箇鐵柱の如くに見ゆる、四角形の穀物吸收機は、内に數十鐵製の麥粒吸取器を備へ、二鏈の鐵鎖悉皆の吸取器を繫ぎ、下より上に回轉せしめて、恰も荷物運搬機の仕掛と同じく、浚渫船の受泥器と一般、是等の麥粒吸取器が鐵柱内の内側を下に向つて降る時は、全く空虛にして吸取器皆下に向ひ、是が最下端に達して、將に是れより鐵柱

内の外側を昇らんとする時、下向きの吸取器横向きとなつて、船内の麥粒を吸ひ込み、漸次に上に引上げらるゝ時は、悉皆上向きとなり内に麥粒を滿吸して昇り、今や其頂上に達して是れより下向きに下降せんとする時、吸取器は横向きとなり、器内の麥粒は積水奔騰の猛勢を以て、鐵樋内を倉庫の下層に注入す、されば唯外面に見ゆるもの、穀物滾々激流を爲して、穀物吸收機の口に注ぐと鐵柱上下に塵埃の紛々として、雲烟の如く渦卷くを望むのみ。

東北西の三倉庫共に高塔を備へて、便宜此穀物吸收機を据ゑ付く可し、斯の如くにして船舶より倉庫に奔注せる穀流は、更に如何にして倉内各所に分配さるゝ乎、試に跼蹐として倉内の最下層に潛れ、印度護謨の調皮蜘網の如くに縱横し、四方に向つて穀流を送れるも、暫らく見ざれ、順序は未だ此調皮に說き及ぼすを許さゞるなり。

穀粒の船より直ちに庫に注げる最下層に、大同小異の吸收機あり、此吸

收機は全庫内に五箇を備へ、一箇一分に一噸の穀粒を、吸收し昇騰し穀物衡量機に注入す、穀物衡量機は各倉庫の最絶頂に在り、穀粒の將に茲に集注せりと思ふ頃、衡量者是が手柄を一押せば、穀流忽ち衡量機に入り、定めの噸數に達せば、側の分銅跳ぬ上ると共に衡量機の口を閉して復入れず、衡量手其量目を記錄し、終つて衡量機の出口を開けば、穀流弃騰鐵樋を傳ふて、調皮の上に流る。

倉内各階の輸送調皮は蜘網の如し、是は千八百七十年代米國法を踏襲せるもの是れより以前數箇の螺旋機を設置して、穀粒を次より次の倉内に飛ばし、穀粒頽けて倉内穀粒の屍骸を充滿せしめたる奇談もありきと笑柄に殘る、輸送調皮は印度護謨より製出され、幅各々十八吋、長さ總計一萬千八百呎、機關一度回轉をかくれば、前後の調皮無數ローラアの上を往き、折り曲つて其下を返り、回轉瞬時も止む時なく、調皮の盡くる所に、漏斗の如き木製の穀粒授受器あり、其一口を一端調皮の盡くる

所に開き、他の一口を他端調皮の始まる所に開く。

即ち看よ、穀物衡量機より注下したる穀粒は、鐵樋を傳ふて、今や回轉の調皮上に瀉ぐに非ずや、唯看を調皮十八吋の兩端、各々三吋許りを明け殘して、中央十二吋の調皮上には穀物の急流！一粒の飛び散るに非ず、一箇の頽け去るに非ず、混々踪々音を爲して、穀粒の流れ一分五百呎、一時間能く八十噸の穀物を、倉の一端より他端に輸送し得可し、是を右に送らんとならば調皮の盡る所の授受器の他口を是より右せる調皮の上に置け、さらば穀流は靜に調皮の上を流れ來りて、調皮の是れより下に曲る間際に恰も急流の激水突出の巖角に觸れ、飛沫吹雪を散らすと一般、調皮は下に穀粒は上に、穀と皮との繼を離れて、眞向きに是を待ち受けたる穀粒授受器の内に飛び入る凄まじき勢ひを看よ而も一度此内を經過して、他口より他の調皮の上に瀉ぐは、靜かにも又穩かに、一瀉千里の勢をもて流れ行く、是れを階下に傳ふるも亦然り。

若し夫れ穀粒を衡つて是を袋にせん乎、穀流を下階の鐵樋内に導びき、鐵樋の口に袋を宛てゝ手柄を一撚せば、定量の穀物袋に入り、分銅上りて鐵樋の出口を閉づ可く穀物袋を階上に揚げんとならば、十二箇のリフトは、一箇毎に九箇の袋を引揚ぐ可く、倉庫より汽車に積まんとならば、五十六箇の出し口には、ジッガアを備へ付けて、人力なるも能く迅速の積込を爲し得可し。

バアクンヘットの穀倉は、五階にして三部に分れ、防火建築ならざるも、調皮一萬八百呎を備へ、殆んどウオタールー同額の穀物を貯藏するに足り、別にサイローと名づくる穀物病院を備ふるも奇なり。

穀物病院是をサイローと稱へ、ルイ、デボークスの創始に掛り、被害疾病の穀物は是を地下の窖に貯へ、四周に空氣の注入交換機を設けて、漸次に疾病の穀物を快癒せしむる方法なり、バアクンヘッドの穀物病院は其數四十六箇、地下を堀る事四十呎、縦横共に六呎にして、一箇各三十噸

の病穀を入院せしむ可し、アレキサンドラ穀倉は、能く十二萬噸の穀物を貯へ、毎歳二億萬噸の穀物を出入するもの、余輩是がオフヒースより例の弊衣垢帽を借り受け、案内に連れて倉内を潜れるも、大同小異なれば是を略し、去つて石炭の搭載を看ん。

(其十)

リバプール港の石炭輸出は、是を三部に區別してランカシヤア及ヨークシヤアの石炭、スタッフォードの石炭、ウエルス即ちカアヂフの石炭と爲す可し、ランカシヤア及ヨークシヤアの石炭を得んとならば、船を艤してプラムレイ船渠に入り、是が北端若しくは東端に横付けにせよ、見上る許りの煉瓦の長城は茲に聳えて石炭倉庫のありとも覺えず、試に此長城の上に攀ぢん乎、是ぞ即ち高架鐵道の構造にして、數條の鐵軌敷設せられ、ヨークシヤア及ランカシヤア鐵道線の北船渠停車場に來

れるものと、船渠背後の市中に連絡して、上は石炭鑛の孔の口より、下は石炭船の浮べる船渠の眞上に續けるなり。

炭車上に來つて船下に待てり、されど如何にして此石炭を搭載す可き乎、我長崎の石炭積みに於けるが如く、茲に男女の人夫を集め、手に手に一箇の笊を執り、鼻歌唄ふて積ましめんには、一歳八十二萬千七百三十七噸内外を輸出すと聽えし、此プラムレー船渠のみを以てするも、恐らくリバプール悉皆の人夫を要す可し、されど人夫は唯三四人茲に在るのみ。

炭車は一箇〳〵に軌道を代へて、是を船渠に臨みて設置したる、數臺の起重機の下に進ましむ、起重機の揚量一基二十五噸、總計約十箇を並列し、高架線上所々に瓦斯燈を設置して、夜間の搭載に便じたり、俄然起重機今や働き始めたりと見る間に炭車は内に滿載の石炭を盛れる儘、車臺は炭車を中央に載せし儘、石炭も滿車も車臺も諸共に、虛空高くに曳き揚げられぬ。

起重機自己の轆軸を一旋すれば、吊り上げられし車臺も滿車も石炭も、起重機について廻はつて、船渠の下に待ち設けたる石炭船の眞上に在り、手柄一推鐵鎖を延ばして、手頃の所に炭車を卸せば、後鎖は縮み前鎖は延び、車臺も炭車も前方低く後方高く、アハヤ車内の炭塊斜めに溢れ出でんかと手に汗握る一刹那、起重機の一鎖縮みて、炭車前部の板戸を外せば、大小の炭塊は船内さして兩襞。

轉じてスタッフォードの石炭搭載を見ん乎、ハアキュレニヤハ船渠の東端船渠及石油庫中間の空地に、數條の鐵軌を敷き列ね、茲には揚量三十噸と號する、移動起重機一臺を備へ、臺下附屬の鐵輪に依り、船渠東端の鐵軌に沿ふて、便宜の場所に進退す可く、數十輛の炭車陸續として茲に集へば、先づ其一輛宛を分つて、是を衡量所前の鐵軌に載せ、衡量所内の手柄を一推せば、今炭車の乘れる鐵軌一間餘は、前後の鐵軌と隔絶し

たる衡量臺にて、是が重量衡量所内の量目指示器に顯はれ出づ、衡量終つて是を起重機下の車臺に進むれば、起重機工の一工夫は、手柄を執つて是を吊り上げ、起重機の上半身を旋廻せしめて、是を適宜の船上に缺し、是を傾け是を注ぐの光景は、ブラムレー船渠に異ならず。

更にパアケンヘッドの西グレイトフロート船渠に行きウエルス石炭の搭載を看ん乎、炭礦地よりの鐵軌の連絡、前二船渠に異ならず、されど茲には矢倉の如き水壓起重機あり、刺に機關室を備へて、三間四角高さ十數間の大矢倉に似たり、而して是が揚量は均しく三十噸内外に過ぎず、炭車一度矢倉の内の臺上に乘るや、二箇の圓形鐵桿は、水壓力の働きに依り、下より車臺を押し上げて殆んど十間の高さに及ぶ、此外方即ち船舶の眞上に當れる所に、一箇の石炭注出器あり、隨意の角度に傾斜す可く、炭車内の石炭を受け、是を船内に注出するに任ず、注出器の準備整ひ、適宜の度合に傾斜さるゝや、車臺後方の鐵桿は、恰も望遠鏡的に、大鐵

桿内更に一箇の小鐵桿を突き出し、小鐵桿出で車臺の後方高まると共に、炭車前方の板戸は外され、茲にも石炭の霰は降りけり。

大起重機の傍らに備へ付けたる、一箇の輕便小起重機あり、是は水壓若しくは汽力に依つて、一箇の圓形鐵桶を上下するにて、陸上の石炭を此内に盛り、是を船内適宜の所に卸すや、桶底を吊せる鐵鎖を延ばし、桶底の鐵板を左右に開きて、桶内の石炭を船内に墜落せしむ。

(其十二)

今は讀者も稍や疲れて、切に一喫の煙草を欲するならん、さらば煙草の嗜好者に問はん、諸君は『女皇の煙管』なるものを知れりや、若し知らずんば、余と共に來れ、キングス船渠の西端に、宏大なる二階造りの倉庫あり、庫内の中央大煙筒を設け、其焚き口に箱の儘なる煙草を投し、煙烟空に立ち昇るを見て、是を女皇の煙管とは稱へたり、抑も何者の見戲なる乎。

見戲に非ず悪戲に非ず、是は昔時密輸入の煙草、並に關税不納の煙草を沒收して、是を女皇の煙管に燒き拂ひしが、今は關税不納の密輸入者を減じ、從つて此煙管は、被害疾病の煙草にして、是が製造を禁ず可きものを燒棄するなり、女皇煙管の由來斯の如し。

而して女皇煙管の設けられあるキングス倉庫は、是ぞ即ち煙草貯藏の倉庫なり、煙草は重にホグスヘッドと名づくる大樽に荷造り、上下前後左右の庫内就れに行くも煙草樽の山ならぬはなし、貯藏の總額五萬樽に及ぶと聽えし、世界各地の煙草此庫内に來らざるはなく、日本の煙草目下生憎品切れなるも、淡黄紙の如く薄きは支那煙草にして、深窩の色葉長く量重きは埃及煙葉なり、ウアヲニヤは名を煙草に專らにし、ハバナ、マニラは葉卷の精製に誇る、藁を以て包み藤を以て束ねしものあれば、亞弗利加内地木材よりも獸皮安しとて、煙葉を皮に包んで送り、煙葉恰も帷に似たり、希臘煙葉、土耳其煙葉、アラビヤ煙葉、露西亞、獨逸、各々是

が見本を造つて、恰も世界煙葉の共進會に似たり、而して是に從事の人夫は、能く其煙葉を臭いで何所の煙葉なるやを知ると云ふ。

スタンレー煙葉倉庫に行くも大同小異、茲には三萬七千樽を貯藏す可く、荷主少許の倉敷を拂へば、倉庫の係り員は一切萬事を周旋し、是が見本を造るが如きは、中立の倉庫係が煙葉樽を開き、其上中下部の煙葉を引出し、是を見本に造るものなれば、現品と見本に差違あるなし、斯の如くにして開ける大樽は、是を水壓荷造機にかけ、元の如くに荷造りして是を貯藏す。

既に煙草を見て將に是れより藏酒庫に行かん乎、アルバアト二三倉庫は、西印度の砂糖、支那の紅茶等を藏して、是等の紅茶を更に罐詰袋入りにして、是を亞弗利加に向つて輸出せんと準備し居り、他の一倉庫は其地下を藏酒庫に宛て、麥酒、葡萄酒、ラム、ウヰスキー、酒精、銘酒あらざるなく古きは普佛戰爭前の古葡萄酒より、新たなるは今倉入りの麥酒樽迄、

世界列國の酒數萬樽、樽より移して罎に詰むるの仕掛あり、地上室には幾千ガロンの酒槽數箇を備へて、樽より樽にも移す可し。

バアケンヘットの家畜倉庫に行けば、二十二エークルの數地數階の大建築物に下も二階も三階も、七千六百頭の牛と、一萬六千の羊を養ひ、二千七百の氷室を備へて、一週三千四百の牛と、三千の羊を居り、一歲來着の家畜船は六百四十隻、二十五萬四千五十の牛と、三十五萬三千八百三十六餘の羊を茲に繫ぐ可し、アングロサクソンの女を見よ、彼等は茲に屠牛の後の血を洗ひ落せり、全身腥さき血潮に染みて。

木材置場に行かん乎、各種長短厚薄の木材は、船より埠頭に揚ぐると共に馬に牽かせて置場に來れば、置場は大抵是を五間内外に仕切り、是が境界に木柱を立て、木柱と木柱を横材に繫ぎ、横材の上に數噸のツラベリング起重機數臺を設置して、同種の木材を同樣の場所に順序よく積み重ね、マホガニー其他の奇材は、特に貯藏室を設けたり、ホーンビー船

渠附近、到る所に木材の山を爲し、世界列國の珍木奇材あらざるなし、生棉は一歲四百六十一萬九千俵内外を輸入す可く、至る所の倉庫に生棉を見ざるなく、是を引て毛の短かく切るもの米國產なり、印度綿稍や長く、埃及綿に至つては、色稍や黑きも毛の細長き事蜘網の如し、是れ上糸を引くに適す、毛糸も敢て生綿に劣らず、濠洲の毛糸は是を倫敦に輸入するも、印度、亞弗利加、土耳其、其他の毛糸は是をリバプールに輸入し、白きもの黑きもの長きもの短きもの、鳶色なるあり斑色なるあり、新毛糸倉庫に入つて、十四万百二十俵の毛糸を見る、啞然として今は筆を投ずるの外なし、乞ふ他日大英錦綉の郷なるヨークシヤイアを視察する迄是を擱かん。

ウツツピング倉庫に入らん乎、最上階に象牙の山を爲し、其次に世界各地護謨の原料を藏し、切つて一々是を吸がせらるゝには閉口せり、下に毛糸あり生棉あり、是等の俵を揚陸するには、屋上に一噸半の起重機を

備へて、迅速に揚陸するの仕掛けあり、此他數箇の倉庫を見たるも煩を避けて茲には略す。

噫、誰か英國を希羅の末路、眠るに均しと謂ふ者ぞ、是を謂ふもの目なく耳なき肯綮なり、目ある者は視よ耳ある者は聽け、此船渠を有し、此倉庫を有するリバプールにして、猶向ふ十年を期し、四百万磅の巨金を投じ兩岸船渠の便宜を增進せんが爲め、カナダ船渠を再築し、東隅の枝船渠を深く長くし、百呎、八十呎、四十呎の三入口を新築し、南端二百エークルを買收して、九百二十呎の大乾燥船渠を增築し、スタンレー船渠の半身を埋めて二エークル半の埋立地に、五萬五千樽を容る可き、十二階の新煙草倉庫を新築せんとし、目下工事の半途に在り、英人敢爲進取の氣象斯くなればこそ、女皇即位の當時、二十六箇百十四エークルの船渠、今は六十七箇五百五十四エークルと爲り、九哩半の埠頭三十五哩半に延長し、二萬九千九百十八隻の船舶は、四萬七千三百九十隻に增加し、是が噸

數は二百八十九萬五千二百二十六噸より、二千二百九萬二千九百十八噸に昇り、船渠局一歲の收入二十四萬六千四百六十六磅より、百四十一萬千六百七十六磅に及ぶ、而して是れ進歩改良殆んど寧日なき、英人敢爲飽くなきの氣象、是が原因たらざるはなし、噫、蝦魚と鯨の戰爭に滿足するの大國民よ、汝が夢中英國を唾ると見る一夜に、マアシー對岸のバケンヘッドは、リバプールの如き一大市となり、是が沿岸七哩にリバプール同樣の船渠を有し、マアシーの商業俄然二倍に達するの曉、汝が横濱、大阪、神戸の三港、猶セーロン島上コロンボの一港にだも及ぶ能はざるを長大息する時到らん、起てよ日本！醒めよ日本！以上は唯是れ死せるリバプールの半面に過ぎず、活けるリバプール半面の工業は、醒めし諸君の眼光にパノラマの如く反映し來らん。

（其十二）

殷々轟々脚下に當つて、凄まじき物音聽ゆ、落雷かと見れば、空晴れ雲散り閃電なし、發砲かと疑へば、世は太平の英國内地に、大砲なく軍艦なく陸軍なく海軍なし、天に非ず地に非ず、百呎乃至三百呎の奈落の底に、落雷發砲にだも優れる、爆裂の響き絶えざるもの、是れリバプールの東南、ノースウ非ッチの岩鹽鑛野に非ずや。

英國の製鹽業は、ノースウ非ッチ、ドロ非トウ非ッチ、ブリートウード、ミッドルスボロー各地に別れて、毎歳の製額約百二十一萬七千噸、北米、北歐、東西印度、濠州、亞弗利加に輸出するもの約七十四萬千噸の多額に上り、現時大に獨逸の競爭を受くると雖も、猶世界隨一の岩鹽製造國として立つに足る。

余輩一日ノースウ非ッチ聯合鹽製會社の招待を受け、順次工場鑛野を一見したるも、野廣く工場大にして、殆んど執筆の順序に苦しむ、即ち先づ岩鹽採掘の奈落の底より潜り入らん、乞ふ讀者余輩の爲に再び安全

天日を拜するの無事を祈れ。

捧持し來れる準備の外套白くして、是を羽織れば經帷子にも似たる可く、我等の乘りし下降の桶は首のみ出でゝ棺桶の如し、昇降の穴は徑一間にして唯二箇あるのみ、機關回轉を始めて、底に岩鹽を盛れる、下の桶を引き上ぐれば、我等の乘れる上の桶は、百呎以上の墓穴を通して、奈落の底に馳せ下る、頭上幽かに一道の微光を認めて、四周暗澹先づ我視感を奪ひ去られ、上下の響動唯ゴーゴーと長く傳へて、聽感亦我れを放れ去るの心地す、瞑目靜思是を久ふして、俄然棺桶は奈落の底に達したり。

唯見る廣さ十八ヱークル、高さ二十六呎に及ぶ、暗黑奈落の大宮殿、每二十三ヤードに十ヤード四角の支柱を殘して、床も天井も平垣に、漸次四周に掘り穿ちたり、鹽層厚さ三十ヤード、上下四周岩鹽の壁、岩鹽の柱ならざるはなく、所々の壁間に燭光を以て、王冠其他の火飾を爲し、特に我等を歡迎す、暗黑十八ヱークルの地中宮殿に、燭光燦爛の火飾を見る、

英皇在位六十年祭觀艦火飾以來の大壯觀なり。

此岩鹽鑛野是をアデレイト鑛山と稱へ、遠く五十年の昔より是を採掘し始め、爾來幾千萬噸の岩鹽を採掘して、今は地中百十三ヤードの奈落より、厚さ五間廣さ八十町歩の岩鹽を取り去り、猶日毎に百名の鑛夫は鐵杖を以て岩鹽の壁間に小孔を穿ち、是れに火藥を挿入し、順次導火線に點火すれば、嚴然一發凄まじき鳴動と共に一回三十噸の鹽塊を、壁間よりして破摧し去り、大小の鹽塊雪崩の如く頽れ落つ、而して切斷機なるものあり、壓搾空氣の力を備へ、先づ其天井より數尺の下を切り、鹽壁爆裂天井既に形成せられて、順次下層を爆裂せしむるものなれば、頭上脚下共に非常の凹凸を爲さず、思ふ所に所要の支柱を殘すを得るなり。奈落の厩に數頭の肥馬あり、肥馬も亦四脚を縛し、例の棺桶にて吊り下されしもの、順次破摧の岩鹽を車上に積み、馬に牽かせて昇降口の下に運べば棺桶に盛られて引揚げらる。

讀者の祈念驗あり、余は再び天日を見るを得たり、余の如くにして引揚げられし岩鹽は、順次に工場の一隅に設置せる、粉摧機の口に投げ明けらる、數名の鑛夫ショーベルを執つて、是を粉摧機内に投げ入れれば、粉摧機内周圍に無數の鐵齒を附せる、螺線の如きもの左右より向ひ合せに、廻轉し居り、上より受けし鹽塊を粉に碎きて下に落す、下には浚渫船の受泥器の如きものあり、順次に粉鹽を吸い揚げ高く是を他の工場に運び行きて、撰別機の内に移せば、撰別機内軟かなるは碎いて是を下に落し、硬きは碎かず下に落さず、硬軟自然に撰別さるゝの仕掛けありて、軟かなる岩鹽は、細粉となつて一口より出で、硬き石塊其他のものは、列を作つて他口より出づ。

斯の如くにして製造されし岩鹽は、直ちに以て是を食卓に上すに足る乎、否々讀者よ岩鹽と食鹽とを混ずる勿れ、岩鹽は唯畜類の飼養とアルカリ製法等に供せらるゝに過ぎず、岩鹽を水に融かして其水を煮れば、

無論食鹽を製し得可きも、英國の製鹽はさる迂遠のものに非ず。

(其十三)

ウ非バア河岸に沿へる數ケ所に、無數の烟筒巍然たり、アデレイド工場と云ひ、ヴ非クトリヤ工場と云ひ、ウ非リスフオード工場と云ふ、烟筒の側に無數の倉庫を建て列ね、烟筒の下に無數の煉瓦竈を築く、倉庫の内には無量の食鹽雪の山を爲し、竈の上には鐵釜の熱湯滿天の湯氣を散らす、竈上の鐵釜は長さ三十呎より百呎、幅二十四呎乃至三十二呎、深さ十八吋にして、一箇細小の鐵管絶へず、釜中に水を瀉ぎ、竈下石炭を焚く數時ならば、湯氣は散り、水は瀉いで、釜中白鹽の結晶を浮べ、順次釜底に沈澱して、終には白鹽の塊を爲すを看んで、訝る勿れ、疑ふ勿れ、絶へず釜中に瀉げる鐵管の水は、是れ純粹の清水に非ず、ブライン即ち鹽水是れなり。

此鹽水は何處より如何にして茲に來る乎、雨水岩鹽の地層に浸漸し、直ちに鹽分を其水中に抱合し、二割七分の鹽分を有するに至る、是れ天然の鹽水なり、鹽水低きに就て流れ、是が水脈に掘り當れば、混々として湧出す鹽泉是れ也、而して以上の製鹽工場が導ける鹽水は、天然泉脈若しくは岩鹽探掘の舊坑より、數臺の喞筒を以て掬ひ揚げ、是を數箇の貯水池に集注せしめ、更に小鐵管より是を鹽釜に送致せるなり。

云はゝ簡單記さば粗畧を免れず、されど一度來り看よ、數十の鐵釜相並んで、釜上の白氣煙筒の黑烟と共に、朦々中空に漲つて、釜邊の人唯兩脚の往來せるを見て、體の上部と面貌を認むる能はず、釜中の鹽是を粗大廉價に製せんと欲せば、竈下の炭火緩く漸次に熱す可く、多時を經てシヨーベルを執り、釜底の結晶鹽を釜緣の通路に掬ひ揚げよ水は下に流れ落ち、粗大の白鹽乾き去らん、是を手車に積んで、近隣の倉庫に投げ入れよ、鹽魚鹽肉の商人は來りて買はん、若し夫れ食卓に上す可き精鹽を

得んとならば、急に高度の熱を與へて、直ちに釜中より鹽を掬へ、是を掬ふて漏斗の如き木製の摸型に入れ、水氣去り鹽塊凝結して摸型を出さは、一箇四角形の棒鹽を得ん、是を執つて乾燥室に貯藏せよ、鹽釜の下に焚ける火氣の餘焔は、鐵管を傳ふて乾燥室の下に逃れ、自然と無類の好食鹽を燒くを爲さん。

製鹽の倉庫は孰れに行くも雪の山なり、種々類別の白鹽は、恰も北海の降雪後に街路の雪を掻き集めたらんが如し、而して是が乾燥室に降り行けば、棒鹽の堆積四周に雪の山を爲して室內の熱度常に百數十度の高さに昇る、されば此附近に立ち働くもの皆裸體なり、犢鼻一褌の裸體にあらざるも股引一足の赤裸なり、大英裸體の鄉とは是を謂はん乎、製鹽各地製糖各地を糾合せば、大英裸體の一軍も、能く一聯隊を組織するに餘あらん歟。

ノースウヰッチの天使旅館に會餐す、旅館の老女主ウヰクトリヤ女皇

の接吻し玉へるもの、今より二十餘年前岩倉公以來の日本人なりとて、余を抱き歡極まつて涙下らんとす、噫、岩倉公逝て以來、リバプールを素通りするの日本人は、萬を以て數ふるも、英國內地に英人は何を爲すかと、マゴツキ廻れる日本人は余を以て嗤矢とす可し、英人を以て眠れりと爲し、英國を以て老衰せりと爲す亦其箸なり。

製鹽聯合會社渠船を艤して、余等をウヰバア河畔に迎ふ、即ち渠船に搭じてウヰバア河を遡るに、所々二重の水門を設け、上流を堰きて恰も船渠の入口の如くし、工事中百年を經て未だ落成せざるものあり、英國工事の頑丈なる眞に是れが素因あるなり。

渠船其發船所より、今は二十呎の高水面に上つて、ウヰンスフオードの製鹽工場に着す、製鹽の順序前記の如く、製鹽の貯藏亦前記の如し、唯茲には例の棒鹽を、如何にして袋若くは俵詰と爲すかを見んに、彼の棒鹽は乾燥室より取り出され、二つに割つて是を紛碎機の口に投ぜば、粉碎

機是を粉にし、此鹽粉は例の受泥器の如き鐵器に受けられ、而して是を木樋より送りて、篩の上にゆり落す、篩は粗大の塩粉を前に去り、獨り細微の鹽粉のみを下に落せば、下に木樋あり鹽粉流れて盛袋所に通ふ。

製袋所は數十の女工茲に在り、手に〳〵各種の鹽袋を執り、是を白塩の流出口に挿めば、白鹽流れ出でゝ鹽袋に滿つ、鹽袋に盛るもの塩袋を閉づるもの、塩袋の口を糊するもの皆分業なり、斯くして一箇の極上精製〳〵鹽袋は僅々半斤即ち二錢五厘の價値に過ぎず。

製鹽聯合會社の宏大なる、英國數ヶ所に岩鹽鑛野を有し、其製鹽を輸送せんが爲には、數十の船舶數百の鐵道貨車を有し、是が修覆の工場を備へて、八年間船舶の修繕費九萬八千磅、鐵道貨車の修繕費十三萬二千七百五十磅に上るに至るされど利益の配當は僅々一分の上に出でず。

更に轉じてリバプール正北フリートウードなる、アルカリ聯合會社の招待に應ぜん乎、是は製鹽聯合會社と競爭して起れるもの、フリートウ

ードに百餘エークルの岩鹽鑛野を有し、是が岩鹽採掘抗は、ノースウヰッチの鑛抗よりも深く、是が奈落の宮殿は、ノースウヰッチより稍や狹隘なるも、抗内電氣燈を點じ、縱横に鐵軌を敷設し、殷々轟々爆裂の響きは、絶へず附近の地底に鳴動せり。

是が製鹽工場と製鹽倉庫は、ノースウヰッチに異ならず、唯此附近天然の鹽泉に乏しきが爲め、人造の鹽泉を造つて、是を製鹽工場とアルカリ製造工場に送れり、其法荒漠たる原野に、十餘臺の喞筒を散設し、一臺の喞筒は清水脈の所に設置し、絶えず幾万斛の清水を吸揚し、鐵管を傳ふて是を清水貯藏池に送り、更に一條の鐵管は、清水貯藏池の水を受けて是を地中岩鹽の上層に達せる鐵管内に注射せば、清水岩鹽を融かして茲に人爲の鹽水を生じ、下に向つて滴り落つるを、底より上に通へる喞筒は、絶えず是を吸揚して再び地上に送り返す、鐵管再び是を傳へて、天然の鹽水と共に、是を鹽水の貯藏池に集注す、斯くして貯藏池に集注し

たる、天然並に人造の鹽水は、更に數哩の鐵管を傳ひ、ウワ非ヤア河の對岸なる、製鹽工場近隣の貯水池に移され、茲よりして製鹽工場並にアルカリ製造工場に分配せらる、是れ河を越えて燃料の石炭を運送するよりも、河底を横斷して鹽水を輸送するの容易なるに依れりと云ふ。

岩鹽粉碎の工場より、岩鹽輸送の瀝青車に搭じて、ウワ非ヤア沿岸の埠頭場に赴き、準備の端艇に乘じて河を横斷し、將に製鹽工場を巡覽して、アルカリ製造工場を見んとせしも、日暮れて好機を失せしは遺憾なりき。

英國炭鑛の盛大なるは、我れ曾て是を聽けるも、今や親しく其岩鹽坑の宏大なるを見て、轉た驚愕の念に堪へず、彼等はノースウ非ッチ、ドロ非トウ非ッチ、ブリイトウード、ミッドルスボローの各地に、斯くも廣大なる地層を採掘し、其鹽泉を吸揚し、地中の各所に奈落虛空の大宮殿を掘り穿ちて、少しも上層の地に變化陷落を與へざる乎、否々是が爲めには

既に、ノースウ非ッチ附近の若野を變じて、茲に數箇の若湖を成し、ノースウ非ッチの住民枕を高うする能はざるの奇觀あるなり、乞ふ少しく是を茲に說かん。

(其十四)

抑もノースウ非ッチの製鹽は、ローマン、サキソン時代より始まり、英國岩鹽發見の嚆矢は、千六百七十年に當りて、ノースウ非シチの東北一哩に岩鹽を發見したるに在り、而して千六百七十九年の製鹽は僅々一万五千噸に過ぎざりし、然るに千七百二十一年ウ非ベア河の修築令出で、千七百三十年ノースウ非ッチ地方より、此河を利用して其製鹽をリバプールに運輸し始め、最初白鹽五千噸、岩鹽九千噸なりしに、直ちに白鹽岩鹽十四萬噸の多額に上り、近時毎歲白鹽三十萬噸、岩鹽十五萬噸を出すに至れり。

り。

更に一例を擧げん乎、マアストン沼の左方遙かに七エークル乃至八エークルの湖水あるは、是れ千八百八十年の陷落の結果にして、ブラッツ、ヒル岩鹽坑の陷落に基づき、今猶漸次陷落を波及して、最も深き所は二百呎の上に及び、運河の泥土二萬噸を運搬して此陷落地を埋めんと試みしも、大海の一粟到底及ぶ可くもあらず。

猶一例を擧げん乎、ブラッツヒルより程遠からぬ所に、土人是をトップ、オフ、ブルックと呼ぶ大湖水あり、面積今は百エークルを越え、深き所は五十呎、淺き所も三十呎を下らず、最初千七百五十六年の頃、茲に一流の小河ありき、附近岩鹽地層採掘の結果は、千七百九十年頃より、小河の兩岸陷落し始め、年々歳々其陷落の面積を廣め、今猶漸次四方に波及中なり。

更に最後にノースウヰッチの市街を見ん乎、是は一萬五千の人口に過ぎざるも、數百の人家櫛比して、附近繁盛の一小市なるが、年々歳々四周地層の陷落に依り、全市の家屋多少の損害を蒙らざるはなく、柱傾き家根歪み石落ち壁頽れて、切言せば住民一夜の高枕を得ず、公事訟訴時々に起つて、製鹽聯合會社は毎歳一千磅の訟訴費を支出せるも、一千ガロンの鹽水吸揚高に應じて、唯三片の要償金を醵出するの外、未だ何等の損害要償を爲したるを聞かず、般鑑遠からず今後百歳の後、ノースウヰッチ、ブリートウード、ドロイトウヰッチ、ミンドルスボローの岩鹽採掘地方は、若野變じて泥海と爲る鋭に懸けて見るが如し、而も世界劣等人種の需要を充たして、大英國の國威を世界に發揚せんが爲には、敢て大英國宗祖數千年の土壤を切り賣りする事をすら忍んで爲せり。

(其十五)

世界第一の麵粉製造地を、合衆國ミニアポリスとせば、是に繼ぐ可き第

ノースウ井ッチの岩鹽層は、昔時鹹湖の水底にして、是が廣袤少くとも三平方哩、今より五年前の地質測量は、無慮二千六百十呎の地心迄搜索せしに、岩鹽地層五部に分れ、上層は地下約四十五ヤードにして、鹽層の厚さ平均二十五ヤードなり、下層は地下五十五ヤードの所に在つて、鹽層の厚さ三十ヤードなり、下層よりして、猶八十呎の下、更に薄弱の三層あるも、到底採掘に適するものならず。

岩鹽は既に其上層を掘り盡くして、今や下層の採掘中に在り、マアストン、ウ井ンカム、ウ井ットン諸部落の地中は、平均四十五ヤードを境して殆んど二十五ヤードを掘り盡くしたる、云はゞ空虛の峰の巢の如し、無數の支柱は殘されあるも、雨水空虛の舊坑内に充滿して、壁を融かし柱を融かし、茲に無盡の鹽泉を、貯ふれば、今時の製鹽多くは此鹽泉を吸揚して、之を白鹽に製造し、鹽泉將に盡きなんとして、水を此内に注ぎて人造鹽泉を造り、隨つて注水し隨つて吸揚し、殆んど暇あらざるなり。

されば千七百年代に、マアストンの岩鹽を採掘し始めて、千七百五十年早くも此地方の陷落を見しより以來、年々歲々多少の陷落を見ざるはなく、ウ井ベア及ウ井ットンの沿岸、鹽穴なるもの所々に點綴し、製鹽工業の盛大に赴くと相比例して、附近の地面所々に陷落を增加し、今は殆んど千二百エークルの地面は、多少の陷落損害を受くるに至れり。

今試みに一例を擧げん乎、ニューマン沼若しくはマアストン沼と呼ばれて、今泥水の洋々たる大海は、始めより斯くの如くなりしに非ず、千七百八十年頃茲に二箇の岩鹽坑あり、千八百三十年頃岩鹽の支柱維持に堪へず、此岩鹽坑危殆に頻すと傳へられしが、期年ならずして此鹽坑の天井陷落せしが、幸にして地面に影響を及ぼさざりし、其後坑内鹽泉に滿ち、千八百七十年後是が吸揚を始めしかば、地面漸次に龜裂を生じ、此龜裂よりして雨水直ちに坑内に注ぎ、更に鹽泉を生じたれば、益々是が吸揚に從事して、過去十年間に此地一帶を四十呎の下に陷落せしめた

り。

更に一例を擧げん乎、マアストン沼の左方遙かに七エークル乃至八エークルの湖水あるは、是れ千八百八十年の陷落の結果にして、ブラッツヒル岩鹽坑の陷落に基づき、今猶漸次陷落を波及して、最も深き所は二百呎の上に及び、運河の泥土二萬噸を運搬して此陷落地を埋めんと試みしも、大海の一粟到底及ぶ可くもあらず。

猶一例を擧げん乎、ブラッツヒルより程遠からぬ所に、土人是をトップ、オフ、ブルックと呼ぶ大湖水あり、而積今は百エークルを越え、深き所は五十呎、淺き所も三十呎を下らず、最初千七百五十六年の頃、茲に一流の小河ありき、附近岩鹽地層採掘の結果は、千七百九十年頃より、小河の兩岸陷落し始め、年々歲々其陷落の面積を廣め、今猶漸次四方に波及中なり。

更に最後にノースウヰッチの市街を見ん乎、是は一萬五千の人口に過ぎざるも、數百の人家櫛比して、附近繁盛の一小市なるが、年々歲々四周地層の陷落に依り、全市の家屋多少の損害を蒙らざるはなく、柱傾き家根歪み、石落ち壁頽れて、切言せば住民一夜の高枕を得ず、公事訟訴時々に起つて、製鹽聯合會社は毎歲一千磅の訟訴費を支出せるも、一千ガロンの鹽水吸揚高に應じて、唯三片の要償金を醵出するの外、未だ何等の損害要償を爲したるを聞かず、般鑑遠からず今後百歲の後、ノースウヰッチ、ブリートウード、ドロイトウヰッチ、ミンドルスボローの岩鹽採掘地方は、蒼野變じて泥海と爲る鋭に懸けて見るが如し、而も世界劣等人種の需要を充たして、大英國の國威を世界に發揚せんが爲には、敢て大英國宗祖數千年の土壤を切り賣りする事をすら忍んで爲せり。

(其十五)

世界第一の麵粉製造地を、合衆國ミニアポリスとせば、是に繼ぐ可き第

二の製造地は、確にリバプールの特有なる可し、即ち一日北岸麵粉製造所を訪ふ、先づ小麥投入の入口よりして說き起さん乎、尋常の小麥は袋を玆に傾けて、直ちに是れより投げ入れらるゝも、淤泥に塗れし小麥はあらば、別に是を入浴せしめて、洗ひ去るの機關あり、洗ひ終れば乾燥するの機關あり、乾燥終つて共に投入口に投げ入れらるゝものと知れ。

小麥は浚渫船の受泥器の如きものに受けられ、是を階上の一室に運べば、玆に數箇の篩を並べて、篩の一端小麥の湧出するを見るも、通常の小麥は直ちに搖り落され、内に混りし玉蜀黍並に土塊木片の如きもの一端篩の細き目に搖り落されず、搖られ〳〵て玉蜀黍は篩他端の孔に落ち、土塊木片其他の塵埃は篩の下に待ち受けたる、バケツの内に跳ね飛ばさる。

斯くて篩の細目に、搖り落されし適度の小麥は、再び例の受泥器に運ばれ、更に階上の大圓筒内に入る、圓筒は木製にして、内に煽風機の烈風を

送り、玆に來りし小麥の雨は、人爲猛烈の颱風に遭ひ、圓筒内に簸揚せられて、悉く其垢塵を落し去る、一度颶風を經過せし小麥は、是れより粉碎機の内に分配され、是れを粉碎すると共に、細粉粗粉もみかわの數種に分ち、木製の樋を傳ふて、更に再製の粉塵機に入り、遂に完成の製粉たるに及んで、木樋を傳ふて盛袋の鐵筒中に送致せらる、盛袋の鐵筒は細粗數種の製粉に分れて、是が出口に袋を吊せば、鐵筒上下して製粉獨り袋に滿ち、一定の量に及べば自然と是が出口を閉づ。

小麥投入の一口より、麵粉袋盛の他口に至る迄、皆器械にして殆んど人手を要せず、數階の建築物孰くに行くとして、器械の整列、木樋の上下せざるはなく、相錯雜し相混淆して殆んど順次特種の働きを辨じ難し、而も數百の職工は白粉の中に飲食して、麵粉の製法と是が盛袋に從事せり、大英白粉の鄉とも謂はん乎、製粉會社數十にして、是が職工數千に上る。

最も驚く可きは、ダイヤモンドの寸燐製造工場に在り、九エークル餘の地面に建てる、七層の大建築物、五十八万磅の資本を以て、一年前に建てられしもの、總計十六箇の寸燐製造機を備へ、目下四種の寸燐と一種の螺寸燐を製造中なるが、製造機の口に唯一人の小童あり、二寸角にして長さ五寸許りの木片を採り絶えず、是を機械の口に置くを見る、木片の原料は露西亞若しくは加奈陀より來るも、其大部は機械に合はせて切りたるを箱詰と爲し、加奈陀よりして送れるなり。

木片順次に機械の口を傳ふて入るや、直ちに無數の寸燐の軸木に切り刻まる、刻まれし軸木は約十本を一列に、鐵板の小孔に逆しまに挿さる、無數の鐵板は恰も荷物運搬機の裝置と、一般其働きは調皮の如くにして、其形狀は楕圓形の水車に似たり、小童木片を置いて機械是を軸木に切り、鐵板絶えず廻はつて、一列十本の軸木を逆しまに其孔に挿し、次より次の鐵板は、楕圓形なる調皮の如くに廻る、其内側に逆しまに整列して挿されし軸木は、恰も栗殼の刺毛、針鼠の五分刈にも似て、軸木の行列正々堂々、緩く順次に廻轉す。

廻轉の内にパラフヒンを着け、ワックスを着け、ホスホラス、グリユー、クロライド、ポッタース等の粘液印刷機のローラーに付着せるインキの如くなつて旋回する所を經過し、一々此ローラーに觸れて、軸木の頭上圓く燃藥を受け、是れより長き楕圓形の道筋を通し廻はり廻はつて、再び元の木片を挿まれし所に返る迄には、軸木に付着せし總ての製藥漸くく乾く。

木片挿入の口に近く、更に一箇小鐵帶の横に高く廻はれるあり、鐵帶内數百の仕切に區分して一區分毎に一箇紙製の寸燐箱を入るゝに適す、一小童あり、踏臺の上に立ち、側の箱内より紙製の寸燐箱を取り出し、一々是を鐵帶の仕切の内に挿さむ。

軸木行列の大鐵帶縱に廻はり、紙箱行列の小鐵帶横に廻り、廻はり〈

て軸木の箱の相邂逅する所に、軸木墜落の仕掛けありて、今迄鐵板に挿されし軸木は、一列〳〵に放ち落され、小鐵帶に飛び入るかを見れば、紙製の箱を一杯に充たして、順次鐵帶の外に投げ出せり。

軸木を盛れる紙箱の投げ出さるゝ所に、一箇圓形の机あり、次より次のマッチ箱を受け、右より左に廻轉すれば、机の周圍に數人の女工坐を占めて寸燐箱の表被を執り、是に寸燐を盛れる內箱を挿す、其始め木片の挿入より一箱の寸燐となつて仕上げらるゝ迄少くも數人の手を經て成る可きを、機械の力總て是を一臺に引き受け、少しも人手を觸れしめず、一臺の機械一日十時間を運轉せしめて、能く四百萬本のマッチを製出し得可しと云ふ。

而して是を盛る可き箱は如何、是れ亦悉皆機械なり、俵の如く圓く卷かれし厚紙を適宜の寸法に切る機械あり、寸法既に整へば、是を製箱の機械に移す、一方卷紙を置く事印刷機の如く、其一端を執つて機械にかく

れば、其兩端を折り曲げ、是を中央より兩斷し、適宜の場所に糊を付け、一箇〳〵に切り放ち、上下にレベルを張られて、他方の受け口に飛び出す平扁に押しつぶされて出づると雖も、是を延ばさば正しく箱なり。

製箱の器械は總計二十二臺を備へ、舊機は一分百五十新機は每分四百八十を製出す可く、マッチ箱張り少くも六箇の分藥を、一臺の器械總て完成し、數臺一人の小童あつて監視するのみ、十臺の新機は無慮七百人の女工に代る働きを爲す。

是が螺寸燐の工場に入らん乎、大車輪に繰り卷かれたる螺軸は、恰も糸の如く、又素麵の如くにして、切られ裝藥され乾燥して箱に入る樣、軸木の寸燐に異ならず、而も純白の螺軸は各々赤色の圓頭を受けて、鐵帶の內部に針鼠の行列を爲す、是を奇麗と云はん乎、將た之を奇妙と云はん乎。

製藥貯藏室、製藥調合室を經て、順次工場內を左右上下す、目下の機械は

十六臺、製箱機二十二臺にして、男工百三十女工二百五十を使用し、一日七千萬本の寸燐を製造し、是を加奈陀より送致せる木片の空箱に荷造りして、各地に輸出せんと計り、猶數十の機械を增設して、日毎に二億七千五百萬本の寸燐を製出するの計畫なりと、同社の取締役我に語る、各階の床は七吋の防火材、各室の戸は防火の扉、撒水器喞筒を各所に設置して、一室毎に六十の通風機を備へ、毎四分半に全室の空氣を交代せしむるなど、用意頗る周到なり、余は我邦の寸燐製造會社に斷然此新機械を輸入す可きを勸告すると共に、此機械の製造所は米國シカゴ市のダイヤモンド寸燐會社なる事を告知せん。

(其十六)

英國の砂糖精製を、リバプール、倫敦、グリノック、ブリストルに四大別せば、ブリストルは毎歲約六萬七千噸、グリノックは十七萬六千噸、倫敦は

二十萬九千噸、リバプールは三十萬九千噸にして、リバプール是が首位に在るが如し、即ち一日クロッスフヒールド、バアロー會社の精糖所を縱覽せるに、階上粗製の砂糖袋は積んで山の如く、是を階上の投入口より投げ下せば、砂糖は鐵釜の內に煮られ、糖砂の流れ骨灰を入れたる大鐵筒の內にコサれ、再び煮られて水液を去る釜中に移さる、此時迄黃色の液と見ゆる砂糖は迅速に回轉せる釜中に入つて、水液は下に去り砂糖は釜內の四周に付着するや否、暫く暇に色を變じて純白の精糖と爲るを見る、精製の砂糖は是を雪の如くに掻き集めて、工場自ら三冬の景色を呈するも、釜邊に働く職工は裸體にして、猶製鹽工場に於けるが如し。

コープスの煙草製造工場に行かん乎、煙草の葉を圓き綱にし、四角なる板にする等、皆械機の力に依れど、葉卷を製し、葉卷煙草を造る、皆數百女工の手なり、葉卷を製するには、先づ葉の廣く大なるを執り、是に細小の

葉を包んで、是に糊つけ菓子型の如き木の摸型に入れ、是を押す事少時ならば各種各樣の葉卷を得可し、婦人の前に喫煙を避くる英國にも、生活の戰爭は婦人を驅つて、是が製造に從事せしむ、舶來の葉卷を口に啣へて、開化を誇る多數の紳士よ、兄等が口にする葉卷の端は、是等アングロサクソンの婦人等が是に糊つけ猶足らず、是に一面の唾をつけて、粘着せしめしものなるを思へ、而して一本數十錢なる高價の葉卷こそは、猶歳古りて數十年來葉卷煙草に經驗ある老婆の手先と其口唾とをもて造り出されしものなれば、兄等が葉卷の高價を誇るは、アングロサクソン女工の老婆に接吻して、猶英國女皇の手に接吻の榮を得たらんが如く、誇り思へるに均しかる可し。

紙卷煙草の製法も、其大部は女工の手なり、されど煙草を刻むには數臺の大器械を備へて、一方より葉を押し入るれば、精粗望むが儘に刻まれて、他方の出口に群がり出づ。

ペピントンなる、日光石鹼製造所を訪はん乎、是は二千二百の男工女工を使役して、一週二千四百噸の石鹼を製出し、世界各地に日光石鹼を輸出すと稱へらるゝもの、工場の四周に美麗なる日光村、否村と云はんよりは寧ろ日光市を形成し、總ての職工此市に住居す。

見物の順序は是が印刷局に在り、各種大小二十臺の印刷機を備へて、石鹼を包む印刷紙より、三十二頁の日光雜誌を刷り出し、是が大機械は毎一時間に三十二頁の雜誌二萬四千冊を刷出し、各色のレベル八萬枚を印刷す可し、此印刷局には、我れ先づ荒膽を挫かれぬ。

試驗局あり、石鹼沸騰の後に二度、石鹼冷却後一度の試驗を爲し、併せて原料藥品の試驗を爲せり、是れより過ぎて木箱の貯藏倉庫、並に木材の貯藏倉庫には、木材及木箱の山を爲せるを看る、是等の木材の如何にして箱に形ち造らるゝ乎、來れ製箱の工場に。

十數臺の機械は、絶へず瀑力に依つて回轉せり、其一方には鋸機ありて、

木板を所要の長さに切り去れば、是が近隣には木板の印刷機あり、今切り去りし木板を執つて、是を印刷機のローラアの下に置けば、日光石鹸の文字は鮮明に此上に印刷せられて、次より次に他端に落つ、是等の木板を集めて、是を他端の打釘機に運べば、係りの職工周圍長短の木板四枚を合せ執り、是を打釘機の下に置くに、打釘機は上に無數の鐵釘を貯へ、磁石力の働きに依つて、一列七本の釘を上より取り出しつゝ一上一下す、今此下に箱板の釘打たるべき部分を置かん乎、七釘の尖頭是が局所に下ると共に、機械の力は上下より箱を詰めて、釘は自から木板の繼ぎ目にさゝる可し、されば茲に來るもの唯職工の木板を並ぶるを見て、直ちに箱の出來上れるに驚かん、出來の箱は荷物運搬機の上に置かれて、獨り所要の所に奔る。

機關室あり、石鹸倉庫あり、鐵道あり、油槽あり、マアシー支流に埠頭を築き、石鹸の積卸しに二臺の起重機を備ふ、石鹸沸騰室は八十四箇の釜を

備へて、内に六十噸の石鹸液を煮詰めつゝあり、是が油は綿種より紋り亞米利加並に濠洲に製油工場を有せるなり、沸騰終りし石鹸液は、釜中より木樋を傳ひ、隣室の冷却室に運ばれて、無數直立の鐵罐中に滴たり落つ、時經て冷却固結せば、鐵罐の側扉を開きて是を出だし、機械に依つて是れを切る。

適宜の棒に切られし石鹸は、是を石鹸印刷機にかくれば、先づ是を石鹸大に切り、二箇を並べて印刷機の下を潜り、四周に種々の印刷を受けて飛び出せば、茲にも荷物運搬機流の仕掛けあり、印刷終りて飛び出でたる石鹸は、一瀉千里の勢を以て運搬機の上を奔り去る、運搬機の兩側に約二十の女工あり、奔り出せる石鹸を捕へて、一々是を印刷紙に包む、其疾き事機械の如くなるも猶一端一人の小童が、絶へず棒石鹸を挿むに對して、二十の女工盡く是を包む能はず、辭して場外に出れば、數千の油樽の地上に横はれるを見る、唯啞然又呆然たるのみ。

更に轉じてバアケンヘッドのレヤード造船所に行かん乎、此造船所こそバアケンヘッド市を形成したりと傳へらるゝもの、三千人の職工を使役して、毎歳二万噸の船舶、二万馬力の機關並に汽罐を製出すと聽ゆ、マアシー左岸を占領する事十四ユークル河岸直接に三百呎乃至三百七十五呎なる、五箇の乾燥船渠を有し、目下英政府の一等戰鬪艦グローリー、アルゼンタインの練習艦、モナコ王族の御座船、智利の水雷艇等を製造中に在り、而して南北戰爭に有名なる、アラバマを製造したるも此造船所なれば、智利白露の海戰に著名なる、アルミラント、リンチを製造せるも茲に在り、上は英政府の一等戰鬪艦ロイヤル、オーク、マアス、グローリーより、下は數隻の水雷破壞艦に至る迄、皆な好成績を得て落成せり。

余は船渠郷滯在中、タウンホールに市長改選の室内に許され、保守黨倶樂部樓上國會議員選擧の大活劇を見、ヒラモニックの大音樂會に、燕尾

服にてボックスの招待を受け、種々有益の歡迎を受けたれど、今は是等を詳報するの暇なし、日本名譽領事ボース氏に就て、又マンチエスタア運河に就ては、來年再び、リバプールに歸つて、ボース氏の舞踏會、殖民大臣チエンバアレイン氏の演說會に出席の約あれば、此機を以て詳報す可し。

噫、リバプール船渠の郷！彼は余が其百分の一を記載の外に生棉、羊糸、船舶の大商會を有する數百、世界各地に航路を有し、世界各地の船舶を集め、世界各地の特産を買ふて、是を世界需要の各地に賣り、以て世界の港灣とし誇れり、是を想へば横濱、神戸、大阪なりけり、噫、日本！噫、日本！汝が東洋の英國、世界の日本！戰勝後の大國民たる、果して幾百年後の事實ぞや、醒めよ日本！起てよ日本！恥および日本！循へよ日本

○大英の落雷郷

(其一)

蘇格蘭百哩以上の長流を、ライと云ひツウヰードと云ひクライドと呼ぶ、クライドの河流は百四哩、河口ロング湖の水を合し、グリノックの岬角を廻つて海に瀉げる所より、殆んど二十餘哩の上流に遡り、河幅狹隘恰も一條の小河の如くなる所に、大英第二の都府、蘇格蘭商工業の首府グラスゴーは建てり。

グラスゴーのクライド河を挿んで位置せる、猶マンチエスタアのアーウエルに於けるが如く、リバプールのマアシーに於けるが如く、我東京の隅田川に於けるが如し。

市街の中央クライド河を横斷せる、最下流の架橋をカレドニヤン鐵道

會社の鐵橋と爲し、是れより上流數箇の橋梁兩岸の交通を便ずるも、下流は橋梁の架せるものなく、唯所々の艀舟と河底隧道のケーブルカアに依つて、兩岸の住民相交通せるのみ。一葉の輕舸カレドニヤン鐵橋の下に黑烟を殘して、クライド河を下るもの、是れぞ即ち二十餘哩の下流グリノックに航行するの小汽船にして、船上の外客は是れ中央記者が大英落雷郷を探險せんとの行なるを知れ。

纜船纜を解き黑烟を吐いて、クライド河の中流に乘り出でぬ、是れより上流右に稅關の埠頭場あるも、兩岸共に他の見る可きなし、唯是れより以下繫船々渠の終りに至る迄、兩岸約三哩半の間は、大船巨船の横付けとなる埠頭場にして、埠頭場各自の名と礮擊船舶の航海先は異なるも、其實兩岸連接の三哩長堤に外ならず、右岸第一なるをクライド汽船の埠頭場と爲し、今我船の纜を解きし埠頭場即ち是れ也。

ブルーミロー、アンダアストーン、ランスフヒルード、フヒニストン、ス

トプクロッスの諸埠頭場列を正して右岸に連接すれば、是に向てクライド、プレース、ウ非ンドミルクロフト、スプリングフヒ非ルド、ターミナス、マビスバンク、プランテイションの諸埠頭場左岸に連續し、埠頭場の上には一面に家屋を建て列ね、左右の兩岸約五十隻の大船巨船舸艦を接して、前後兩岸に相礎繫す、我船恰も船舶を以て築き成されし街路の裡を行が如し、兩岸の埠頭場に起重機の並列せるは恰も街衢の瓦斯燈の如く、其最大なるもの左岸に六十噸、右岸に百三十噸の大起重機あり。」

兩岸埠頭場の盡くる所、左右に二箇の繫船々渠あり、各々クライド河の水を導き、南北斜めに山字形を爲して市街の内に侵入す、北なるをクヰンス船渠と云ひ南なるをセスノック船渠と名づく、兩船渠共に各々水門なき一箇の出入口を有するに過ぎざるも、クヰンス船渠はクライドに並行して、是が右岸に南北の二枝船渠に別れ、セスノック船渠はクライド左岸に北中南の三枝船渠に別れ、船渠の兩岸各々埠頭の家屋を建

て、家屋直下の兩岸は大船巨船を横付けにす、グラスゴーに於ける船渠の制は、クライド河を中心とし、北岸に一箇二枝南岸に一箇三枝の船渠を開鑿したるものなれば、此邊りクライド河に並行して前後六條の繫船池を設け、各繫船地の左右總計十二條の埠頭場を敷き、埠頭場の上に家屋を造り、埠頭場の下に大船巨船を横付けにして前後六條の水道は、鍵頭形を爲して市街の陸地に侵入し、五條の陸地亦同樣の形勢を以て、船渠の水中に展張し、水面と陸地、船渠と埠頭、倉庫と船舶、相犬牙錯綜し、六條の水道是が兩岸に埠頭を設くる十二條、大船巨船是れに沿ふて礎繫したれば、グラスゴー市街の中央倉庫の内に帆檣の林立するもの幾百、眞に一場の奇觀なり。

グラスゴーの繫船々渠は、總計三箇、クヰンス船渠と云ひ、セスノック船渠と云ひ、キングストン船渠と云ふ、水面積百六十エークル、埠頭場の長さ六哩、所々に十噸乃至二十五噸の起重機を設置し、クヰンス船渠は石

炭の出荷に便じ、セスノック船渠は木材の揚陸に供する等出入の船舶と碇繫の場所に差違あるも、要は唯リバプールの船渠に異ならず、是等の船渠に縁心材の水門なきは、潮流の干満六呎に過ぎずして、干潮を水門に湛ゆるの要なければなり。

(其一三)

噫、クライドの水！二十餘哩の上流に、斯く數百の大船巨舶を航通せし、む、抑も是れ天與の神工に成りし乎、果た人爲の鬼斧に鑿たれし乎、茫て蘇格蘭人の北米加奈陀に遊ぶものあり、加入セントローレンスの巨川を指し誘つて曰く『美なる哉、洋々たる大河蘇國亦是れありや否や』蘇人曰く『然り是れありクライド是れ也』加人笑つて曰く『噫、クライド？クライド？噫、クライド一打の水を以て是をセントローレンスに注ぐとも、能く一時の水深を増減する能はじ』蘇人壁に應じて嘆じて曰く『然り其

に然り唯セントローレンスは天神の手に成れるも、クライドは吾人の手能く是を爲せり』と加人啞然答ふる所を知らざりき。

實やクライドの此河流は、今を去る事五十年の昔に在つては、其幅僅々百八十呎、干潮三呎の水深に過ぎず、干潮去れば兩岸の男女裝を提げて是を徒渉し、滿潮來つて漸く四十噸の小船を通じたりき、是を開鑿して航通に便ぜんとするの擧は、遠く千五百六十五年に其萠芽を發せりと雖ども、容易に實行の運びに至らず、越えて二百年紀元一千七百四十年に至り、愈々茲に大工事の端緒を開き、スミートン、ワット、レンニー、テルフォード諸技士の企畫する所あり、千七百六十八年ゴルボーンは浚渫船を採用し、爾來年々浚渫に怠りなければ、紀元千七百五十五年に在つて、低潮十八吋の水深に過ぎざりしもの、千八百六年には百二十噸の船舶をブルミローに航通せしめ、千八百三十九年紡績工場の建ちし所に、今は數千噸の大船巨舶を横付けと爲すに至れり、されば最近五十年間

にクライド河底の泥砂を浚渫するもの約四千万立方ヤード、殆んど六百万磅の大金を費やして、百八十呎の川幅を四百八十呎に延長し、三呎の水深を二十四乃至二十八呎に浚渫し、兩岸各二哩半の埠頭場を築き、グ井ンス、セスノックの諸船渠を開鑿し、昔時のクライド全く其面目を一新せしのみならず、ゼームス、ワットが茲に汽方の利用を發明してより、千八百十二年に竣功せる最初の船は、ヘンリー、ベルの製造に掛り、是をコメットと呼び做して、三馬力の機關を備へ、グラスゴー及グリノックの間を航海するに過ぎざりしが、今は如何數千噸の大船巨船は、世界各部の港灣と交通し、大英北部の一小都をして、今は運輸商業に於てリバプールと比肩し、製造工業に於てマンチエスタアと競爭し、百万の人口能く倫敦に次で、大英第二の大都會たらしむるに至る、グラスゴーの紋章一樹を中にし、稍に鳥あり、幹に魚あり、枝に鈴あり、而して是が紋章の銘に曰く『此樹長ひず此鳥飛ばず、此魚泳がず此鈴鳴らず、遮莫グラスゴーをして繁昌せしめよ』と蘇人興國の意氣眞に掬す可し、グラスゴーが今日の繁榮を致す亦故あるなり、而して重きは二十餘噸の蒸汽鐵槌より、輕きは進水式の當時淑女の打つ可き進水槌に至る迄、幾千万の鐵槌の音は、五十年來クライド河の兩岸に此樹長ひず此鳥飛ばず、此魚泳がず此鈴鳴らずと大空に反響するもの、是ぞ大英の落雷鄉と天下に轟く、クライド河畔造船工業の盛況と知らずや。

《其三》

抑もクライド兩岸の造船工業は、全英製出船舶の三分の二を茲に造り、三分の二以上に是が機關を供給すと稱せらるゝもの、世人英國の造船鄉を擧ぐれば、先づ指を蘇格蘭西岸のグラスゴーと、英蘭東岸のサンダアランドに屈す、而してサンダアランドは鞏固頑丈の荷船を造るに長じ、グラスゴーは優美迅速の客船を造るに秀つ。

我船クライドの中流を下り、埠頭を經船渠を過ぐれば、右に家畜揚陸場及屠獸所あり、左に三箇の乾燥船渠あり、右岸の街區をパアチックと名づけ、左岸をゴヴァンの街區と爲す、クライド兩岸の造船鄕は、茲を落雷の發端と爲し、是れより グリノックに至る、前後二十餘哩の兩岸に、隱顯點綴しあるなり。

右手の水面に離を築き、斜めに陸上に數箇の曳揚渠船を設け、陸上の船渠に三隻の汽船あり、水面更に二隻の小船を繫いで、鐵槌の響き濕然たるもの、是れケルビンホーグの修船所にして、是が對岸のゴヴァンの渚に造船臺の並列せるもの數箇、兩側に足場用の木材を樹つるもの、恰も森林の如くなるもの、ロバアト、チビヤの造船所なり、此造船所は紀元千八百十五年、鍛冶職工の子なるロバアト、チビヤに依つて創立せられし鍛冶工場に起源して、漸次に機關工場に變じ、千八百二十一年、グラスゴー、ダンバアトン間を航海ず可き、一隻の小船と是が機關を供給せしよ

り、今此盛大なる造船所を生み出せるなり、是が職工約二千人、英國政府の諸軍艦及キユーナード會社の客船を始めとして、土耳其、噠馬、ホーランド、濠州、ガラチヤ、支那、日本の諸船を造り、現に郵船會社の春日丸は頃日此造船所に進水し、二見、八幡目下製造中に在り。

チビヤ造船所に隣りて、倫敦及グラスゴー造船所あり、三個の造船臺上共に三個の新船を載せ、今舷側の鋼板を張りつゝあり、是に隣りてマツキースの造船所あり、大小船舶の造船臺に在るもの前後五隻、ダムソンの小造船所を界して、フエヤフ非ールドの大造船所あり。

フエヤフ非ールドの造船所は、千八百三十四年チビヤに通勤せし機關士の子に依つて新設せられ、當時一歲の收入二千六百五十磅にして、一千磅の賃銀を拂ひしが、其後の繁榮チビヤの造船所を凌駕して、上は英政府の諸軍艦より、下は諸汽船會社の客船に至る迄、無數の船舶を製造したれば、今は是が敷地七十エークルの上に出で、一歲平均の職工多き

は七千、少きも三千を下らず、一歳の賃銀三十七萬五千磅の巨額に及び、過去十七年間一社の造船四十萬噸、目下造船臺上に在るもの前後七隻、其四隻は英國政府の巡洋艦なり、其一隻はロスチヤヰルドのヤットなり、他の二隻はアルゼンタインの船舶なり。

船體を張り機關を組み立て汽罐を造れる鐵槌の響き、ゴウアンの河岸一哩に渉つて、囂々轟々天地を撼動するの對岸、バアチックの河岸にも亦二箇の造船所あり、イングリスのポイントハウス造船所と云ひ、アンカアラインのヘンダアソン造船所と云ふ、イングリスの造船所は千八百四十七年の設立に掛り、是が敗地三十エークル、使役の職工二千人、目下三隻の新船製造中に在り、是に隣れるヘンダアソン造船場は、新船五隻の製造中に在つて、敷地職工亦イングリスに讓らず、而も汽罐の工場は別に是を他方に移せり、右岸二箇の造船所互ひに相競爭して、足場の林の繁からん事を競ひ、鐵槌の響きの高からん事を爭ひ、而して右岸の

鐵槌相聯合して左岸五箇の造船所と囂然たる響きの高き朦々たる煤烟の黑きを爭ふ、我船中間の水流を下る、眞に落雷の中心に陷いれるが如し、而も唯是れクライト兩岸落雷郷の發端たるに過ぎざる也。

(其四)

落雷郷の發端を過き、我船レンフリユーに向つて馳す、今やグラスゴー黑烟の郷を辭し、兩岸若々たる青野を見て、蘇生の心、地爲せる暇なく、左岸にスチールソンの造船所あり、造船臺上三隻の新造船を戴す、右岸にバークレーカール、ジョンレイド、コーチルの三造船所並に一箇の修船所あり、バアクレーは七雙、レイドは一隻、コーチルは五隻の新造中に在り。

我船レンフリユーに着するや、左岸にサイモンの造船所あり、新造船の臺上に在るもの、五隻、是に隣れるロブニッツの造船所は、廣さ十五エー

クル職工千人、浚渫船及び海底電線敷設船を製造するに適し、海底四十呎の所に毎一時間五十回の打擣を巖石に與へ、一擣毎に四立方ヤードの巖石を打破し、而して是が碎片を浚渫す可き、海底巖石破碎船を造りしも、此ロブニッツの造船所にして、我海底電線敷設船沖繩丸を製造せしも亦ロブニッツ造船所なり。

レンフリユーの對岸、シヤンクベルの造船所あり、曾て郵船會社の新造船を此造所所に造りしも、今は數箇の造船臺上一隻の船影なく、足場の用材空しく林を成して恰も冬枯の森の如し、少しく離れて是に並べる造船所を、クライドバンク即ちタムソンの造船所と爲し、千八百四十六年の新設にして、敞地を有する八十エークル、職工は各部無慮三千、造船臺上の船艦前後七隻、英國政府の一等巡洋艦は、今や進水の準備中に在るも、我一等戰鬪艦の朝日は龍骨を据ゑ、縱材を植え衝角を付し横材を横たへ、而して少しく艦底を張れるに過きず。

我船ポウリングに向つて馳す、右岸に一箇の小造船所あり、水雷驅逐艦二隻小汽船一雙を新造す、船ポウリングに着するに及んで、スコットサンスの造船所あり、目下二隻の新造と一隻の修繕中なり。

ポウリングを過ぎて川幅稍や廣く、兩岸再び、デッド、スロー(最微速)の標札を看ず、船馳する事矢の如くにして、須臾の間ダンバアトンに達す、右に怪巖突兀として、水面上に隆起するもの、形狀恰も小蓬萊の如し、名づけてダンバアトンロックと呼ぶ、岩背の陸上に帆檣林立するものは、是れぞ有名なるデニー造船所にして、是れに隣れるはミランの造船所なり。

デニーは富豪、兄弟造船の學は忠實なるの結果、即ち是が造船所となり、敷地數十エークル新造中の船舶六隻、各部完備の部門を具へて、更に造船試驗池を設け、造船術上諸般の疑團を、此試驗池に依つて解釋せんとせり、試驗池は幅四尺長さ十數間、水深數呎の水槽を築くもの三條、水桶

の兩側に鐵輒を敷設し、軌上に船舶模型の試驗機を安置し、新築船舶の小模型を執つて、機下の水中に浮べ、一定の速度を以て是が試驗機を進退せば、機下の模型池中の波浪を衝破して、茲に波浪反抗の程度を機上の紙面に畫き、豫じめ船舶竣成後の成蹟如何を知らしむるもの、管てクライドの某造船所は、一客船を竣成して、試運轉の速力豫定の如くなる能はず、即ち來つてデニーの造船所に是が試驗を依頼す、デニー即ち該船の小模型を作り、是が試驗に從事する數回船體數呎を延長せば、能く豫定の速力を得可きを計り、是が結果を某造船所に報じ、試驗の指示する所に從ひ、斷然數呎の船體を延長せしめ、能く四節の速力を增加せしめ得たりと云ふ。

デニー決して列國政府の艦船を造るを肯んぜず、常に慨然として語つて曰く、我れ若し政府の艦船を造らんとならば、政府若輩の造船監督官なるものを派し、我れ其無識の指示にだも默從せざるを得ず、是れ豈造

船の學術に忠なるものゝ堪ふる所ならんやと、世人デニーの造船所を擧げて、愛蘭ベルファストのハーランドウルフ造船所と並稱す、ハーランドウルフは世界第一の造船所にして、決して造船の競爭入札に加はらず、又新造船舶の價格を先に豫定せず、注文の船舶既に成つて、是が實費と其幾分を船主に報告するのみ、愛蘇兩造船所の見識共に大に傳ふるに足らん。

ダンベアトンを過ぎて以下、川幅愈々廣くして恰も入江の如く、兩側に浮標を設置して、右は黑標なり左は赤標なり、此間左岸にグラスゴー港あつて、昔時はグラスゴー航通の船舶茲を出入の港と爲せしも、クライド河底の浚渫以來、大船巨船直ちにグラスゴーに遡つて、再び茲に帆影を留めず、而も前後にラッセル、ロベアトダンカン、ミラア數箇の造船所あり、各自數隻の新船を製造中にて鐵槌の喧聲相反響し、咿か昔時盛況の面影を殘したり、我船疾くも喧聲の裡にグリノックは投錨す。

グリノックはクライド河口の左岸、人口七万の小市に過ぎず、是が重要の精糖業は、獨國の競爭に依つて漸次に衰へ、今微息を繋げるに過ぎずと雖も、是が造船業と是に伴ふ鐵工業は益々盛大に赴き、スコッソ、ケヤーゾ、スチール、マクヘール、等の四造船所あり、各自十隻の新造船を造船臺上に安置して、前後一目の下に四十隻の新船、舳艫を駢べて相並列せるを看る、是れ落雷卿の終點なり。

噫、クライド兩岸の造船所、狹きは數エークルの敷地より、廣きは八十エークルの工場を有し、職工を使役するもの多きは數千、少きも數百を下らず、總計無慮三十四五箇の造船所を有し、造船臺上無慮百五十隻の新船を、クライド二十哩の兩岸に點綴す、されば、クライドを航行するの船客は、前後二十餘哩の間、目に黑雲の如き煤煙の滿天を蔽ふを看、耳に落雷の如き槌響の大空に反響するを聽かざるなし、足場の林後方烟霧の裡に形を隱して烟筒の森、前面雲表の上に顯はれ、汽力鐵槌の反響今や

耳底に消え去らんとして、人力鐵槌の喧聲早くも目睫の間より起る、左岸數箇の造船所去つて右岸數箇の造船所來り、小汽船の烟筒新に建てるを見送つて、戰鬪艦の帆檣將に立たんとするを迎ふ、耳は落雷の鐵槌に鼓膜を破つて、更に落雷の鐵槌に襲はれ、目は黑雲の煤烟に網膜を蔽はされて、更に黑雲の煤烟を望むに堪へず、大は一万五千噸の大戰鬪艦より、小は數十噸の小汽船に至り、龍骨を据うるの初歩より、進水の一段落に至る迄、造船歩々の順序、一として此兩岸に見る可らざるはなく、船名とし、名の呼ばる可きもの、茲に製造せられざるなし、世界有名の船舶會社は、クライド製造の船舶を有せざるなし、世界有數の海軍國は、クライド製造の軍艦を有せざるなし、世界繁榮の港灣に、クライド製造の船舶碇を投ぜざるはあらず、實やクライドの造船は最繁榮の當り年を、今より六年前なる千八百八十三年と爲し、一歲間に兩岸の造船所より進水せしもの、無慮四十一万七百噸の多額に上り、是が金額一千万磅に及ぶ、

日本全國の造船所を一所に集めて、是を十倍すとも、クライド造船所の盛況には及ばざる可く、日本戰後の船舶增加したりと稱ふるも、クライド一年能く是を新製し得可し、而して數十年來の經驗は、是等の造船所と職工を驅つて、後進國の企及す可らざる特技と熟練を有するに於てをや、又況んやグラスゴーに於ける各船の諸業クライドの造船と並び進めるものあるに於てをや、是を思へば我日の本は、此國長いず此人醒めず、此業起らず此土榮えずと謳歌せらるゝとも、余輩は斷じて是が辨解の辭なきを愧づ。

(其五)

グライド兩岸二十餘哩に、落雷の礬きを傳ふる造船所は、各自機關、汽罐の工場を備ふと雖ども、是が鋼板は鋼板製造所より仰ぎ、是が木材は木材會社より購求し、其他船內附屬各般の器具を他製造所より供給する

もの亦鮮なからず、されば、グライド兩岸造船の盛況に連れ、グラスゴー市內に船舶附屬具の製造盛んに起るを看る。

ズーラスホイットの工場は、茲に男女數百の職工を使役して、ケルビン郷の羅針盤、海底淺深測量機、船內電氣の各附屬品を作り、ジョンウ井ルソンの工場にはライフ、ブイ、浮泛衣、浮泛帶等救加一切の附屬品を具へざるなく、イングラムは製砲、クライド、ゼームスミラア、ガアミストン、ウ井リヤムクローサアの諸工場は、螺釘、犬釘等諸般の釘を製出するに任じ、ワーレスの工場は船內喞筒に特色を示し、シエヤ、ラアは檣の大より櫂の小に至る迄、船內各種の小器具を揃へ、ゼイムスゴウデイは印度ゴムを賣り、製帆工場にはジョンマクアソーレン、ダンカング、レイ、ジョウジローズ、バタアソンの諸工場あり。トマスビショップは信號旗、蠟燭其他の需品を供し、バアロー工場は、信號旗、火箭及一切の信號器具を製造す、此他船內喞筒の製造に對しては、茲にトマスロッスの喞

筒導水管製造所あり、汽罐防火の裝置にはグラスゴー汽罐覆包工場あり、諸機關の接合部をして汽力を漏洩せざらしめん爲には、石棉會社の忽ち是に應ずるあり、螺釘、犬釘の製造盛んにして、マクフワーレン兄弟商會の螺釘製出器機の製造所あり、汽罐の製出夥多なれば、リッチモンド其他の汽罐鐵管製造所大に勃興せり。

若し夫れクライド造船に、直接關係の有無を問はず、グラスゴーに直立せる、大烟筒の鐵工場を枚擧せば、スコットランド製鋼所に、四百五十五呎の高烟筒を築きて、世界第一の高烟筒と誇るを始め、ヴィヤードモーアの製鋼所には、我艦朝日の裝甲を製造中なり、ミルトンの鐵工場は、日毎に百噸の鑛鐵を鎔かして、暖爐、鐵柵、洋燈臺を造り、リッデル工場は製紙、織布の器機を製し、マクオーニーの工場は、精糖機械に名を專らにし、ダンカンスチユアートは職工千人、製糖機、水壓機、喞筒、更紗印染機染布機其他海陸使用の諸機關一として製出せざるなし。

ウ井ルソンの汽罐工場は、蘇格蘭の諸工場及東西印度の工場に、各種大小の汽罐を供し、グレンロッスの工場は、汽罐と汽力鐵槌を造つて、南米、印度諸殖民地に輸送せり、ダルマノック鐵工場は架橋の鐵器を專らにし、ドロンローン工場は、螺旋の機械一切を造る、上州、京都の商人は來れ、ゼームスライトの工場に織物機械の一切を知る可く、狹山、宇治の茶商は來れ、コブランドの機關工場に、茶葉を焙り乾かし、卷き葉を爲らしむるの機械を看ん。

フリーヒル、アーキボルベヤード、ドッビーホーブ、ダンスマーヲックソン、ウエイヤ、ダビッドカーロー、ゼームスギリス、マクドナルドモリソン、バアチル、ブルームホール、スブリングバンク、ランスフ非ールド、アヴオン、アンダアソン、ダビッドジョンストン等數十の汽罐機關工場は、一々是を枚擧せば、名のみも一卷の冊子を爲す可く、是れにフランスモーガン、アルビオンの銅工場、スチブンソンの鉛工場、エクリプスのガルバナ

イジング工場を併せ、烟筒の黑雲と、鐵槌の落雷は、市外の四周に碁布反響するに加へて、陸上の船舶とも稱す可き、汽關車の製造は、グラスゴー工業重要中の一に在り。

バイドパークの機關車工場は、千八百三十七年の設立、過去六十年間社の製出せし機關車の數は、無慮六千臺の上に出で、英、佛、以、露、西、埃及、印度、ブルマ、加奈陀、南米、濠洲、喜望峰等、世界到る處の鐵道に、此工場の機關車を有せざるはなし、今や職工三千人、毎歲二百六臺の機關車を製出し、一日半にして能く一臺を竣成するの割合なり、シャープスチュアートの機關車工場は、規摸稍や小なりと雖ども、猶バイドパーク工場と並び立つて、世界各地の鐵道會社を顧客と爲し、現に日本の諸會社に各種の鐵道機械を製造中なり、グラスゴー機關車工場は、千八百六十四年の設立、職工二千五百人を使役して、毎歲殆んど二百の機關車を製出するに至れりと云ふ。

西端二十餘哩のクライド兩岸に、數十の造船所を散布し、四周の市外は數十の鐵工場に圍繞せられ、東北隅には機關車工場と、諸鐵道會社の車輛製造及修覆工場を並列し、東南隅なるプリッタトンの附近に木綿製造の中心を爲り、セントロックスに大製藥工場を設け、七十エークルの敷地、晒し粉、ソーダ灰、結晶ソーダ、石鹼を製出して、是が一切の悪臭を四百五十三呎の高烟筒より、大空に向つて散布せんと勤むるも、餘臭芽々として猶鼻を襲ひ、遂にセントロックスをして悪臭の巷と爲さしむるもの、是ぞグラスゴーが世界に誇示する工業の盛況にして、製藥には猶スワン、デザアフヒールド、タアンブル、パークヘッドの諸工場あり、水道及瓦斯鐵管には、スチュアード、マクフアーレンストランク兩工場、セメントにはタンチルポートランド、モスリン、レイスの窓掛にはホーワット、マクドナルド及ダンカンは煙草の工場、內外玻璃會社の玻璃に於ける、プリクニヤ陶器會社の陶器に於ける、眞にグラスゴーは汽船汽

車の製造工業を首として、製鋼、製鐵、紡績、毛織、鐵管、汽罐、更紗、印染、玻璃、陶器其他各種の工業茲に其面影を存せざるはなく、其工場の多きは寺院學校よりも多く、其煤烟の霞は冬時有名の霧よりも深し、噫、グラスゴーは實に大英第二の都府として、倫敦の次に位するのみならず、其工業の盛況に至つても、慥に一箇の一小倫敦なり。

余輩グラスゴーに遊ぶや、時恰も耶蘇降誕祭と新年に際し、加ふるに機關職工の同盟罷工を以てし、殆んど唖眠中のグラスゴーを看るに過ぎず、而も余輩の目はグラスゴーの黑烟に是が視感を遮ぎられ、余輩の耳はクライドの鐵槌に是が聽感を奪ひ去らる、余輩は今や盲なり聾なり、即ち巡覽の各工場を詳記するを休めて、海山萬里唯狂呼せん、醒めよ日本、起てよ日本、愧ぢよ日本、舊へよ日本と。

○大英の不夜郷

(其一)

クイン河口を遡る事十哩、是が左岸凡一哩を占領して、機關、製砲、製鋼、造船の四工場を並列し、工場の建築物は總て百六十二棟、使役の職工二万四千人と聽えしもの、是ぞ新城プームストロングの大工場なり。

今此大工場を假りて、我一等戰鬪艦に搭載す可き十二吋の巨砲を製造すとせん乎、鐵の礦石はリーズデルなる同社所有の鐵礦山より運搬し來り、是を製砲所中央のプラストワーチスに送る、プラストワーチスは圓形鐵罐の二箇相並んで、魏然空中に聳ゆるもの、側に煽風機即ちブラストありて、機械一度回轉せば、最強至烈の猛風をプラストワーチスの内に吹き送る可く、二罐の中間エレヴェートルを備へて、礦石及コークの類を、罐上の投入口に昇降するに供す、此エレヴェートルに依つて、礦石及コークを罐上に運び、順次是を罐中に堆積し、點火して煽風機の烈

風を注げば、竈内の礦石是か薪と共に燃え、千度以上の熱度に達せば、竈内一面の火海に變じて、礦石もコークも混々たる火液、炎々たる火花に化す。

大凡ブラストフーチスの火は、是が竈底の掃除と仕事都合の外に、一年三百六十五日晝夜を分たず土曜日曜を休まず、熖々たる猛火常に竈内に燃え上り居りて、休竈再び點火せらるゝ時すらも、先づ隣竈熖々たる火氣を導き、竈内を熱して後に點火すれば、是を焚く事約十時間にして、竈内火海に變ずる可く、銑鐵の火液重きは沈んで下部に降り、スラッグの火液輕きは浮んで上部に浮游す、是に於てか竈前の砂畑は、火液の通路を開ひて、數百の鑄型を形ち造り、而して後にブラストフーチス下部の竈口を開く。

輕きスラッグは側に流れて、茲に燒石の山を築き、重き銑鐵は砂地の通路を通して、形成されたる砂畑の鑄型に注入す、竈内別に礦石の材料を

盛つて熱し、砂畑の銑鐵一面の火海なるを、砂を撒じて冷ゆるに任ず、冷えて後芋の如くに掘り出さるゝもの、ピッグアイヤン即ち銑鐵是れ也。

銑鐵を鑄て鋼鐵を製出するもの、ベスマー式、ハアベー式、シーメンス式等あり、今アームストロングの製砲工場に、十二吋巨砲の鋼鐵を製出するもの、即ちヤルチン及シーメンス式に係り、其法四壁鐵板製の竈を築き、底に煉瓦を疊んで硅石砂を散布し、上部亦鐵板に覆はれし一箇の竈、茲には數箇を列ねたれど、此一箇能く二十五噸の銑鐵を盛つて、是を火液に變ぜしむ可し。

芋畑より掘り出したるピッグアイヤン即ち銑鐵、各種鋼鐵の切屑即ちスチールスクラッツ、マンガニース、アルミニューム等は、巨砲鋼材の原料にして、精細に分析坪量したる後、之を鐵壁の竈に盛り、點火と同時に瓦斯管より一定の瓦斯を送り、是を熱する約八時間、試みに竈前の鐵扉を揭ぐれば、猛火炎々唯一面の火海にして、是を凝視するに堪へざるも、

職工の携持せる紫色の眼鏡を執つて是を望めば、竈内の火液非々音を爲して、恰も熱湯の沸騰せるが如きを看ん。

時機既に可なり、されど竈口を開いて、鋼鐵の火液を模型に注ぎ入るゝ迄、是が鋼質の適否を判定せざる可らず、即ち色彩試驗なるものを行ふ、先づ少許の火液を掬ひ執り、是を冷し是を削り是を藥液中に溶かして、是が色彩を色彩表中所要の色彩に比較し、試驗滯りなく結了せば、竈口を開いて竈内の火液をレイデルに受け、殆んど三箇の竈中より、約五十有餘噸の火液を執つて、之を鍛鐵製八角形の鑄型に注入す、是を八角形の鑄型に注入するもの、其鋼鐵の冷却に從ひ、礦質内分子の結晶をして諸力各部に等分せしめんが爲めなり、鑄型内の火液一晝夜にして凝結し冷却す、是をインゴット即ち鑄鋼と爲し、是が重量五十四噸と註せらる。

五十四噸八角形のインゴットを鑄型より出し、是が下部を切り去り、是

が中心に穴を穿ち、穴に鐵桿の手柄を通じ、旋回起重機に依つて是を鐵壁の熱竈内に運ぶ、ヒーチングフーチス即ち是れ也、熱する事約六時間にして、五十四噸のインゴットは恰も一箇の火塊なり、即ち出して是を水壓鍛展機の下に押し展す。

水壓鍛展機は此工場内總て四箇を有し、四千噸、三千噸、二千五百噸、千五百噸の剛力を以て各種の鋼鐵を鍛展す五十四噸八角形のインゴットは、四千噸の水壓鍛展機にかゝつて、上下左右より鍛ひ展ばされ、漸次に圓く長く展ぶ、斯く同一の順序を操り返すもの一日二回一週十數回ならば、圓く長く中心一小孔を有せる鋼鐵桿を製出せん、是れ十二吋巨砲の砲身即ち内部の中心なるも、未だ容易に竣功せしには非ざるなり。

十二吋巨砲の砲身其鍛展を終れば、是が兩端を切つて長二吋幅二分ノ一吋なる立方面積の試驗竿を造り、是が耐力試驗を爲し、更に同一の材料を執つて、千六百度以上の熱度に熱し、八百度内外に燒鈍し、是れより

試驗竿を造つて、茲に再度の耐力試驗を爲し、重量三十噸乃至四十四噸、展び方一割七分の試驗に合格すれば、砲身燒き入れ燒き鈍しの熱度を定め、一旦是を千六百度以上に熱し、是を鯨油の油槽に侵し、冷却の後更に八百度内外の熱度に燒き鈍し、終つて緩漫に砂中に冷却せしめ、最後に試驗竿を造つて耐力及曲り方試驗を爲し、試驗合格を待つて、十二吋巨砲の砲身全く成る、而して是が所要の砲身は、十噸以内の重量に過ぎず。

是に於てか十數噸の内筒、ジヤツケツト、コンチクチンングリング等を造り、是等を燒き砲身に脂肪黑鉛を塗り、順次是れ等を砲身上に挿入して、其冷却するに任せば、内筒、ジヤツケット等は、固く外部より砲身に凝着す可し、是れ層成砲の名ある所以にして、我十二吋巨砲更に是れより鋼線を卷き、併せて外筒を挿入せしめざる可らず。

砲身に細索を卷き、是が放發の耐力を強からしむる企ては、古人の既に

實行せし所にして、彼のゴスタウアスアドルフリス時代六呎五吋の砲身に麻綱を卷きナメシ皮を卷けるを見ば、以て此企ての遠く古昔に由來せるを知る可し、されど細索に代ふるに綱線を以てせるは、全く現世紀中葉の發明にして、紀元千八百五十五年英のロングリッジ米のウードブリッジ等、砲身に綱線を卷くの説を唱へ、其後數年ロングリッジの成功する所となり、今日の製砲中英政府十二吋砲の如きは、是が總重量四十六噸中、其綱線を卷く事砲底より砲口に及ぶか故に、全重量四分の一は綱線の重量にして殆んど一百哩の鋼線を卷けるなり、されど我十二吋巨砲は、其綱線砲底より砲身の半部に達し、更に砲口に及ばざるが爲め、太凡五噸五十哩内外の綱線を卷けりと知る可し。

綱線既に卷き終つて、是に外筒を挿入し、彈道を穿ち施條を切り、彈室藥室を仕上げ、砲底の螺施を刻み、尾栓閉鎖器を取り付くれば、茲に製砲の一段落を告げ、是をシロス若しくはリーズデルの試發場に運んで、最強

裝藥を裝し、是が壓力試驗を爲し、其必要に應じて命中試驗をも併せ行ふ、竣功の巨砲是が價値八千磅、砲架は二門掘付一臺三万七千四百磅、砲栓一基三万磅、彈丸は通常榴彈七磅、穿甲彈五十四磅、其製砲の始めより是が竣成の終りに至る迄、約三ヶ月の時日を費やす可しと雖ども、アームストロングの如き、幾多の巨砲を次より次に製造するものなれば、是が時日を竣成の砲數に割り充てゝ、平均多少の時日を省畧し得可し。

大は十二吋巨砲より小は四十七ミリ速砲に至り、是が製法一々差別ある可しと雖ども今は茲に再言の費を省き、アームストロングの工場、四七速砲の小より、十二吋巨砲の大に至る迄、其製砲の進行中に在るもの、多き時は一時に千五百門に及ぶと云ふ、以て此工場の如何に盛大なるかを想見す可く、又大砲に對する大小各種の彈丸も、通常榴彈の鑄込みて造れる、鋼鍛榴彈の鋼を鍛ふて燒きを入れたる、穿甲彈のクローム鋼を鍛ふて燒きを入れたる等、彈丸の製造並に幾筴の製造は是が製砲工場に附屬して、煩多錯雜能く筆紙の及ぶ所に非ず。

製砲工場の右側に機關工場あり、是が左側に製鋼工場と、造船所あり、造船臺は前後十箇、是が大造船臺上總噸數九千六百噸、速力二十節の一等甲裝巡洋艦、將に來三月二十二日を以て進水式を擧行せんとするもの、即ち是れ我淺間艦にして、是が隣りに同種同樣の大艦、淺間よりは少しく遲れて進水するならんと見らるゝもの、淺間の姉妹艦たる常盤是れ也、二艦と並んで龍骨を据ふたる一万四千八百噸、速力十八節の巨艦は敗島朝日と姉妹艦なる我一等戰闘艦なり、此他大小數隻の戰艦あり、進水後既に河上に浮べるもの、ノーウェー並に智利の甲裝艦あり、四千五百噸、速力廿三節半の一艦は、清國政府の巡洋艦にして、是を海天と呼び其姉妹艦なる海地は、河下に在つて機關搭載中に在り。

實やアームストロングの造船所は、列國軍艦の共進會と見らる可く、是が造船所内の監督官室は、列國海軍人の展覽會とも稱す可し、是れある

が爲に日本海軍人は、前後數千の多き此地に送られ、今現に數隻の巨艦を此造船所に並列して、三十餘名の同勢アームストロング第一の大顧客たるが故に威勢よく、支那海軍監督官の假髪を被つて往來人の注目を惹き、日本人と看ば成る可く同車同船を避け嫌ひ、家内に在つては舞踏の教師を聘して頻りに舞踏を練習せるも可笑く、智利、秘露の監督官等が、各種のコンミッションを徴せん爲に、わざと艦内の摸樣換へを頻りにして、少しも竣成の期日を急がざるも面白し、曾て龍田艦上俄然日章旗の揭揚を見て、日清の宣戰既に布告せられたるを知り、頃日智利のオヒカンス號が日曜不休の急工事を爲すを望んで、智秘將に事あらん乎、若しくは米西の國際危機に迫つて、同艦今や米國に賣られたりと風説し、狡猾の露人は何時の程にか我高砂の艦内に潛り込めりと噂せらる、眇たる一箇のアームストロング造船所、猶以て天下の形勢を揣摩するに足る。

此製砲所此造船所を備へ、更に機關製鋼の工場を有し、ローウオーカアに造船分工場あり、伊太利に分工場を設立し、以て世界一の製砲工場と誇る、英國新城はアームストロングの爲に流るゝ乎、否否新城は一アームストロングの爲に立たず、タインの河は一アームストロングの爲に流れず、是れより更に大なる工場稀れなるも、各種無數の工場は、タインの兩岸十餘哩の間を縫ふて、大英不夜の一郷たらしむ、乞ふ試にタインの河を下り看ん。

(其二)

タイン河口より十五哩の上流新城(ニューカッスル)の正西五哩にして、ニューバーンの一小市あり、スペンサアの工場は、錨を鑄、車輛のバネを造り、鋼板を引展するに有名なるもの、シーメンス式二十五噸の溶鐵爐は、鋼板製造工場の中央に五箇相並び前後十六箇の瓦斯製造機より瓦斯を導き、順次に

火海の熱湯を執つて、一噸乃至二十噸の鑄型に注ぎ、是が冷却するを待つて、更にヒーチングリーチスに灼熱せし後、是を起重機に釣り揚げて、所要の水壓ミルに投げ與ふれば、ミルは水壓の力に依つて灼熱の鐵塊を或は縱或は横に回轉し、ローラアの下を往復せしむる數回にして、是を所要の大さに切斷し、再び架橋材料のアングルに引展す等、實に容易無雜作なり。

是れより以上のタイン河は、水淺くして舟楫を通ぜず、兩岸の若野亦青々として、煤烟の汚す所たらざるも、是れより以下はタインの兩岸、煉瓦、玻璃製藥の工場櫛比甍を並べて、新城の城下に續く。

新城人は即ち北方の強なるもの、古來英蘇兩國相對峙するの要衝に當り、十八の兵營八十の外郭三百二十四の見附〳〵は高十二呎幅八呎の胸壁に圍繞せられて、要害堅固の古跡を殘し、歴史、建築、海事、商業の諸點に於て、英都倫敦に次ぐと稱せらるゝも、今は胸壁朽ちて跡なく、其紀

元千八十年代ロバート親王の築城にかゝり、以て新城の名を呼び起したる山來の名城も、市街熱闘の裡に漸く其外廓の一部を存して、少しも懐古の感を惹かず、人口二十餘萬の市府、管に旅人の目を驚かすものは、各種無數の烟筒のみ、巨萬檻樓の職工軍のみ、惡漢は外國人と見れば、最寄の汽車中に詐僞賭博を強ひ、妖女は市内第一の中央停車場を以て、彼等が漁客の停車場と爲し、リバアサイドの切符掛りは常に外人と見ば釣錢を盗む、北方の強者又惡事にも強き哉、されど是は唯一部無頼漢の所業のみ、以て新城の價値を上下するには足らず。

スチブンソンの高架鐵橋は、是が架橋數約五十萬磅、滿潮の水面上百十二呎の高きに在つて、下を人道とし、上を汽車の通路に充つ此高架橋のタイン河を横斷する所、是れ新城市の中央部にしてアームストロングの工場は、是れより上流の左岸に在り、是に對せる右岸には、ケイルス、スノーボール、レインス、ニハトン、コウエンの煉瓦工場あり、コークン、ガレ

スフヰールドのコーク製造所あり、製壜機、開鐵工、製紙の諸工場、宛然林立の烟筒を並べて相連なる。

試みに片錢汽船に乘じて、タインの流れを下らん乎、前後十餘哩の兩岸、左右二十餘箇所の上陸所を構へて、上下の輪船交通に便せり、タインの水は其新城の邊に於て、今より五六十年の古昔は、兩岸の男女裳をかゝげて徒渉せしもの、其人今に生存して、昔語りに徒渉の當時を說き誇るも、今のタインは復昔時のタインに非ず、昔時徒渉の男女能く我八島艦のアームストロシグ造船所より、高架橋の下を潛つて、下流に降るを目擊せり。

高架橋の下左側に、一哩の埠頭を築いて、各種の船舶群集するもの、是ぞ所謂キイサイドにして、木材、麵麭粉の類陸上に充滿し、穀倉より外國家蓄物產所あり、是が對岸ガリック、ロングデルの機關工場、ブライセス、チビルの玻璃工場、ハッキーの鋼索工場、アポットの錨鎖工場あり、如何に

して、錨鎖の製出せらるゝかを一見せん乎、鐵塊を燒き、順次のミルに通過せしめて、太き一箇の鐵棒を造り、是を切斷機にかけて、斜めに一定の長さに切斷し、再び燒いて屈曲機にかけ、馬蹄形に屈曲せしめ、既に冷却したる後、三度燒いて繼ぎ合はし、錨鎖成るの後、試驗機に依つて、引き展ばし、弱きを去つて入れ換ゆるなり。

鐵工場の喧ぴすしき、セメント工場の全建築物灰色に垢染たる、製藥工場の惡臭紛々たる、陶器工場の無恰好なる烟突を並べたる、兩岸殆んど立錐の地なき迄に、各種の工場を並列したる中間を下つて、輪船今やオースバアンの上陸所に達す。

スミスの製繩工場は、オースバアンに在つて其名世界に高く、炭坑起重機、ケーブルトラム、空中繩架道、艦船用、架橋用一切の鋼線繩を製出せり、工場內各種大小の製繩機は絕えず回轉するに從ひ、鋼線は是が周圍の枠より來り、中心の麻綱は製繩機の中央より出で、周圍の鋼線中央の麻

綱に會する所より、器械回轉のヨリは鋼線にかゝつて、漸次一種の鋼索を製出せり、從事の職工婦女子其半ばを占む。

輪線オスバーンを發し、右にタイン引揚船渠を見左にランゲルの製藥工場、カスレイの錨鎖工場を見て、輪船停船所に無數の小輪船を碇繫したる傍ら、恰も雞群中の一鶴の如く、巍然たる大艦ホーソロン機關工場の直下に繫げるもの、艦首雙龍の赤玉を爭ふの彫刻あり問はずして清國の二等巡洋姉妹艦、海天海地の其一なるを知る、艦長三百九十六呎、艦幅四十六呎、吃水十六呎九吋、總噸數四千三百噸、速力二十四節、八吋砲二門四七速砲十門、三吋速砲十二門、三十七ミリマキシム砲十門、是が水雷發射管五基を備へ、我吉野高砂よりも稍や長大に稍や高速なるもの、輪線中の人皆余輩を顧み、此清艦を指し示して『復貴國の捕獲艦が二隻出來た』と打ち笑ふ、咄日本は支那を醒まして共に外敵に當らんが爲めに戰へ、支那にして一旦醒むるの時ありせば、海天海地は我同盟の海城

と知らずや。

(其三)

左右兩岸にアルカリ、グリース、製鉛、製藥、粉骨、陶器、コーク、鐵工の諸工場を看過して、輪船ウオーカア上陸所に達すれば、右岸にウードスキンナア造船所あり、道船臺上四隻の新造中に在り、左岸にアヽムストロンゲの分工場なる、ウオーカーの造船所あり、我浪花、高千穗、吉野、高砂皆此造船所に製造せられ、目下五隻の造船臺上に横はれるあり、露政府の碎氷船は形狀最も奇にして、殆んど舳艫を辨別し難く、總噸數四千三百噸速力二十三節半なる、我高砂の姉妹艦は既に進水の曉に達せるも、未だ列國政府の來り購ふものなく、我高砂同樣頻りに顧客を求めて、此出來合ひ軍艦を何處にか賣り付けんとせり。

ウ井ガムリチヤードソンは、我商船會社の打狗丸を新造せし造船所、目

下造船臺上三隻を並べ、進水後の船二隻あり、機關汽罐の兩工場を併有し、特に四重膨脹機關の製造に著名なり、リチヤードソンに隣りて、タイソン浮揚及乾燥船渠會社なり、浮揚船渠二箇、乾燥船渠一箇を並べて、乾燥船渠内には我高砂が試運轉前入渠せるなり。

是れより以往各種工場の中間に造船工場の點綴するもの多く、右にホーソロンの造船所あり、造船臺上に二箇の滊船あり、水上に二隻の英政府水雷破壞船あり、乾燥船渠内、異樣の荷船は、是そトクスフオート造船所が特許を得たるターレッドシップにして、船主はドクスフオード速船所に特許料を支拂ひ、而して是をホーソロン造船所に造らしむるも、猶其價廉なるを得と、案内の役員我れに誇れり。

左岸デビス及スワンハンタアの兩造船所あり、スワンハンタアの造船高に於て、全英無數の造船所中、優に第二位を占めしもの、ベルフワストのハーラレドウルフを以て首位と爲し、昨年の造船高八万四千二百四

十噸、スワンハンタアは四万八千五百七十噸を以て第二位を占めぬ、目下造船臺上に在るもの三隻、水上に浮ぶもの二隻、其一隻は六千餘噸十八節の大船、是が舶に日の丸の扇を刻みて船標と爲すもの、頃日無事に進水したる、我東洋汽船會社の亞米利加丸也。

全英各地の造船所は、露國が雪中の煉瓦造りの建築物中に造船せるが如きに非ず、日本が雨中に粗造なれども、造船小屋の内に造船せるが如きに非ず、昔日の木船時代若しくは現時のヤット製造の如きは所々に造船小屋内に新造せらるゝを見るも、近時宏大の鋼鐵船に至つては、造船臺下の地盤を固めて、是か左右に造船足場の木材を樹てしのみ、風雨寒暑に打ち曝らして、毫も顧みる所なきに係らず、獨りタインのスワンハンタアのみは、宏大壯麗の造船家屋二箇を建設し、鋼鐵の柱骨玻璃の家根、魏然雲表に錄えて、此屋内に六千噸以上の大船を造るもの、蓋しタイン河上の壯觀なり。

造船家屋は長さ五百呎餘、幅七十呎、高八十呎、是が家根裏に鐵軌を敷き、重量三噸を揚ぐ可き、移動起重機二臺を設置し、電氣力に依つて瞬く暇に思ふ所に所要の材料を運送す、一箇の鐵板を新造船上に引揚げんとして、十數人半時間を費やし、ヱンヤラヤの掛け聲四周を慨動する、我日本の造船とは、殆んど天地の相違なる可し。

彼の西班牙政府が、バナ港に設置したる一万二千噸の浮揚船渠はスンハンタァの製造に掛り、長四百五十呎、幅百九呎、水深四十六呎、一時間六千噸の海水を吸み揚ぐる喞筒を有し、如何なる大船巨舶と雖とも、是を浮揚げ修覆に便せしむ、是が新造費十二万五千磅、此船渠は昨冬汽船ラベス號に曳かれ、緩航三哩の速力を以て、前後二ヶ月間に太西洋を横斷し、六千五百哩の長途恙なく、今やハヾナに安着せり、同社更に獨國ステッチンなるボルガン造船所の注文に掛る、長さ五百十呎幅百十呎、水深四十一呎、排水喞筒六千五百噸、能く一萬千噸の大艦を浮ばしむ可き、浮揚船渠の製造中に在り、我邦近時船舶の增加著るしく、所々に乾燥船渠會社の設立を見るも、未だ容易に其落成を期す能はず、今後船舶益す增加して、乾燥船渠の需要愈よ多からんとす、此際浮揚船渠會社を組織し、數千噸の浮揚船渠數隻を新造し、以て內外船舶の入渠に供するも、亦有利確實の一事業なる可きを信ず。

是れより下流右岸にスチブンソンの造船所あり、臺上二箇の新船を据ゑ、對岸ウオルゼンドの渚に繫げる一隻の小艇形狀恰も水雷艇に似て、艇上發射管の裝置あるなく、一箇の煙筒太く短かく、普通煙筒を三分一に切斷したるが如きもの、是ぞ有名のタァビナ號にて、秘密の裡に製造せられ、試驗の結果能く四十節の高速力を得たりと云へり。

ヘイドの製鐵工場は、右岸に七箇の大竈を並べ、ヘッバアンの炭坑は平地よりして無數の炭塊を採掘せり、左岸に木材の棧橋高く長く、遙か彼方の丘陵上より河面に向つて築き出され、棧上炭車の自働せるもの、是

れ石炭搭載用の棧橋にして、船舶此下に碇繫せば、シュートを受けて上より石炭の雨を降らすなり。

バアマアの造船所は、鐵工場、乾燥船渠、自轉車製造所をも併有して、臺上大小の船舶五隻、進水後の英政府三等巡洋艦ベカサス、バイラマスを河岸に繫ぎ、側に水雷破壞艦二隻を横たへたり。クラレンス、タイン、エドワードの諸造船所は、セメント、製繩、精銅諸工場の間に散在し、以てジャロースレイキに至る、ジャロースレイキはタイン河中の入江にして、タイン河改修委員の木材は皆此入江に貯藏しあり、外國軍艦竣成の後、將に本國に廻航の前常に此邊に碇繫するなり。

ジャロースレイキに向つて、一條の石垣タイン河を縱斷し、石垣の內石炭搭載用の棧橋を築き出すもの六箇、棧橋の下に各種の帆檣林立するもの、是をノーザンバアランド船渠と爲し、恰もジャロースレイキの如き入江を、一箇の石垣に依つて河面と遮斷し、二箇の出入口を設けて渠內干潮の河水を堰ふるに過ぎず、是を隣れるアルバアト船渠及之が對岸のタイン船渠は、築造の規摸稍や大にして見るに足る。

ユドワード、タイン、ミッドル、バアカース、スミスの諸船渠會社は、兩岸相對して恰も干瓜を並べたらんが如く、是よりタインの海中に注ぐ所に、兩岸櫛比の市街あり、北岸を北シイルド、南岸を南シイルドと稱へ、兩市盡くる所の海岸、南北より花崗石の突堤を八字形に築き出し、兩突堤の尖端に燈臺を設け、海將コリングウードの紀念肖像は、西班牙砲臺と共に北シイルドに吃立せり。

是を要するにタイン河兩岸十五哩の間埠頭、造船、船渠、製藥、セメント、玻璃、煉瓦陶器、鐵工、機關製砲製鑵、精銅、精鉛の各工場を並列し、至る所に機關運轉の喧聲雷の如くなると、烟筒の煤烟雲の如くなるを以て埋めたるもの、而して輸入は礦石、藥品、木材、穀物、家畜、輸出は石炭、コーク、鋼鐵器、製藥、玻璃、陶器等にして、石炭のみの輸出毎歲五百萬噸、昨年造船の總額

二十一万千五十噸の多きに及び、偖に東北沿岸造船各地の牛耳を握れり、今クイン兩岸十二箇の造船所と、是が昨年の進水船舶を擧ぐれば左の如し。

スワンハンタア造船所	十一隻	四万八千五百七十噸
バルマア造船所	十三隻	四万三百十九噸
アームストロング造船所	十三隻	二万九千二百四十二噸
タイン造船所	五隻	一万八千二十噸
リードヘッド造船所	八隻	二万三千六百五十九噸
ウイガムリチヤードソン	八隻	一万八千二百十七噸
ホーソロン造船所	十四隻	六千四百四十九噸
ドプソン造船所	十二隻	一万八百六十二噸
スキンナア造船所	七隻	七千百二十六噸
レンノルドソン造船所	七隻	千三百七十一噸
エルツリンガム造船所	九隻	千六十八噸
エドワート造船所	廿五隻	六千百四十七噸

クインの河水假令黑しとも、オン、タインの名は是が兩岸に喧びすしき

鐵槌の響きと共に天下に響き、兩岸滿天の黑烟と共に世界を蔽ふ、而も是れ唯大英の不夜郷たる、ダラム州の北角一新城に過ぎず、更に是れよりサンダアラレドの造船と、ミッドルスボローの製鐵工業を巡視せずんば、未だ共に大英不夜郷を談ずるに足らず。

(其四)

英蘭造船業の中心たる東北沿岸の中央に位して、機關職工の同盟罷工なかりせば、偖に東北沿岸造船各地の牛耳を握る可かりしサンダアランドは、新城の東南數哩、ウ非ヤア河口に跨れる、人口二十万の一小市の『みゝ』是が舊名サンダア即ち『水流に依つて、他より隔絶せられたる陸』より起り、遂にサンダアランドと呼ばるゝに至れりと云ふ。

サンダアランドの造船所は、ウ非ヤア河口より四哩の間、是が兩岸に無慮十三箇所の造船所を並列し、機關瀝鑵の諸工場是に伴ひ、製陶、製壜、破

璃、セメントの各工場是が中間に散在す、而して是が最要の造船業は、紀元千三百四十六年トマスメンヴィルの設立に掛り、毎歲二志の造船稅を僧正に納めたる、一箇微小の造船所に起源せり、千八百十九年の頃、サンダアランドは既に世界最要の造船業地として認められ、是が造船所は總計五十四箇所の上に出でしも、當時製出の船舶は、唯木造の小舟のみ、到底現時十三箇の造船所が、毎歲製出せる總噸數に及ぶ可くもあらず、試みに三十餘年以前の造船額を擧げて、是を現時の造船額に比較せん乎。

千八百六十三年	百七十一隻	七万噸	平均四百十噸
千八百七十三年	九十五隻	九万九千三百七十一噸	平均千四十六噸
千八百八十三年	百二十八隻	二十一万二千三百十三噸	平均千六百八十五噸
千八百九十六年	八十四隻	二十一万八千三百三十九噸	平均二千五百九噸
千八百九十七年	五十四隻	十八万千二百九十七噸	平均三千三百五十七噸

ウヰヤア河は、クライドの半は入江の如くなるに似ず、ダインの前後十

數哩を通じて、略ぼ同樣の河幅水深を保てるが如くならず、又サンダアランドの一小市がウヰヤア河に於けるの關係も、グラスゴーの如く、クライド二十余哩の上流に在るに非ず、彼の新城がダイン十哩の上流に在つて、以下の兩岸恰も黑陀十哩の長堤の如く、嬋娟爛熳たる千株の櫻花咲き香ふ代りに、數百の烟筒兩岸に並列して、滿天爲めに闇く、日月爲に光りを失ふ如きに非ず、サンダアランドは實に南北シヰルドのダイン河に於けるが如く、直ちにウヰヤア河口に位置し、是が河幅も廣からず、是が河上に遡るも、河流最要の部分は、唯數哩の上に出でず。

されはサンダアランドの造船も、又隨つて彼のクライドが二十餘哩の兩岸に、四十四箇の造船所を配置して、煙筒の煤烟鐵槌の反響、近く相和し遠く相應ずるが如くならず、又彼のダインが十餘哩の兩岸に、前後十二箇の造船所を散布して、各種工場の煤烟内に碁布點綴せしむるが如くならず、實にウヰヤア河は、其河口より數哩の兩岸に於て、十三箇の造

船所五十有餘の造船臺、各種三十餘隻の船體を据ゑ、是に稱へる機關、瀝罐の製造工場を點綴せしめて、鐵槌の雷電煤烟の雲霞、同時同所に集散せるなり。

河の兩岸既に然り、されば河流の汀にも、既に進水を終つて、未だ機關、瀝罐を裝備せざる、無數の船舶を兩岸に繫ぎて、ツ非ヤア河を逆るの船舶は、恰も船舶と船舶とに築き成されし、船舶街衢の中間を來往するが如し、加ふるに川幅至つて狹ければ、數千噸の大船兩岸の造船臺より、若し直角に進水せば、勢ひ對岸に衝突せずやと訝からる、今兩岸の造船所と、是が造船額を擧ぐれば左の如し。

タムソン造船所	十隻	三万三千百七十六噸
ドキスフオード造船所	九隻	三万六百七十四噸
ショート兄弟造船	十隻	三万五百六十噸
サアレイング造船所	五隻	一万五千九百三十七噸
ロバアトタムソン	六隻	一万五千四百三十六噸
ブリーストマン	五隻	一万二千六百六十噸
ブルマア造船所	四隻	一万八百六十八噸
バアトラム造船所	三隻	一万六百二十八噸
オースチン造船所	四隻	七千七十五噸
ヒツカアスジル	二隻	五千九百五十四噸
サンダアランド造船所	四隻	四千六百六十噸
オスボーングラハム	一隻	二千百八十五噸
ストランドスリップウエー	一隻	千四百八十四噸
全總計	十三造船所	六十四隻	十八万千二百九十七噸

タムソン造船所が、我商船會社の安平、臺南諸船を新製したるが如き、サアレーイング造船所が、我東洋漁船會社の日本丸、香港丸の製造中に在るが如き、ドキスフオード造船所か、ダアレット船と呼ばれし、少しも積荷の多からん事に注意せる荷船に特許を得て、既に此種の船舶數十隻を製出したるが如き、孰れも精査詳報の價値ある可しと雖ども、今は暫らく後日に讓つて、茲には實際五千噸の新造船を、サンダアランド各造

船所の競爭入札に附し、是が船底鐵板の据付より、最後廻航の落成に至る迄試みに之を我邦造船業者の一と對照比較するを得ば、容易に天地宵壤の差違を發見するに難からじ。

日本の一造船所をして、五千噸の新船を設計せしめよ、先づ有數の造船學者が額を集めて、是を學理の蘊奥に照らし、精慮熟考一月を閲するも、猶且つ設計の圖面を得る事難かる可し、既に是を得たりとするも、彼の學者先生等が休むに似たる考へに隨ひ、實際茲に五千噸の船舶を製出せば、是が製出の實費は果して幾許にして、是が竣成の期日は果して何月何日を要す可きや、若し是を極言するを許さば、是が主任の造船所は、殆んど新船製出後の損得如何を判定するだにも躊躇す可し、されどサンダアランドの造船業者は是に反し、如何なる大船巨舶と雖ども、能く一週日ならずして是が設計の圖面を備へ、期日を定め代價を附し、望まば是れに要す可き職工幾人鐵板幾枚リヴェット幾箇をも即時に算出するを看ん、是等の相違は抑も何處より來るとする乎、曰く唯過去の經驗のみ、彼等が過去の經驗を貴ぶに切なる、當初設計の造船より、詳細綴密の圖面と記錄を寶藏して、三百乃至五百に至り、多きは庫内に山を爲す、而も彼等がドラフトメンの二三名は、常に製圖の餘暇を以て、現時若しくは將來の造船に對し、熱心詳綴の記錄を作りつゝあるを看ん、是れ彼等が新船を設計するに於て、少しも苦心を要せざるの秘訣なり、我國の造船所にして未だ是等の實行なしとせば、余は啻に造船業者のみならず、各種萬般の商工業に於て、眼前利益の見る可きなきも、遙に十年の將來に於て積座爲山の、此丹精を積まん事を希望せざるを得ず。

更にサンダアランドを去つて、ミッドルスボローの境に入らん乎、脚下の地中には數十の大鐵鑛あつて、數千の鑛夫孜々鐵鑛を堀り出せば、大空に聳立せる數十のブラスト、フローテスより、昼は黑雲夜は火焔立ち昇つて、ミッドルスボローの地中は空虛に堀り穿たれ、ミッドルスボロ

ーの地上はブラスト、フリーテスより山づるスラッグの山を築けり、而して此所より大英著名の銑鐵を産出せんが爲には、數十のブラスト、フリーテスより晝夜不斷の火烟を噴出して、大英不夜の焦熱地獄を現出せり、目に此不夜の鄉を睹るもの誰か覺えず狂呼せざらん、醒めよ日本！起てよ日本！愧ぢよ日本！奮へよ日本！と。

○大英火花の鄉

數千の烟筒は魏然空に聳えて、其筒口より立ち昇れる火焔汽烟炭煙は、晝夜二十四時間斷なく、天に五色の煙烟を張ぎらせ、地に炭紛滴の吹雲を散らし、空は烟霞の裡に埋もれ、街衢は炭紛馬糞に汚れ、赤き煉瓦茶色の雀白皙の兒女迄も、皆石炭より作り出されたらんが如くに黑く、滊笛の響き機關の震動と相和して、少時も止む時あらざれば、セフヰールドの市街に入るもの恰も艘上に浮んで靜平の航海を爲せる心地す、然り彼等は航海を爲せり、大英國てふ巨艦をして、是が希望の彼岸に到達せしめんが爲には、セフヰールドも確かに此巨艦内機關部の一として働きつゝある也。

セフヰールドは製鋼を以て天下に著れ、ヴヰカアス會社は製鋼を以てセフヰールドに冠たり、即ち一日ヴヰカアス會社長ヴヰカアス氏の招待を受け、同行の士二十餘名と共に製鋼の方法順序を一覽す、蓋し豫じめ時刻を計り、製鋼の順序を定めて、特に我等が觀覽の便宜を與えられたるなりき。

工場内の一部なる鎔鐵場の兩側に四方凡二間許りの竈を築くもの左右十箇、竈内鐵を盛り竈下石炭を焚く事十時間、竈内の鐵塊は鎔解灼熱恰も一團の火なり、鐵塊變じて火となるの頃を計つて鐵道の貨車を形どり、長さ二間幅一間許りにして四壁及底を煉瓦に壘み、上に蓋なく下に車輪の臺あつて、鐵軌の上を往來せる鎔鐵運搬の貨車を、竈前の鎔鐵

注出口下に運び、鐵槌一下注出口を開くと共に、鎔鐵混々貨車の中に流下する如くに整備して後、茲に愈々竈前の鎔鐵注出口を開く。

看よ一度鎔鐵注出口の開くと共に、炎々たる一大火塊巨億紛塵の火花と散り、恰も奔流の盤石に激して泡沫を迸しらしむるが如く、幾萬の爆竹一時に發火したるが如く、弗々壁を爲して鎔鐵運搬の貨車内に注入する樣、唯火塊の飛沫花火線香の如く、下に向つて迸注するを見て、少しも礦鐵の形貌と其礦色を見ず、是れ既に礦鐵に非ずして唯火炎のみ。

鎔鐵注出口の上に漏斗を設け、マンガニース其他の藥品を漏斗より盛り、火花と共に運搬車内に注入せしむ、此藥品の量目配合是れ猶刀鍛冶の湯加減に於けるが如きものゝ一なり、竈内の鎔鐵出でゝ運搬車内に滿つる時、瀉罐車あり是を押して、鐵軌の上を摸型のある所に運ぶ、長方形なる運搬車内の鎔鐵は、赫灼鮮紅の液體となり、洋々形に從つて搖ぐ、無數の鬼あり顏は炭紛を被つて石炭の黑きよりも黑く、身に虎皮すら

も斯く迄の使用に堪へざる可しと思はるゝ垢衣を纏ひ、手に長き鐵の熊手を執つて或は竈内の火を搔き廻はし或は炎々燃え上る鎔鐵の火の車を押す、鐵を鑄て火に變じ液に變ずる斯く迄に容易なるは、殆んと人間業に非ざる可しと疑はるゝと同時に、火の車を押せる黑面垢衣の勞働者は、宛ながら地獄變相の黑鬼なり。

黑鬼は鎔鐵の火の車を押して、摸型の在る所に運ぶもの二臺、共に是が注出口を開きて、摸型内に迸注せしめ、巨億の火花車を出でゝ摸型に注ぐの奇觀を顯ず、斯くて一團の火炎は、摸型の形に從つて液體となり、冷ゆるに從つて摸型通りの固形體となる。

固形の鑄鐵長さ約一間半、幅約一間、厚さ約四尺、長方形の一端に圓く手柄の如きものを附し、重量四十噸内外もあらんかと思はるゝを、鍛鐵の工場に移し、鑄鐵の手柄に長さ十數間太さ一抱へにも及ぶ鐵棹を挿合せしめ、百五十噸を揚げ且つ運ぶ移動起重機に依つて、場の兩側に設け

し十箇内外の鍛竈中、其孰れにか先頭の鑄鐵を挿入して、竈前の鐵扉を閉ぢ其間隙に泥土を塗り、茲に再び竈内の鑄鐵は、炭火の力に依つて其中心より、一團の火塊となる迄に熱せらる、廣さ二疊敷厚さ四尺重量四十噸にも超ゆる鑄鐵を順次其中心迄燒き込むには、是を竈中に挿入してより、鐵扉を開き鍛壓機の下に附する迄、殆んと二昼夜四十八時間の長時間を要すと聽けり。

竈門一度開け赫灼たる火塊の鑄鐵、移動起重機に依つて竈外に引出さるゝや、移動起重機は唯一人の手柄を旋回するのみにて、他は悉く水壓の力に依り、此灼鐵を場の中央なる鍛壓機の下に置く、鍛壓機是をハイドリック、プレッスと名付け、一萬二千噸の剛力を以て鑄鐵を壓搾するの力を有するもの、即ち富士艦一隻を鑄鐵の上に置けると同樣の力を以て下壓するものを、世界第一位の鍛壓機と爲し、亜米利加の或工場には使用せるも、未だウ井カァスの製鋼所には採用し居らず、今や鐵塊の

挿入されたる此鍛壓機は八千噸の實力を有し、灼鐵の此下唇機の上に挿まるゝと共に、水壓の力は通じて上唇機は八千噸の力を以て順次に降下し來り、輕く灼鐵に觸るゝと見る間に、四尺有餘の灼鐵は漸次に厚さを縮ませつ、鑄鐵内の資質は變じて堅緻となり、外皮は剝げて兩側に落ち散る、上下より壓搾し、左右より壓搾し、遂に斜めに是を壓搾するに及んでは、當初の厚さ殆んど其半ばを減ずると共に、鑄鐵變じて鍛鐵となるも亦其筈なり、鍛鐵三度火竈中に挿入せらる。

三度火竈内より引出されたる鍛鐵は、移動起重機に依つて、鍛展機の下に置かる、鍛展機は下に十數箇の圓筒鐵棹を敷き、上に一箇の大圓筒鐵棹を支へ、上下共に水壓力に依つて、此圓筒鐵棹を旋回せしめ、赫灼たる鍛鐵を上下の鐵棹内に挿むと共に、上下の鐵棹廻轉せば、厚く短かき鍛鐵は、漸次に薄く長く展び、觀者唯火の如き飴を見て少しも鐵を見ず、往復數回厚さ其半ばを減じて、長さ當初の二倍にも及び、上部の鐵棹愈々

降下して益々壓搾の剛力を逞ふし、此下を潛過す可き灼熱の鍛鐵は、收縮展張其極に達して、今や殆んど其餘地を存せず、而も鍛展猶數回ならば、灼熱鐵棹を潛過するに際して、爆々火炎を發す、此機を計つて灼鐵の上更に薪を加へ、強ひて鐵棹の下を潛過せしむるや、猛火焰々鐵棹の左右に燃え上り、囂々轟々場内を撼動して、火炎此工場を焦爛するに非ずんば、震動此建築を顚覆せんかと疑はる、蓋し天下工業隨一の壯觀ならん歟。

鍛壓鍛展兩機の下に鍛冶されたる鍛鐵は、移動機重機に依つて場外に運ばれ、車臺の上に煉瓦を疊みて長方形なる、運搬貨車の底に砂を敷き、其上に鍛鐵を置き、中間に木炭を挿入して、鍛鐵を復其上に合はせ、上部再び砂を以て頭充し、汽罐車の力を藉つて、車臺の儘是を十餘箇の窯中其孰れかに挿入す。

窯口の間隙に煉瓦を積み泥土を塗り、炭火を以て順次に是を熱するに

從ひ、木炭内の炭素は漸次に游離し鍛鐵の間隙に進入して、其資質を堅緻ならしむ、是れハーベー鋼製出進行の一要點にして、近時は木炭の使用を廢し、瓦斯を以て是に代ゆるの法流行せりと云ふ、ヴ非カアス會社亦此新法を採用して、目下瓦斯窯の築造中に在りと聽けり。

木炭游離の炭素を吸收して、資質堅緻となりし鋼鐵は、更に是を他の籠内に移して、火塊の如く灼熱せしめ、其中心に及ぶを待つて、移動起重機に依り引出し、是を撒水機の下に安置すると共に把柄一旋巨萬の水流は、上部に架したる圓管の小孔を通して、點々滴々灼鐵の上に落ち、注下の水流と蒸發の白汽は、漠々として撒水機を霞の内に包み、朦々たる白烟は一道の雲となつて大空に立ち昇る。

斯くの如くにして冷却せられし灼鋼は、其表面急に冷却せられて、内部容易に冷水の力を受けず、表面のみ俄かに冷へて、内部は漸次に冷ゆるが故に、其外皮のみ無比の堅緻を極むると共に、内部は外皮に比して稍

や柔軟の資質に殘る、是を切つて其切口より覗ひ見ん乎、恰も木綿に纖ぐに絹を以てせるが如く、内部の鋼質粗柔なるに引返へ、表皮の鋼質支縮堅緻なるを見る、試みに六吋の鋼鐵板に對し十二珊砲の近距離射擊を試驗せしものを見るに、鋼鐵彈の管に透徹する能はざるのみならず、射擊の場所のみ飴の如く潰み、少しも波動の龜裂を他の方面に及ぼさず、是れハーベー鋼の特色にして、此鋼若し外硬内柔の特性を有せずんば、一箇の受彈能く其被害を鋼板の全部に波及せしむるの恐れあるなり、是を以て船の裝甲常にハーベー鋼を採用するものなりと聽ゆ、今や我等が其製鋼の順序を一覽したる鋼鐵は、多くは我一等戰鬪艦敷島の艦側鋼板に掛る、鋼板の製法茲に順覽を終る、乞ふ去て鋼砲製造の順序を一覽するを得ん。

長さ四間許りにして中心に彈孔を有せる鋼鐵の鐵棒は、其幹略砲身の形を備へて先頭附着の鋼鐵猶球形の儘に殘るを、移動起重機に依つて

火竈の中に挿入し、先頭一圓の火塊となるを待つて、是を竈中より引出し、半圓形なる窄狀の鍛壓機の下に置き、左右上下より是を壓搾する事數次ならば、灼熱の鋼鐵は飴の如く、其中心に挿入せる鐵管の周圍に、圓く既成の砲身と同一の形狀に展ぶ而して是に挿入せる鐵管中には、喞筒を繼ぎて絶へず冷水を送り居れば、灼鋼既に砲身を形成するに至つて、容易に砲身の部分より拔き去るを得可く砲身の長さ豫期の度數に至る迄は、灼熱鍛展更に同一の順序を追ふて、茲に砲身の大躰に形成する事、猶飴屋の飴を展ばすと同一の容易を見る。

砲身の大體既に形成せば、是を高さ十間有餘の起重機に鈎り上げ高架の鐵竈内に挿入して、其中心迄灼熱せしめ、火塊に變ぜし砲身を引出して、是を鯨油の油糟に挿入し、是が腐蝕を去らしめて後油糟の中より引出して砲身磨の工場に移す、砲身磨の工場は、總て電氣力を應用し、土塊の如く又木材の如き鋼鐵を、切り削り又磨きて、是を最後の鋼鐵に

顯ずるもの、總て機械の力に依つて、十數間なる螺旋鐵棹の自ら回轉し、自ら磨け行くものあり、十二吋大砲の砲身砲底を刻み且つ磨くあり、クランクシャフトの已に礪磨を終りて光澤を發するあり、未だ機械にかけられずして、土塊の如くに横たはるあり。

鋼鐵の車輪を製する工場には二重圓點の形せる灼鐵は初め火窟の内より現出され、轆轤の側に運ばるゝと見る間に、小圓點は大圓點に引き延ばされ、遂に燃え上る車輪となつて終れるを、喞筒の水に鋪を落して、是を場外の地上に投げ出し、一箇を終れば更に一箇の製造を始めて、瞬く内に數箇を製出したるが如き、鋼鐵板を切り削り穴を穿つ工場には ドリ、ングマシイン、ソーイングマシイン、ローリングマシイン等各種各様の大機械あつて、宏大堅緻の鋼板を、其意の如くに切り削り曲げ穴を穿つ等、恰も工匠の木材を使用するに異ならず。

始め是を火に變じ、液と爲して流れしめ、飴と爲して展び縮ましめ、炭素

を加へ、驟雨を注ぎ、遂に木材と爲して斷穿削自由自在なるに至つては、鐵殆んど顏色なしと云ふ可く、人智の發達機械の進歩は實に造化を凌駕せんとすと嘆稱す可き而已。

後再び、セフヰールドに遊び、四周の諸工場を順覽するに及んで、セフヰールドはポックット洋刀の小より十二吋大砲の大に至る迄、大瓦鐵を火にして製出し得可きもの、セフヰールドにて製出せざるものあると知れり、噫、セフヰールドは其全市を火花の鄉に變じて、以て大英の光輝を世界に放たしむ、是を想へば日本の各市府、醒めよ起てよ恍ぢよ舊へよ！

○大英錦繡の郷

余輩幼より歴史を讀んで、クイベアの紫色カシユーマアの織物等の記事に及ぶ毎に、卷を掩ふて是れ歴史に非ず、何となれば英雄決戰の記事

にあらざればなりと誤想せり、何ぞ圖らん今大英錦繡の鄉たるヨークシヤアに入るに及んで、世の所謂文明開化なるものは、即ち茲に存在せるものなるを曉れり、看よリーズ並にブラットフ、オート附近の諸工場は、羊毛を毛糸に紡ぎ毛糸を毛織に織り成して、恰もランカシヤア四周附近の木綿糸と一般、ヨークシヤア一圓何處に行くとして毛織の錦繡を織り出さぬ所なく、襤褸を變じてマンゴーと爲し、是と混じて織り成せる東洋向きの毛織より、列國宮殿の裝飾たるべき撰毛特染の錦氈迄大凡毛織とし呼ばる可きもの、ヨークシヤアに製出せられざるはなし、醒めよ日本起てよ日本！愧ぢよ日本舊へよ日本！日本眞に東洋の英國たらんと欲せば、日清の勝戰を誇るを止め、常勝臥薪以て平和の大戰爭に打ち勝たざる可らず。

○マンチエスタア運河

（其一）

『惡疫流行、洪水氾濫、破船衝突の起源地こそ即ち是れマンチエスタア運河也』とは、リバプール人の運河に對する常套語なり、然りマンチエスタア運河を航行するの舟人、皆てクイアオイド熱に冒されたりき、數年前運河の水門積水に破られ、沿岸各地を浸したりき、一隻の船舶其操縱を誤つて、水門附近に破船したりき、始め八百万磅の豫算遂に千五百万磅を費し、猶今日に完備する能はざるより、マンチエスタア人自らも決して是を成功と云はずして失敗と稱す、然りマンチエスタア運河は、是を取支商法の十露盤上より割り出して、確に失敗の一なる可し、されど三十五哩半の長き、內地のマンチエスタアを變じて、世界各港灣と直接の交通を爲す可き、人爲の一大港灣たらしめ、恰も尋常鐵道の頭上に高架鐵道の汽車を駛するが如く、マンチエスタア運河の頭上にブリッジウ

オータア運河を横斷せしめ、橋上橋下船舶の檣上亦船舶を通航せしむるが如きは眞に天下の壯觀、工藝技術の大成功と嘆稱するも溢美にあらじ、殖民大臣の演說我名譽領事の舞踏會、共に招待の榮を擔ふて席末に列せしも余輩の興味は彼に非ずして是に在り、來れ讀者よ、いざ共に惡疫流行難破衝突の起源地として、リバプール人に蛇蝎視せらるゝ世界一の大運河を航行し看ん。

マンチエスタアに水利の便を利用する事、紀元後六百二十年の昔より認識せられ、アーク及アーウエル二川の相合する所、是が船舶の發着點たりき其後千七百八年、水利增進の說起つて、是が印刷に付さるゝに至り、千七百二十年國會の諸川改修令となり、千八百二十四年運河開鑿の萌芽を發し、千八百四十年再び運河說の勃興を見しも未だ實行の運びに至らずして、殆んど消滅せんとするが如くに見られしもの四十有二年。

千八百八十二年三度運河說大に起り、是が猛焰は千八百八十五年八月六日を以て、マンチエスタア運河開鑿令を裁可せしめ、千八百八十七年十一月十一日最初の土功に着手し、千八百九十三年十二月十八日マンチエスタア港灣及び稅關諸則を發布し、同三十日運河落成船舶通航の認可を受け、千八百九一四年一月一日を以て運河を公開し、マンチエスタア船渠は出入の船舶七十一隻、同年五月二十一日女皇ヴヰクトリヤ是が開通式を擧げさせ玉ふ。

是が運河の出入口は、リバプールの港奧マアシー左岸のイザムよりし、ランコーン、ワリントン等を經て、マンチエスタアに通ず、全長三十五哩二分の一、水深の平均二十六呎、河底の幅員百二十呎、唯ラッチホード及バアトン間を九十呎と爲すも、バアトン水道よりマンチエスタア船渠に至る、前後三哩の間は百七十呎なり、是を水深二十六呎河底幅員七十二呎のスエズ運河水深二十三呎河底幅員八十八呎七吋のアムス

タアダム運河に比するに、優に世界運河の首位を占むるに足る。

運河公開の千八百九十四年間、遠航船舶の運河を通航せしもの總計二千四百隻、是が積卸の商業品は九十二萬五千六百五十九噸、運河航過稅二九萬四千六百五十六磅、翌五十九年間の通航船は三千百十三隻、商業品百三十五萬八千八百七十五噸、航過稅十三萬六千七百五十九磅、目下マンチエスタアと直接貿易を爲すの世界港灣は百四十餘ヶ所、運河會社の所有地面積四千六百エークル恰も倫敦市六倍の面積に跨り、繫船船渠はランコーンに六箇、マンチエスダアに八箇、總水面積二百五十餘エークル倉庫は總て四十五棟、埠頭は約六七哩、運河附屬の內外鐵道七十五哩、沿岸四十餘ヶ所に工事を起し、前後五ヶ所に水門を設置し、漸次に通航の船舶をして、最初のイーザム出入口より六十呎の高地に昇り進ましむ、此運河と連絡を有する運河總て十四箇、會社の資本總計は千五百四十一萬二千磅、商品航過の噸數は百九十六万三百六十八噸、運河稅

十九萬八千四百四十五磅。

《其一三》

一隻の漁船容量千噸許り、早朝黑烟を張ぎらせてリバプールなるクヰンル船渠を出んとす、是ぞ新城のシリヤンプリンス號にして、船上の日本人は船主より便乘の許可を與へられし中央記者也。

我船船渠を出で、マアシー河の中流を遡つて進む、入江の如く彫れしマアシーの左岸、斜めに浮標を設置せるもの是れ、イーザムに於ける運河の出入口にして、我船右に赤標左に黑標を詠めつゝ、是が中間を直進す、赤標の列外三隻の火藥貯藏船を碇繫せり。

我船漁笛を吹き鳴らしつゝ、左右の浮標と水冊の中間を進み、前後に曳船を附して緩航イーザム水門に達す、イーザム水門は運河最初の出入口にして、右は陸地の若野を穿ち、左はマアシー水中に埠頭の如き堤防

を築き出したり、此堤防と陸地の中間、縦に小判形の浮島を疊み上ぐるもの三箇、河口の流水此浮島に遮ぎられて四叉を爲す、緑心材の水門あり、一叉毎に前後各々二箇。

イーザム水門の前面は、之が河幅三百呎、小判形の浮島三箇、頭を並べて縦に河口に横はり、緑心材の水門是が中間を閉鎖せるもの左右三箇、右端の鐵扉は水門にあらずして、門内排水機の裝置せられしなり、右側の大門長六百呎幅八十呎、中央の一門長三百五十呎、幅五十呎、左側の小門長五十呎幅三十呎、是が大門は以て千噸以上の大船を通ず可し、

我船滊笛を吹いて大門前に待つ少時、右側大水門の前門は、兩岸の守衛其手柄を一推すると共に、水壓の力に依つて緑心材の門扉左右に開く、前面の曳船先に進み我船是に繼ぎ、後方の曳船全く水門内に入るに及んで、守衛其手柄を一曳せば、先に開けし緑心材の門扉は水壓力に依つて元の如く堅く閉しぬ。

我船今や長六百呎幅八十呎の水門内に横はれり、前を望むも緑心材の門扉を閉し、後を顧みるに緑心材の門扉なり、左右の兩舷石壘みの埠頭に接し、前後の舳艫緑心村の門扉に觸る、我船恰も乾燥船渠の裡に進み入れるが如し、是れ猶可なり、されど看よ後方マアシーの河水低く、前面マンチエスタア運河の河水高く、水門一つを境界として河水の高低數呎の上に出づるに非ずや、我船今在る水門内は、我船茲に入らんとする時、其門前を開きたれば是が水面マアシーの水面と平均して、數呎低き所に在り、而して行く方の後門を隔て、マンチエスタア運河の水は、確かに數呎の高所に在り、門内の船は低き谷間に在つて、門外の水は高き丘山の如し、是を如何んぞ能く我船をして此山に遡らしめんとするや。

最右端に設置せられし鐵扉は、是ぞ即ちスルイス機にして、茲には總計二箇を備へ、地中水道の鐵管に依つて、水門内の水を排出す可く、復充滿せしむ可し、看よ水門内の低水は、此スルイス機の働けると共に、運河内

部に敷設しある鐵管の蓋を開き、運河の積水を水門内の低所に導き水門内の低所に導き、水門内の低水と水門外の高水を相平均せしめんとするや、門外の積水鐵管を傳ひ、綜々波紋を爲して水門内に渦卷くに非ずや、是れ即ち運河の高水鐵管より此水門内に注瀉するにて、門内三隻の船は其水の湧出すると共に、數呎の上に浮き上げられ、今は運河と門内の水面高低なしに平均したれば、兩岸の守衛後門の手柄を一推して、綠心材の門扉左右に開くると同時に、我船水門を出でゝ運河に進めり、此間約半時許り。

右に牛羊牧畜の蒼野を見、左にマアシーの河流海の如くなるに沿ひ、緩航五哩の微速を以て進行する事數哩、左岸に一箇の繫船々渠を設け、長さ六百呎周圍の堤防一哩、是を名づけてエルスマア港と呼び、一箇の修船所と小曳揚船渠あり、以て通航船の修覆に供す可し、長さ二百哩半に及べるシヨロプシヤア聯合運河は茲を最後の終點としてマンチエス

タア運河と聯絡を通ぜるなり。

進む事一哩にして、左岸に浮揚及乾燥船渠會社あり、浮揚船渠は長三百呎幅七十呎、一箇の帆船此上に在つて目下修繕中なるを見受けたり、此附近直徑十二吋のサイホン機二箇を河底に沈設しマアシーの水を吸收して運河の水深を保たしむると聽き及べるも、其沈設の場所を確むる能はざりき。

ソルトポートは千八百九十二年七月の新築、是れよりチエシヤの製鹽を輸出するに便し、少しく進んでウヰバア河口と、マンチエスタア運河の相會合せる三叉に達す、右に長二百三十九呎幅四十二呎八吋の水門を設け、重量各々五十噸幅三十呎のスルイス機十箇を備へ、十三呎低き運河より十三呎高き河流に船舶を浮び上らしむるもの、是れ浚渫の功に依つて其二十一哩間を航通に堪へしめたる、ウヰバア河即ち是れなり、河口に並んでウヰバア繫船小船渠あり。

我船進んでランコーン停船場に來る、停船場は運河の所々に是を設け、上下の船舶相會するの時、其一隻を茲に停船して、他の一隻を航過せしむるもの、恰もスエズ運河の停船所に異ならず、停船所を過きて、右に長四百呎幅四十五呎の水門を看る、是れマンチエスタア運河と、ブリッジウォーターア運河と相連絡する所、我船今や中間のマンチエスタア運河に在り、左方マアシーの河水を敷呎の下に見、右方ブリッジウォーターア運河の水を十呎の上に眺め、前後三段に大船小船の相航走するを望む、猶地下、平地、高架の三線幅輳して、汽車の上に汽車を馳せ、汽車の下に又汽車を馳するが如し。

此邊の右岸ラーコーン船渠を開鑿し、タイダルアルフレット、フェントン、アーノルド、フランシス、舊船渠等に別ち、總水面積百四十七エーカル、埠頭千五百呎、起重機、浮船渠等を備へ、陶器、原料、木材、鐵材、穀物、石炭、食鹽等の輸出入に便ず、船渠出入の水門長二百五十呎、幅四十五呎、我船進ん

でランコーン鐵橋下を過ぐ、ランコーン橋はマアシー最下の橋梁にして、マンチエスター運河の上に架せるもの。

ランコーン鐵橋を過ぎ、緩航少時にして、第一旋回橋あり、船舶通過の時に際して、水壓の力能く是を右岸に旋回せしめ、船舶の航過を待つて再び兩岸に架するもの、是れより以往前後七ケ所に此種の旋回橋を架設し、以て運河兩岸の交通に供す、最大の旋回橋は重量千八百噸、次は千八十三噸、六百八十噸、六百七十三噸、最小の旋回橋を五百七噸と爲す。

旋回橋を過ぎて、高架鐵道の鐵道あり、我船是が橋梁下を過ぎ、時に汽車の頭上を馳せ、去るを見る、鐵橋を重量千九百四十六噸、是を最大の鐵道橋と爲し、是れより以往マンチエスタアに至る迄前後五箇所の鐵道橋は、常に運河の頭上を横斷せり。

鐵道橋下を過ぎて、ワリントンに來る、ワリントン繫船々渠あり、ワリントン運河の河口と、マンチエスタア運河の河口と丁字形に相連絡する

の所長百五十呎幅三十呎の水門あり、航走少時二十歩水門に達す、是はランコーン及ラッチホード運河の最終點にして、長八十五呎幅十九呎六吋の水門を設く、以上の各水門は其裝置に於て、イーザム水門に均しと雖ども、是等はマンチエスタア運河と相連絡せる小運河の出入口にして、マンチエスタア運河通航の我船には、唯兩岸に是れあるを看るのみ、此水門を通過するにはあらず、されどイーザム水門より約廿一哩にして、運河の中央第二の水門を設置して、十六呎半の積水を湛ふるもの、是をラチホード水門と爲す。

ラチホード水門は、太小二箇の綠心材水門を設置し、其大門は長六百呎幅六十五呎、小門は長三百五十呎幅四十五呎、スルイス機は總計三箇を備へて我船門内に進み入るや、萬斛の積水スルイスを傳ふて水門内に湧出し、瞬く暇に千噸の大船を十六呎以上に浮み上げしむ。

ラチホード水門を經過するや、左岸バアチントンの石炭搭載所あり、水面積二十エークル埠頭半哩前後鐵道の連絡と起重機の裝置あつて、一時間能く百六十噸の石炭を積み込ましむ可し。

ラッチホードより以上の水門總て三箇、アーラム水門と云ひ、バアトン水門と云ひ、モードウヰル水門と云ふ、是が長短總てラッチホード水門に均しく、一門毎に幅三十呎のスルイス機四箇乃至五箇を備へ、通航の船舶をして多きは十六呎より、少きも十三呎以上に溯らしむ、されば運河航通の船舶其始めイーザム水門を入つてより、是が最終點たるマンチエスター船渠に投錨する迄には少くも六七十呎の高所に昇り來れるなり。

運河中最大の奇觀とも云ふ可きは、蓋しバアトン水道にあらん乎、是はブリシウオータアの小運河をして、マンチエスタア大河運を横斷せしむるの計畫に成り、兩運河の十字形に相會する所、マンチエスタア運河の頭上に、長二百三十五呎幅十八呎水深六呎、重量千四百噸の鐵製ス

バン二箇を架設し、以てブリッジウオータア運河の河水を渡し、運河の頭上に運河を開き、河水の頭上に河水を流し、船舶の頭上に船舶を航通せしむ、蓋し天下の奇觀なり。

是が運河の最終點なる、マンチエスタア繫船々渠は總計八箇、其名稱及び大小廣狹左の如し。

ポモナ第一號船渠	長七百呎幅百二十呎	
同　第二號同	長六百呎幅百五十呎	
同　第三號同	長六百呎幅百五十呎	
同　第四號同	長五百六十呎幅百五十呎	
オードサル第五號同	長九百八十呎幅七百五十呎	
サルフオード第六號同	長八百廿八呎幅二百廿五呎	
同　第七號同	長千百七十七呎幅二百廿呎	
同　第八號同	長千三百五十呎幅二百五十呎	

見が總水面積百四エークル半を有し、埠頭は五哩二分の一、水壓及び汽力起重機を設置するもの七十箇、能く三十ハンドレッドウエートより、

三十噸の重量を揚卸しするに便じ、外國家蓄上陸所は、廣さ十二エークル默三千頭を揚陸す可く、其千頭は倉庫の裡に飼養す可し、生棉の貯藏に對しては七層の倉庫十三棟あり、穀類其他に對する倉庫四層にして七棟あり、其他の倉庫一覽表は左の如し。

七層樓の倉庫	十三棟
四層樓の倉庫	七棟
二層樓の埠頭倉庫	六棟
一層の埠頭	十七棟
埠頭稅關	一棟
棄貨埠頭倉庫	一棟

總計四十五棟の多きに上り、船渠、埠頭、倉庫水門、皆電燈を點じ諸船渠の四周總計九十四箇のアーク電燈あり、是を商業上の點より見て是が收支を計算せば、マンチエスタア市民の自稱せる如く、是が運河は一大失敗たるに歸す可く、リバプール市民の是を譏議するが如く、無用の長物

に似たりと雖ども、英國内地交通の縦横無盡なると、世界近世工術の進歩よりして是を見ば、マンチエスタア運河は實に英國氣力の化身とも見るに足らん、而して英國内地の鐵道は蜘網の如く、四周の河流皆舟揖の通ぜざるはなきに係らず、更に無數の運河を開鑿して、貨物の運輸に便ずるを知らば、英人の交通運輸に苦心せる實に至れり盡せりと云ふ可し、今試に全英運河三千八百廿七哩中、其最大なる十餘運河の一般を付記して以て、我船の航海略記を終ふ。

運河名稱	航通哩數	資本金額	運輸貨物
アイヤア及カルダタ	九三哩	二、六二二、〇四二	二、三九七、三五九
バアミンハム運輸	一五九	三、五五一、八一六	八、七二四、九三一
カヴエントリー	三三	五〇、〇〇〇	三六五、三三〇
愛蘭グランド	三六一	六六五、九〇〇	未詳
グランド接合運河	一九〇	一、三〇三、七〇〇	一、四六五、四五八
リーコンサーバンシー	二八	一八八、六五七	五〇〇、〇〇〇
リーズ及リバプール	一四三	一、六二六、七三四	二、二四一、〇五一
マンチエスタア運河	三五	一五、四一二、〇〇〇	一、九六〇、三六八
アリツジウオータア	四二		
北メトロップ	一〇	一、六六三、七九五	一、〇六六、四一三
ロクデル運河	三五	五三八、三五五	六一六、四二七
シヤーブ子スグロースタア及バーミンハム新船渠	一六	一、二三九、九五一	一、〇〇〇、〇〇〇
シユロプシヤア聯合	三七		
ストチトホードシヤア	二〇〇	一、二二四、二七一	未詳
ツレント及マアシー	五一	三〇五、四八四	七四二、九二〇
ヨーウ井ツク	一一九	一、四六一、六七二	一、二四八、二一九
ナプトン運河	二二	一五〇、〇〇〇	三八三、一七三
ウ井ーバア	一四	九八、〇〇〇	二一八、〇一七
	二〇	一九三、四四一	一、一六八、一六九

○ウ井ンゾア王城

紳士『女皇陛下は時々此高塔にお登りあつて、四周の景色を御詠覽ましますや』

守兵『否君よ陛下は御齢老いて玉體肥えてましませば、二百餘階の此高塔。

絶えて御登覽相成らず』

紳士『されば皇族方は如何に』

守兵『然り君よ皇族方は能くお登りあらせられて、古昔より英國一と稱へられたる四周の景色を御詠覽あらせ玉ふ』

紳士『否とよ守護兵此の景色を英國一とや、何ぞ世界美觀の一と云はざる』

和田の岬に勝安房守の築きにし、圓塔砲台に似て、其大さ是に數倍し、四周石もて煉瓦の如く疊み上げたる二百三十呎の高塔、塔は小高き圓丘の上に建てられ、此入口より暗黑の石階、其幅約一間半許りなるを辿ッて、上に〳〵と登り行くに其兩側にはくの字形を爲し、其尖端を僅かに切り開きたる窓ありて、窓石の厚さ二尺にも餘りつ可し、登る事約百階にして行き當りたる面前の壁間、暗中更に黝黑の光芒を放つて登る我等を睥睨するは、七五珊にも擬ふ可き舊砲の石壁を穿つて其砲口を

透貫し、最後の血戰敵此石階に迫るあらば、一擊微塵に打ち碎かんと擬するなり、塔の備砲は是に留まらず、圓塔の四周更に石壁の外郭を繞らし、二十餘門の舊砲は外郭の壁間に砲口を揃へて、四周の敵を粉齏せんと搆へたり。

砲口の石壁を透貫して最後の防禦を固めし場所より、螺旋の如くに折り曲りたる石階を登る事、復百餘階にして高塔の最頂上に出づ、塔頂の展望所其幅一間、圍く大なる二重圈を畫き、圈と圈との中間に疊み上げたる石道あつて、圈の內部は遙かに低く此塔內に建てられたる建築物の家根を見下し、圈の外部は四周三十餘哩の天地を寸眸の裡に縮めて、實に一幅の好パノラマたり、塔の頂上更に一箇の小塔其南隅に聳へて、小塔上英國旗の軟風に飜へるもの、是れ大英國ウ非ンゾア王城內の高塔にして、塔上に立てる熊皮帽の兵士は守護兵、高帽の紳士は中央新聞記者にあらずや。

英京倫敦の北西約五十哩、テイムス河の右岸高地聳へて小丘を爲せる所に、英國一の美觀酋寶と稱へらるゝも、其實天下屈指の美觀世界最大の王城たるウヰンゾア王宮は建てり。

實やウヰンゾア王城は、其起源をノーマン時代に發し、エドワード懺悔王に依つて、ウエストミンスタア寺院の僧侶に與へられ、ウヰリヤム勝軍王に依つて購ひ返され、ヘンリー一世二世の增築する所となり、茲に生れしエドワード三世は四周の舊城を毀ちて新宮を築き、ジョージ四世よりヴヰクトリヤ女皇に依つて、九十萬磅の資を投じ最後の增築を完成され、余が今立てる高塔を中心にして、是が右方を上苑とし、是が左方を下苑と爲す、下苑の西面に鐘塔あり、ガアタア塔あり、サリスバリー塔あり、塔の盡くる所西より南に折るゝ所にヘンリー八世の通御門あり、門を界して古昔武門武士の舍營甕を並べ、知事塔及ヘンリー三世塔は南面にあつて天に聳へ、是に對せる北面には、聖ジョージ寺院、アルバ

ト寺院を裡に包で各種各樣の建築物あり。

上苑を裡に裹んで、ノーマン御門に界せる北面外方にエリサベス女皇の御館あり、ヘンリー七世の建築物あり、ジョージ四世塔、コーンウオール塔、ブランスウヰツク塔あり、此内方を國家館とし、是に對せる南面の外方には惡魔塔あり、エドワード三世塔あり、ジヤンカスタア塔あり、ジョージ四世の通御門あり、ヨーク塔、オーガスタ塔、ヴヰクトリヤ塔あつて、此内方を國賓館とし、國家國賓の兩館を南北の兩翼とせる東面に、今代女皇の御館聳へたり、女皇御館の後方亦ウエルス親王塔あり、チエスタア塔あり、クラレンス塔あり、最後方に禁苑あつて、珍木異草此内に栽植せらる。

下苑の西隅なる厩すらも、其建築費は七萬磅を超過しぬ、下苑中央の聖ジョージ寺院は、一千四百七十四年に始まり、ヘンリー八世の完成する所、女皇の父君ケント侯を始め、シヤアロット内親王、獨帝フレデリク三

世の大理石像は壯嚴目を驚かす可く、是が地下室は皇室の菩提所とし て、ケント侯、ヘンリー八世、チャールス一世、ジョージ三世、ジョージ四世、ウヰリヤム四世の墓所あり、諸王の遺骸を此内に收めたり、是に隣れるアルバアト寺院は、ヘンリー七世の建築にして、一時大僧正ウルジーに讓與されしも、ジエームス二世の時是を皇室に恢復し、ジョージ三世地下室を設けて皇室の墓所と爲し、ヴヰクトリヤ女皇其亡夫アルバアト親王の爲に、是を修築して其遺骸を茲に葬り、是をアルバアト寺院と名づく、四壁大理石の聖經像は、二十八色の大理石を集め、床に五色の大理石を敷き、窓に五色の玻璃を張つて、アルバアト親王の祖先を畫き、アルバアト親王アルバニー侯、クラレンス侯の白色大理石像は、寺内の各所に飾られたり。

下苑を去り高塔の左右、右に聖ジョージの通御門左にノーマンの通御門を經て、先づ國家館より拜觀せん乎、大玄關にはヴヰクトリヤ女皇の

肖像と、ポルチオよりの戰利品なる青銅砲を据へ、隨身控への間には四壁古今の武器を飾り、印度よりの戰利品なる四箇の青銅砲を並べ、壁上玻璃を覆ふて、掲げられし鋼鐵の楯は、佛王フランシス一世よりヘンリー八世に贈られしもの、金と銀との象嵌は以太利有名の彫刻師に依つて刻まれたり、ウエリントン侯の肖像は、ウオータールーの戰利品なる佛國の三色旗をもて其背後を飾られ、テルソンの肖像は其の旗艦ヴヰクトリー號の檣の一部に安置せらる、檣は佛艦の砲彈に依つて其中央部を貫ぬかれ、彈痕黑く哨藥に燻れる光景、觀る者をして坐ろにテルソン戰死の當時を追懷せしむ。

聖ジョージの間には、ジエームス一世よりジョージ四世に至る、英王の肖像額を集め、ヴアンダイク、レリー、ラア、ローレンス等有名の畫工に依つて畫かれたり、ルーベンの間にはルーベン揮毫十一種の名畫を掲げ、ヴアンダイクの間にはヴアンダイクの名畫を陳列し、ウオータール

ーの間にはウエリントンを始め、ウオータールー戰爭に關係ある、戰士政治家の肖像畫を掲げ、一時は此間を陪食の間に用ゐ、又宮內演劇の間にも用ゐられたり、御前會議の間には高貴著名の大畫三十五幅を掲げ、ザツカレーの間にはザツカレーの揮毫に成れる陸軍畫多し、此他女皇出御の間、拜謁の間等、莊嚴美麗譬ふるに物なく、所々に女皇在位五十年祭の當時各國帝王より捧呈したる珍品異寶を堆積す、就中英領印度の捧呈に掛る二尺有餘の黃金佛の如きは、光輝彩爛四邊を拂ひ、淸國贈捧の寶玉如意の如きは殆んど顏色なきが如し。

國家館に、相對せる國賓館は、構造裝飾共に國家館に髣髴たり、此兩館を左右兩翼に控へし女皇御座の間には、讀書の間あつて、マイケロアンゼロ及ラフエールの名畫を掲げ、ルーサアの聖經、ヂツケンスの公刊せざる小說原稿、チヤールス一世のシエキスピア戯書等を飾り、廊下室內至る所にチエルシア、ドレスデン、東洋諸國高貴の陶器を安置し、世界各國

の珍品奇寶を此館內に集めたらんかと疑はる、遺がに大英國をしろしめすヴヰクトリヤ女皇平常起居の御館なり。

宮內一巡の拜覽と云はんよりも、寧ろ夢中に龍宮を辿れる如き思ひを爲して、交代去來應接に暇あらざる珍品奇寶の間を經過し、再び中心の高塔さして攀ぢ登れば、天は低く頭上に低れて碧空恰も拭ふが如く所所に彩雲の靉靆くを見、地は廣く脚下に連なり一望萬里、若野青々春の海の如し、透迤百折碧水潺湲として靜に流れ、若野を縫ひ王城を繞つて馳する曲水の銀河、是れテームスの上流にあらずや、南方遙かに森々たる小丘のいと神さびて見らるゝもの、是れ女皇の母后クント夫人の菩提所ならずや、雪ケ岡にはジョージ三世の騎馬像聳え、千八百エークルの大公園には數千の麋鹿群を爲して鬱蒼たる樹の間に眠り、カンバアランド侯の掘りにしヴアジニヤの泉には、綠水涯を湛へ魚躍る、北方の蒼樹斷續せる間に、巍然古代建築の上半身を顯はすもの、ヘンリー六世

の創立に掛り、チヤタム、プオックス、カンニング、ピール、ウエリントンを此内に育成し、今猶貴族子弟の育成所たるイートン大學即ち是れなり、東方遙かに烟霞の渦づ卷き昇るもの倫敦にして、尖塔幽かに大空に沖するもの水晶宮の尖塔と知らずや、蜿蜒長蛇の白烟を蒼樹の間に吐くものは各所に行き通ふ汽車にして、閑鷗綠波の上に眠るが如き白帆はテームス河上を上下せる帆走端艇なり、一望四周三十哩山なく丘なく際涯なく、上には碧空下には綠樹、世界の大觀是に至つて極まる、余は唯筆を投じて嘻ウキンゾア王城！と嘆稱せんのみ。

嘆稱是を久ふして、天公更に余輩の爲に一段の奇景を添へんとする乎、南風遙かに吹き起つて、白雲蒼樹の間より群がり、南天の烟霞多少の樓臺を蔽ふて明又滅、北空獨り晴れて天地一碧、身は塔上半晴半雨の裡に在つて、古往今來ウ井ンゾアの歷史を懷古すれば、佛蘭西ジョン王の囚虜として聾がれしも此王城内にあらずや、スコットランド王ジエームスが、二十年間捕虜の身として、牢獄の窓より貴女ビユーフオートを見染め『貴女の去りにし其後は日を夜に變へし心地ぞせらる』と唄ひしも亦此王城内にあらずや、ランニーメードの岡はジョン王の大憲章に署名せし地、テームスの河畔蒼樹蓊々たる裡は、プオックスの生れし場所なり、北方公園韮猶暗き樹間の途は、深夜チヤールス一世王を此城内に護送したる其途ならずや、シユキスピアの記しけるハアンの樫は雷に打たれて枯れたるも、ノーマン人の殘したる塔内秘密の井泉と間道は、今猶古昔武人の用意を示す。

是等史上の光景も亦遠きが如く近きが如く、眼界天地の光景晴雨の裡に在る如く、心界史上の光景明滅の裡に來往し、天下の絶觀茲に至つて極まる、余輩は唯筆硯を燃いて『嘻ウ井ンゾア王城』を嘆呼せんのみ。

○金剛石祝典前記

（其一）

女皇今や英國内を漫遊して、蘇格蘭のバルモラル宮殿内に在り、來六月十八日を以てウヰンゾル宮城内に還御せらる可く、翌十九日の夜は八分隊より成れる各陸軍は、ウヰンゾルに松火運動を試みんと準備中なり、二十日には諸皇子諸皇孫ウヰンゾル王城にて在位六十年の祝賀あり、英國内各寺には在位六十年の感謝の祈禱あり、女皇は諸皇族と共にフロゲモーアの寺院に臨御、ウヰンチエスター僧正の説教あり聖餐式あり、各國賓はウヰンゾル王城内の聖ジョージ寺院にて祈禱あり、越えて廿一日午前十一時を以て女皇の馬車愈々ウヰンゾル王城に出で、十一時十五分大西鐵道の汽車に搭じて倫敦に入御せらる。

此日女皇乘御の汽車は六車より成り、女皇鐘愛の車室は恰も新造の如く修覆され、始め四十三呎なりしを五十四呎に改造し、中心は鋼鐵にしてマホガニー材を以て是を覆ひ、内部の所々に獅頭を飾つて鋼鐵を隠し、外面は焦色を以て之を塗り、所々に國章及金線を飾る、車内の天井は白地に彩色畫を貼し、椅子及腰掛は青色の絹レースをかけ、敷物及窓掛等亦青色の織物を用ゐ、室内數顆の電燈は意の儘に移さる可く、車扉の手柄及其他の鑛物は總て銀なり、中央を女皇の玉座とし、前後に侍從の室を付す、汽罐車は『印度女皇』號是を率き、スロー、ラングレー、西ドレートン、ヘイ、サ、ウスオール、ハンウエル、アクトン、ウエストボーン公園等沿道裝飾の各驛を經過し、通常三十五分間を以て倫敦パデントン停車場に着御の例なるも、常時よりは五分を遲れ、正午五分前に倫敦着御の豫定にして、此停車場には女皇はパデントン住民の頌德表を受けらる可く、是より各街道住民の出願を容れ、鹵簿は諸街路を迂回し、倫敦街、オキス

フォード街、グンブリッジタレース、グランドジャンクション道を過ぎ茲に宏大なる凱旋門を通じて、エッヂウエヤー道に廻り、マリルボーンより、ハイド公園の大理石門前に建つ可き凱旋門を通り、ハイド公園隅角よりコンスチトユーションヒルを經て、バッキンハム宮殿に入らせらる、倫敦是より祝祭にて、翌二十二日こそ肝要第一の祝典日なり。

抑も大祝典の發端は、先づ廿一日の深夜より英國内各寺の鐘は、大祝日の鷄明を報じて打ち鳴らさる可く、是と同時に倫敦橋は荷車の通行を禁ぜられ、廿二日早朝よりウエストミンスタア橋は荷車の通行を留め、此日七八時の頃より沿道諸車の通行は差し止めらる可く、無慮五百萬と號する大群衆は鹵簿の沿道に蝟集す可く、中央の車道を鹵簿の進行に殘して、兩側の人道に拜觀の群集を許すとするも、幸啓還御の諸街路を通じて、沿道の兩側に七十五万以上の群集は立ち得ざる可く、沿道悉皆の窓及棧敷に三十萬人を整列せしむれば、五百万中漸く百萬人のみ

鹵簿の一部を瞥見し得るに過ぎず、其雜踏の狀豫想す可し。

鹵簿沿道の全長六哩、此間警官兵士は其兩側に警固して、中央二十呎の道路を拂ひ、先驅後從の各國大使、殖民地兵士を合すれば、鹵簿殆んどバッキンハムより聖ポール寺院に連續す可く、午前十時を期して各殖民地の總理及其兵士は、近衛騎兵の營所に近く屯集す可く、十一時先づ此先驅より行進を起し、バッキンハム宮の前面を横斷してコンスチトユーションヒルより御幸道を進む、是に繼いてバアドクージ街に集合せる、英國内各所の海陸兵、印度兵、各國親王大使、近衛兵、近衛騎兵は、列を保ちて直ちに先驅に繼續す可く、先驅の始め行進を起してより數十分、先頭既にフリート街に達する時、女皇はバッキンハム宮より幌を開きし八馬の龍車、是は在位五十年祝典に使用されし龍車に乘御、六馬に率かせしウエルス親王の馬車及騎馬の親王諸皇族を從へ、靜々幸啓を起さる可く、陸軍總督ウオルスレイ卿は、兵二十二箇中隊、砲百八門の軍隊を

指揮して龍車に扈從す可く、英領カナダ、ジヤマイカ、マルタ、香港、錫蘭、英領ギニヤ、ラゴス、クインスランド、喜望峯、ナタル、シプラス、西オーストラリヤ等の諸兵を併せて無慮五萬人、鹵簿の長さ一哩四分の一、世界各國の大使國賓として鹵簿に加はるもの、我邦よりは有栖川宮、伊藤前總理、濠太利のフリージナンド親王、バヾリヤのラバアト親王、白耳義王、デンマークのチヤルス親王、バルガリヤ親王、埃及王族、獨逸のアルバート親王、ヘツスの大侯、以太利のチープル親王、レキゼンバーグ大侯、モンテチグロ皇太子、ルーマニヤのフリーズナンド親王、露西亞のサージ大侯、サスコボーグのアルフレッド親王、サキソニーのオーガスタ親王、暹羅の皇太子、ノーウエーのユーゼン親王、ウーテンバーグのアルバート侯、ベルシヤのフミル汗、葡萄牙のオポート侯、フラジル、支那、中央亞米利加、智利、朝鮮、コスタリカ、エグエーダー、佛蘭西、グワテマラ、布哇、メキシニ、チザアランド、合衆國、瑞西の大使等、世界諸國を代表して此盛典に加はる

もの、無慮二百名内外とぞ聽えし。

ハイド公園内に在つては、無數の祝砲天地に轟き、聖ポールの寺院に在つては英國一の大鐘、女皇の將に近きを報じて鳴り出る時、鹵簿は進んで女皇の龍車ストランドよりフリート街に移らんとし、是れより倫敦市部の界となるや、茲に倫敦府知事フヒーデル、フヒリツプ氏は、貂毛貽布の大禮服を着用し、騎馬、眞球の寶劍を棒じて待ち、龍車茲に留まる事一分間、府知事は馬を下り龍車の前に跪いて寶劍棒呈の儀式あり、終つて知事騎馬龍車の前に引導して聖ポールの寺前に進む。

時辰將に正午を指すの時、女皇の龍車聖ポールの寺院前に留まるや、カンタベリーの大僧正を始め、ヨークの大僧正、倫敦の僧正、ウヰンチエスターの僧正、ステツフテーの僧正等數十人は緋の衣を纏ひ、階を下つて女皇を迎へ、聖ポール寺院の庭前千餘の國賓、白木の棧敷に控へし中央、カンタベリーの大僧正は、女皇在位六十年の感謝祈禱を上帝に向つて

捧ぐ可し。

盛典の祈禱は僅々十分乃至二十分にて終る可く、祈禱終ると共に七千五百の樂手は國歌を奏す可し、此祈禱の將に始まらんとする時早く全世界三億五千萬の英領臣民には聖ヴールの寺院より發電して、其最も遠き所もウエルス親王金色の鈕を押すと同時に、太平大西兩洋の電線既に連續しあつて、此聖式の行はれんとするを世界各國に急報さる可く、亞弗利加、亞米利加、濠洲印度等英國旗の翻へる所英國語の話さるゝ所には皆同一樣の祈禱ある可し。

祈禱終ると共に鹵簿再び寺院を辭し、ライブサイド街より倫敦橋に向つて屈曲せんとする隅角、府知事の官宅マンションハウスに至つて龍車は停止、知事夫人は花束を女皇に捧ぐ可く、知事は倫敦市部民總代として其祝賀表を献上す可く、終つて知事を始め市部の各役員は倫敦橋の南端、即ち市部の盡くる所迄龍車に屈して奉送す可し。

斯くて龍車はサウスワークの高街に至り、聖ジョージの天主教會堂前に停り、大僧正ボウガンより頌德表を受けらる可く、遞信大臣ノホーク侯は茲に祝賀の演說を爲す可し、是れより龍車はウエストミンスタアの橋を渡御、近衛騎兵の營下を通じて、バッキンハム宮殿に還御、幸啓の始めより還御の終りに至る迄、三時間內外にして全世界未曾有の大盛典は擧行さる可し。

此夜倫敦の市中は所々に火飾と煙火ある可く、翌二十三日午前バッキンハム宮にて女皇親兵の檢閱ある可く、此日馬車にてバッキンハム出御、バッデントン停車場より汽車にてウヰンドアに還御せらる。

二十四日はウヰンゾアのホーム公園にて、クリッケットの祝戲あり、バーンスデール橋にて花合戰及び色紙合戰は催ほされ、柔術、自轉車、蹴鞠、テニス、競漕等各種の遊戲は行はる可く、二十五日六千の小學兒童はウヰンゾア王城の南面に群集して女皇の寶祚萬歲を祝す可く、二十六日

ホーム公園内に陸軍大試合は催され、此夜イートン豫備校の學生松火運動を起して、ウヰンツア王城に進行し、女皇の天覽を仰ぐ可し。

是と同時に二十六日午後一時を以て女皇に代れるウエルス親王は倫敦よりポーツマウス軍港に臨御、晝餐の後二時半ヴヰクトリヤ及アルバート號に乘御、世界無二の觀艦式を執行せらる可し、是は英國各港各部の艦隊百餘雙を集め、世界各國亦特に軍艦を派し、我富士亦是に臨まん爲舊工事中、富士艦長は例のリヨーマチス再發せしも、頃日全快此の盛式に列せんと勇み居れり、觀艦式終つてウエルス親王は皇室の汽船に外國將校を招待して饗宴を張らる可く、饗宴後アルバート號に退かる、此の夜艦隊の電燈祝火は九天に達して、不夜城をスピッドヘッドの沿海に顯出す可く、汽船の見料亦百圓内外の相場に騰貴す。

二十八日女皇再び倫敦に出御、ケンシントンに臨御ある可く、此夜バッキンム宮内に各國賓を招待して大舞踏會は催さる可く略ぼ是れにて

在位六十年祝祭前後の盛式は終る可し。

(其一)

重複を避け更に六十年祭御幸還啓の鹵簿に就て豫報せん乎、鹵簿バッキンハム宮を出でゝ、其宮側を曲れば直にコンスチヽユーションヒルなり、古今の歴史を通じて全世界に比類なき此盛典に際し、鹵簿先づ此道節を執る時の女皇今昔の感果して如何、女皇三度の厄難の狙撃に銃丸を逃れしは、即ち此コンスチヽユーションヒルにて、ロバアトヒールの馬より落ちて即死せしも此道なり、三町に足らぬ此道筋、今は片側文武の官吏設けの棧敷に黒山の如く居並び、萬歳歡呼萬歳を唱ふ、女皇の胸中千萬無量の感慨は、先づ此道筋より湧起するなる可し。

グリーン公園とバッキンハム御苑の間を界せる、コンスチヽユーションヒルは長さ三町ならずして盡き前にハイド公園の隅角を見て、諸道

輳合のスコヤアに出づる時、茲に一箇の凱旋門は聳え、常には凱旋門の鐵門を鎖し、其兩側を通行すれど、御幸の時は鐵門開け、齒簿アーチを潛つて進む可く、此凱旋門を名づけてウエリントンの凱旋門とは呼び爲せり、門を出でゝ例のスコヤアにかゝれば、ウエリントンの銅像は鹵簿に對して背後を見せ、ハイド公園に向ひたれど此鉄侯が三十年間住居せしメアブスレーハウスは恰も鹵簿の前面ハイド公園の方に當つて其銃丸不透の窓蓋は改革法案の當時鐵侯如何に愚民の暴動を防ぎしかを想起す可く、鹵簿進む事數間にして世界最大の富豪ロスチヤイルドの所有に掛る家屋を通過す可し、スチヤイルド男爵は、目下ピカデリーの百四十三番地に住居するも此家を見ては其始め獨逸街に小店を開きしロスチヤイルドが、能く一代にして歐洲列國の帝王も是が輔助を得ずんば其國債を募集する能はずと迄評せらるゝに至りしかを思ひ出づ可し。

鹵簿ピカデリーの小坂を昇つて將に聖セームス街に轉ぜんとする以前、ピカデリーの左側にデボンシヤア侯の邸あり、其後に陸軍次官ランスダウン卿の邸あり、兩邸共に百萬スターリングの價値ありと稱せらる、特にランスダウン卿の邸内こそ、プリーストレーが酸素を發明したる所にて、デボンシヤアの邸内は廣さ五エークルの敷地なり、五十万磅の繪畫を所藏せらるとぞ聽えたり。

ピカデリーの右側グリーン公園畫きて左に折るゝ最初の街路を、アーリントン街とし、茲に總理大臣の邸宅あり、鹵簿はアーリントン街に向はず、越えて聖ジエーナス街に轉ずゼームス街に對して、ピカデリーを左に轉ずる街道を舊ボンド街と稱へ、チルソンの住家あり、ピカデリーを猶少しく進めばアルバニー、チエンバーとて、バイロン、カッニング、リツトン、マコーレー諸卿の住居せし邸あるも、鹵簿は茲迄進行せず、女皇の感中想起さるゝ所ありや否や。

聖ジエームス街左側劈頭の家、是れ女皇即位の始めに當つて、英國一の賭博道場にあらずや、袁彥道の巨魁クロックフオードは、イーストエンドの鯨コイより身を起して、此家に百万兩の賭博長者となり、佛王ナポレオン三世を嘯着して大賭博を開き、二千磅を欺き取りしは此家の内にあらずや、惡亦孤ならず必ず其向ひあり、是に對するホツイト倶樂部は百五十年以前に建てられ、倫敦王黨の本部にして賭博の道場クロックフオードに劣らず、一夜倶樂部の前に絶息せるものあれば、出席の會員忽ち其生死を賭し、是を死せりと賭せしもの勢ひを得て蘇生の術を施さしめざるに至り、ドラモンド銀行の主人は此倶樂部内の賭博に、二萬磅を打ち負けて、遂に其銀行をチヤーリングクロツスの今在る所に移すに至る。

鹵簿進んでゼームス街の小坂を下れば、右側にブルツク倶樂部あり、是れ民黨貴族の本部たりし所にして、首領フオックスは此内に其半生を費やし、シエリダン、ウヰルクス亦來り會し、一坐數十萬磅のやりとりは、復此民黨倶樂部に盛んにして、シエリダンの負債も此戲與つて力ありしならん歟、此れ併しながら女皇即位の前後、即ち六十年以前の昔日を懷古し、茲に女皇今昔の感懷を假述するにて、我上流紳士我田引水此例を執つて嗜牌の好辭柄となすなくんば幸なり。

保守黨倶樂部と是に對せるバイロンの舊家、茲にバイロンは其チヤイルドハロルドを出版の翌日恰も生れ變りし如くに名譽の人となつて目醒めし家は、是ぞ鹵簿賭博に名高き聖ゼームス街を過ぐる名殘にして、此街の盡くる所を横に入れば即ちクリーン公園バツキンハム御苑と鼎立の形を爲し此街名の起源とも爲れる聖ジエームスの公園あるなり。

鹵簿今や聖ジエームス街を左に折れ、進む街路は廣からず、兩側に見る建築物とて高大ならず、不知案内に通過すれば別に何等の奇もなけれ

ど是は是れ英國高名一の街路ベルメルなりと先づ大呼せば、さぞや由緒ある街路ならんと思ひ來らん、如何にも由緒あり、ベルメル一名依樂部街とも稱す可く、女皇在位間の六大宰相を始めとし、名大政治家各高名の陸海軍人、大宗教家、大學者、一人としてベルメル倶樂部の一會員たらぬはあらず、而も鹵簿進行中女皇胸邊の感覺は是等倶樂部の上に起らで、ベルメルに進めば斜めに右手に見ゆる、マルボローハウスの内に在るなる可し、女皇在位七十年は期し難く、寶祚萬歳の後大英王位の繼承者たるウエルス親王は即ち此マルボローハウスの主公と知らずや。

マルボローハウスは第十七世紀の終り、マルボロー大侯の建築に掛り、侯が愛戀の晩年は此内に費やされ、侯の夫人が寡婦の晩年を送りしも亦此内に在り、一千八百十七年此邸は皇室に買ひ上げられ、女皇即位の時より皇太后の御邸となり、ウエルス親王二十一歳の誕辰に此邸宅を下賜せられ、千八百六十三年の御婚儀以來、親王倫敦の邸として今に繼

けり。

女皇第二の感慨は少しく龍車の過ぎ去りし跡に戻つて陸軍省の上に在らん乎、陸軍省は唯時計臺あるのみ、此方面には門らしきものさへなけれど、先づ不知案内者の注意を惹く可き、ベルメル一の建築物たり、陸軍省と反對の側にカアルトン青年倶樂部あり、鹵簿進んで聖ゼームスコヤアの前面に至るや、其右方の角と角、是ぞ即ち有名なるカールトン倶樂部レホーム倶樂部にして、カールトン倶樂部はウエリントン侯の創立する所改革法案に反對して起りし所のもの、レホーム倶樂部は其名の如く改革法案提出の主動力たり、此街頭の兩角互ひに相對して、敵と味方の兩倶樂部を集め、共に氷炭相容れざる兩黨の本部對峙して、女皇治世の各政治家必ず彼我の會員たるも亦一奇なり。

鹵簿は今やベルメルとウオータアループレースと相交叉せる十字街に來る、鹵簿左方御影石上の紀念銅像は、クリミヤ役戰死者二千の爲に

立てられ、セバストポール戰利の砲を鑄て造りしもの、鹵簿の右方百二十四呎の大圓柱上に劍を按じて女皇還御の道筋を睥睨するもの、ジョージ三世皇子ヨーク侯の紀念碑にして、ローレンス、クライド、ナビール諸郷の紀念肖像は鹵簿右方の左右に整列せり、鹵簿はジョージ三世の騎馬像を過ぎて、ツラフオルガアスコヤアに進む。

三百年以前チヤーリング村の在りし所、今は倫敦繁榮の中心たるツラフオルガアスコヤアとなれり、テルソン像の高圓柱には無數の土鳩集を作つて、千古英雄の頭上土鳩の汚物に汚され、泉水濁つて子子は浮ぶ陳皮の舟に螺集し、人間中の子子たる遊手の勞働者は泉水の四邊垢に輝く襤褸の衣を着け、餓へたる腹を眠りに癒す風情は兎まれ、一度墨客誇張の筆に上らば全歐街中無上の美觀と稱へらる可し、余の見る所、其外觀の如何に厭ふ可きかに係らず、一度茲に足を運べば懷古の念勃然として禁ずる能はざるなり、想ふに女皇の感想亦斯くもあらんか、テル

ソン安置の大圓柱は、ポートランドの石にて積み上げ、高さ百四十五呎是が費用二万八千磅頂上のテルソン像は、彼が職利の大砲より鑄造され、圓柱下四隅の獅子は全世界中最良の彫像として其名夙に高し。

汚穢の泉水祝典の日は、五色の水を噴出するの仕掛ある可く、レイセスタアスコヤア及び國民繪畫館の井戸より水を導き、夏は毎日十三時間冬は七時間、二十五乃至四十呎に噴水するの趣向なり、ナビール、ハヴロック、ジョージ四世、ゴルドンの肖像所々に据ふられたり。

鹵簿はツラフオルガアの北側と、國民繪畫館前面の中間街路を進行す、國民繪畫館は世界第五位に在つて、建築の費用九萬六千磅、是が起源は千八百二十四年政府六万磅を支出して、三十八畫を購入せしより始まる、所藏繪畫中最も有名の古畫は、大英全國一立方吋毎に十四磅を醵出せざれば、是が購入費を償なふ能はずと知られたり。

鹵簿進んでダンカンノン街に入るや、聖マーチンの皇室寺院を經過す

可きも、是が寺院の由緒は長し、鹵簿の進行是が詳說の暇を與へず越えて直ちにストランド街に入らん、左にアデルヒ劇場を眺め、右に巍然雲表を凌ぐは、セシルホテルにて、全歐最大のホテルとは聽えたり、茲に多くの國賓は宿る可く、ホテルの附近にサヴオイ劇場あり、サア、アーサア、サリバンなる俳優、茲に勤むること十年間、無慮九万磅の財産を作りたり、ライセヤム劇場及びサモセットハウスは共に女皇の注意を惹く可く、サモセットハウスはサモセット侯の築造中に撤られし建築物にして常人一志の見料を拂へば、シユキスピーア、ニユートン等有名なる人々の遺言狀を一見し得可し、聖クレメント寺院を過きて、是より聖ポール寺院に至る迄進む事一吹なれば、茲に一箇の歴史的懷古の事實を想起せざるはなしと雖ども、事長けれは茲には云はず。

鹵簿は將に倫敦市部の境界なるテンプルバアに進まんとして、左手に倫敦裁判所あり、裁判所は長さ五百呎高さ八十呎總計百箇の法廷を有し、是が敷地五エークル、二百万磅以上の價値を有す、眞珠劍捧呈式の擧行さる可きテンプルバアは、千八百八十年の落成にして、内に女皇の大理石像安置せらる、有名なる怪物石像の建てるも亦此前面に在り、鹵簿是れより過ぎてフリート街に入れば、世界屈指の新聞社街は即ち是れにて、ジョンソンの住家、ミルトン、失樂園の詩を五磅にて出版したる書籍店亦此街に在り、鹵簿は聖ダンスタン寺院を通過し、ラドゲエト街の小坂を昇り、ラドゲエトヒル停車場の高架鐵道下を通御、大盛典の式場たる聖ポールの表門に進む、四周俗塵を極めし建築物に取り卷かれ、寺院表面の棧敷には國賓、是等建築物の窓より家根より、棧敷よりは、無數巨万の見物者が望遠鏡もて、女皇の頭上より見下す可き、戸外俗塵紛々の寺院前面街道上に、世界開闢空前絶後の大盛典を執行せんとす、東邦優雅の心情より見れば、眞に奇中の奇ならん歟。

更に聖ポール寺院に就て一言せん乎、寺院の周圍は約半哩、四周の街路

を聖ポールの寺庭と稱へ、廣き所も其幅六十三ヤードに過ぎず、前面の式場アン女皇の肖像ある所は、無論是れより廣かる可し、寺外の掃除修覆が、絶へず五十の人足を使役し、院院紀念の肖像には六人の人足日夜に忙し、床上の掃除は一週三回洗除は一月一回大掃除は一歳一回是を行ひ、寺内總計の瓦斯燈を點ずるには半時間を費やす可く、八十三箇のストーブは日に一噸の石炭を費消す可し、寺内備付けの腰掛三千、立たば寺内に三万六千の人を容る可く、席を作れば五万の人を容れしむ可し、大時計を卷かんには三十分を要す可く、四周半哩の鐵柵は二百噸の鐵を費やし、是が費用一万一千磅と聽ゆ。

大盛典は寺内に起らず、表面アン女皇肖像の立つ天空開濶の寺庭に擧行せらる可し、十分乃至二十分の祈禱は直ちに終る可く、祈禱終つて鹵簿は寺院の南側を進み、一時暴動血塗れ騷ぎに其名を成したるチイプサイド街に入る、將に此街を過ぎ去らんとして音に名高きギルドホー

ルを通過す可く、年に一度の宴會に外務大臣は外交上の演說を此ホールに試みて、大意は世界に電報さるべし。

鹵簿は進んで倫敦商業の中心に入る、龍車回轉の此土は、即ち世界最高貴の土壤にして、一エークルを價値二百万磅の價値ありと知れ、右に府知事の官邸、マンションハウスは聳え、左に英蘭銀行は建ち、前に世界隨一の株式會所は峙てり、會員二千七百人、新會員は六百ギニーの入會金を要し、年に三十ギニーの會費を徵集せらる、抑も倫敦の市街と稱ふるは、僅々一平方哩の區域を云ふにて、他は是を市街と稱せず、市街の住民五万人、是を倫敦五百萬の人口に比すれば百分の一に過ぎず、此區内とそ基督降誕の當時より、倫敦の中心として知られ、府知事の官宅とそ中心の中心に位置す、此附近を徒歩する人間降るも照るも日に七萬五千人、乘客蝟集の乘合二階馬車毎一時間に三百臺の往復なり府知事は總理大臣よりも三倍の歳額を受け、年に世界の各部より五千以上の書

翰を受く可し、府知事の任期を一年の交代と爲す。

府知事官邸の儀式を終つて、鹵簿はウヰリヤム王街に進む、龍車通過の地下を横斷せる、市内地下鐵道は世界高貴の鐵道にして、地下鐵道中にも此附近こそ最も高貴の鉄道なり、一ヤードの掘築費一千ギニー(約我一萬五百圓)を費やせりと云ふ、鹵簿倫敦橋に向つて進むや、少しく左の引込める地に、有名なる倫敦大火の紀念碑あり、世界最高の圓柱紀念碑にして、高さ二百二呎、圓柱内螺旋の黒色大理石階を設くる三百四十五段、是が建設費一萬三千七百磅、此頂上より自殺を計もの多しとかや。

鹵簿今や倫敦橋にかゝる、橋の長さ一千呎、是が架橋費百五十万スタアリング、日毎に橋上を通過する馬車の數二十萬、徒歩の人間十萬人と數へらる、橋上兩側の瓦斯燈は、半島戰役戰利の砲を鑄て造りたり、倫敦橋上女皇一度左顧し玉はゝ、近代工學の勝利と稱へらるゝ倫敦塔橋は、直ちに數町の下流に見ゆ可し、塔橋は全世界中最も重き吊橋にして、

を用ゆる三千一百万箇、セメント一万九千五百噸、コンクリートは七萬五百立方ヤード、鋼鐵一万五千噸、橋の長さ二千六百四十呎、塔の高さ百五十呎、塔橋に就ては他日詳報の機ある可し。

鹵簿倫敦橋を過ぐれば、ボローハイ道となり、左にガイ病院の塔は見えたり、倫敦橋を界して北は倫敦市部なるも、南は南倫敦として市部の内に入らざるのみか、北部に比して建てる家、住める人悉く變化し、ヂッケンスが小説中の主人公は、多く此部より執られける、鹵簿の進行女皇の感を惹くものなく、天主教寺院の門前頌徳表捧呈の式を終りし後は、沿道一も記す可き事なく、鹵簿ウエストミンスター橋に進まん、總じて南倫敦の沿道は、北部と均しく觀席を建て列ねたれど、一般の人氣は御幸の道筋に在つて、還啓の道路に在らず、されば其席の價値も北部千圓の窓ならば、南部百圓の價値あるのみ。

ウエストミンスター橋は、世界最廣の橋梁にして、是が廣さ八十五呎、長

さ千百六十呎、此橋上より女皇左に頭を轉せば、聖トマス病院は間近に見ゆ可し、建設費五十萬磅、女皇右に頭を轉ぜば、長さ七千呎の倫敦高架道は面前に在り、是が築費二百萬磅、高架道を進行せばクレオパトラの大針あつて基督前千五百年の古物に掛り、全世界中最古物の一に數へらる、多年埃及アレキサンドリアの砂中に横はりしもの、英人に逢ふて一萬磅の運搬費を投じ、茲に運搬せられたり、大針高さ七十呎重量一百八十噸。

ウエストミンスター橋上の大觀は、病院にあらず高架道にあらず、大針にあらず何ぞや、大英國會に在り、河に沿ふて其河岸を占領する事一千呎、八エークルの敷地を有し、築建の歳月十七年、建築物中五百の室に分れ、塔上の大時計は世界一と稱す可し、直徑七ヤード重量四噸、長短兩針を合すれば重量二噸度、長さ二十五呎に超過す可し、數字の長さ各二呎、五分毎の間隔各二ヤード、一分の間隔十四吋にして、長針三十秒毎に

八吋を進動す、時計塔に對して他の一隅に聳ゆるものをヴ非クトリヤ塔と爲す、塔の高さ四百呎にして、恰も國會の旗竿に均しく、英國旗は常に塔上に飜へさる、六十年祭の當日此塔上に掲げらる可き大國旗は、是も世界の一と云はん乎、其丈十二ヤードにして幅八ヤードなり、女皇在位六十年、此上院には數十回の出御ありしも、下院には曾て一回の御幸なし。

鹵簿橋を渡つてウエストミンスターアベイを過ぐ、是は五十年祭執行の靈場、余罷別に小記なかる可らず、今鹵簿進行の道路こそ國會街と稱へツラフオルガアスコヤアより國會に出づるの道路、是を倫敦最良の街路と爲す、以て倫敦如何に多くの世界一を有するも、其街路の崎嶇羊腸、一として砥の如く規律正しき大道を有せざるかを察す可し、然り其大道を有せざるに於て亦世界一なりと云はん乎。

國會街の左に並行して王街あり、王街はクロンウエルの生活せし所、ユ

ドモンド、スペンサアの餓死せし所、鹵簿は進んでホワイトホール街に入る茲には大藏省內務省外務省殖民省印度省あるのみならず、倫敦中最も歷史に關係ある街道にして、英國曆代の王宮ありしも此街なり、クロンウエル大名を成して後住ひしも此街なれば、チヤールス、スチユアートの首落ちしも此街なり、ヘンリー八世は茲に薨じ、エドワード六世は茲に國會を召集し、ジエームス王は貧者の足を洗ひ、チヤールス二世は二千磅の銀行を控へて、茲に最期の賭博場を開く。

鹵簿愈々進んでバッキンハム遷御に近く、女皇疲れて一念遷御の外に感なかる可く、龍車は近衛騎兵の營下を通じて、馬場先に進行す、路は兩側に楊柳青々として俗塵に汚れず、遙か右手の家門數奇を凝らして人音なく、優雅の觀念始めて浮ぶも、如何せん歷史の智識は、チヤールス一世此馬場先を徒步して、屠所の羊の夫れならなくに、斷頭臺上一片の露と消えしとを敎へ、綠の柳暗夜に陰々たる鬼火を宿すを覺えしむ。

馬場先片側の邸宅は、曾てグラッドストーン茲に住へり、ダアビー卿は其隣家なりき、ヂツケンスは猶新聞探訪として此所を行き又戻れり、ヨーク侯の大圓柱は即ち此附近に向ひ居るなり、紀念碑附近に獨公使館あり、ロンズデル卿の住家あり、皇太子のマルボロー邸は一歩先きにて、聖セームス宮殿は直ちに女皇の眼界に映じ入らん。

○金剛石祝典實況

(其一)

皇統連綿三千年萬世一系の御皇國は遙に俗世界に冠絕したれば措て云はず、熟ら凡俗世界今古の史乘を案ずるに、最も在位の長かりし帝王を、佛王ルイ十四世と爲し、前後七十二年の寶祚を保つも、佛國衰替の非運は此時代に萌し、ルイ十五世五十九年の在位を繼げるも、佛國遂に競

はずして止みぬ、獨逸は平和帝フレデリックを最長在位者と爲すも、五十三年の寶祚に過ぎず、露はピータア大帝三十六年間の在位を最も長き治世とし、デンマークはクリスチヤン四世六十年を支配せしも、杏として聽ゆる所なく、西班牙チヤールス三世の二十八年間、葡萄牙ドンヨン一世四十九年間の治世は數ふるに足らず、英國に在つても繁盛榮譽の黃金時代と稱へられし、エドワード三世の代は五十年にして去り、ジョージ三世殆んど六十年を支配せしも、治績の更に看る可きなし、獨りヴヰクトリヤ女皇に至つては在位六十年の治世間、領土を獲得する事、三百餘万平方哩、臣民を增加する事、二億三千餘萬人、是を六十年前女皇即位の當時に比するに、領土に於て殆んど二倍、臣民に於て正しく三倍の增加を見、世界到る處に英語の通ぜざる隅なく、英領土內に太陽の沒する時なからしむ、實に治績に於て然るのみならず、ヴヰクトリヤ女皇は女性としての女德、妻としての婦德君主としての皇德を兼備し、智

仁慈愛に富ませ玉へば、臣下三億の歡心を得る事實に古今の史乘其比を見ず、特に女皇は二十二歲にして獨國皇太后の母たり、四十歲にして祖母たり、六十歲にして曾祖母たり、目下生存の皇子三人、皇女四人、皇孫男子十二人、皇孫女子廿一人、皇曾孫男十九人、皇曾孫女十二人、總計七十一人の見孫を擧げ、今や殆んど歐洲列國直接間接に女皇の姻戚ならぬはなきに至れり、是れぞ女皇在位六十年、祝典に對し、英國民の狂奔する所以復世界列國の狂喜措かざる所以なり。

倫敦社會に在つては遠く半年以前より狂呼し始め、或は窓牖の賣買と爲り、窓牖賣買の會社は起り窓牖賣買の辯護士を生じ、數十年來住み馴れし借家人も祝典簿の道路に當る所は、家主より追放の悲運に遭ひ、訴訟公事の絕間なかりし金剛石祝典は愈々最後に近づき來りぬ。

抑も倫敦に在つて斯る儀式の當時に、窓牖を賣り觀席を設くる事は、遙に英皇エドワード一世時代より事起れりと雖ども、一席一片を値ひせ

ず、リチヤード二世に及んで一席一片の價値を生じヘンリー五世即位の式は一席二片に騰貴し、エリサベス女皇若しくはヘンリー八世の當時は六片、ゼームス一世は一志、ウヰリヤム三世は五志、ジヨージ二世は十志、ジヨージ四世に及んで五磅乃至十磅の觀席を古來稀有と稱せしが今回六十年祝典には、一席數十磅一窓數百磅に及び、聖ポール寺院前の建築物窓牖の如きは四千五百磅の原價忽ち八千五百磅に賣れ行き鹵簿沿道の窓牖賣買金高五千萬磅に積算せらるゝに至る、蓋し古今の史上に未曾有の珍事なる可し。

過去半歲間大英全國を騷擾せしめし時期は來りて六月十六日の夜は明け放れぬ此朝女皇スコットランド巡洋中にて猶バルモラル宮に在り、各殖民地よりの十一總理參列諸兵、世界列國の三十餘皇族大使順次に到着して倫敦に在り、女皇即ち十七日の午後を以て、クリスチヤン內親王と共にバルモラル宮出發雨天なりければ何時になく箱馬車の幌

を覆ふて馬を驅る事一時間午後三時を以てスコットランドなるバラスタアの停車場に着御、二百の小學生は『神よ女皇を救はせ玉へ』を歌ひ、スヂランド兵の敬禮を後に見なして出車、四時三十二分アバーデーンに着御あれば、停車場に待ち構えし公衆は女皇に向つて歡呼の喝采漢くが如く、女皇は玉顏麗はしく一々公衆の喝采に會釋し、同市の市長は花束を捧呈し、間もなく發車七時十二分バアス停車場に着濠車內の食堂にて夕餐を召さる、此間公衆は停車場內に入るを禁ぜられしも、女皇祝典の出立を送らんとて込み入る公衆制するに由なく、群がる公衆喝采して女皇の發車を送りける。

午後十一時三十五分カアライルに着御、是れよりウヰクトリヤ及びジユビリー號の二濠關車に曳かれて、十七日の朝九時五百八十九哩の長途何等の故障なく、群衆歡呼の裡にウヰンゾル王城內に安着あらせ給ふ、此日を以て諸皇族特に獨國皇太后もウヰンゾルに來り會し、此夜ウ

ヰンゾル陸軍三中隊の松火運動あり、翌十八日には王城内に前諸王の遺物展覽會あり、羽毛の肩掛、彫刻の槍、珍奇の偶像、印度兵の敷布、ヘンリー四世以來代々の甲冑、ジョージ諸王の遺物、オーストラリヤ、カナダ、ニュージーランド南洋諸島の短劍、短銃、洋刀を陳列して、女皇々族と共に今昔を追懷し、十九日ウヰンゾル城内に於ける軍隊調練の天覽あり、二十日の日曜日には女皇々族と共にウヰンゾル王城内の聖ジョージ寺院に參詣し祈禱あり、倫敦にてはウエルス親王始め各法官は聖ポール、上院議員はウエストミンスタア、下院議員は聖マーガレット寺院にて感謝の祈禱を爲し、翌二十一日正午ウヰンゾル山御、群衆の歡呼に送られ、大西鐵道の玉車に搭じ、裝飾の各驛を通過し、十二時三十五分倫敦パヂントン停車場内の九號プラットホームニ着御、此プラットホームにてパヂントン住民の頌德表を受け、獨國皇太后クリスチヤン内親王と共に、幌を開ける馬車に投じて、歡迎の凱旋門を經過する二、群衆歡呼の

裡に唯一小隊許りなる近衛騎兵に送られ、一々群衆の歡呼に會釋答禮せられつゝ、バッキンハム王宮内に入らせ玉ふ。

《其一二》

世界第三位の大寺と聽えし、聖ポール寺院の表門前、二十二階の大理石階は長さ二十間高さ數間、序列を正して上段に聳え、石階盡くる所に大理石の圓柱十二本は、周圍彫刻を施して此大寺院の表面を支へ、左右中央の三入口を分ち、二階に八本の大理圓柱亦其表面の家根を支へ、寺院正面は左右の高塔、中央に大圓塔あり、倫敦繁華人家櫛比の中心に巍然雲表を凌ぎたり。

寺院の表門大理石階の正面を、半圓形に鐵柵を施し、是を聖ポール寺院表面の寺庭と稱へ、寺庭の中央にアン女皇の紀念肖像は建てり、半圓形の鐵柵外寺院の周圍に四方連絡の街道あり、是等の大路小路は堅固の

大門十餘箇を設け、警固の巡査群を爲して押寄する群衆を入れずと固めたり。

寺院正面左右の入口は閉ぢ、獨り中央の入口のみを開きて、大理石階の左右兩端に各二十段幅約十間の棧敷を作り、赤布を纏ひ椅子を並べて外國公使、內國大臣の席に宛て、石階下段の中央に神壇を設け、神聖の左右數段を法官僧侶の席に宛て、是れより上は左右軍樂隊の席とし、神壇に向つて左右より各八箇の大樂机、是より上五段の石階上に左右約四十餘箇の小樂机を据ゑ、左右の入口前二階上の鐵柵內共に十餘段の棧敷を設けて寺院關係者の拜觀席に備へ、鐵柵內半圓形の寺庭上には黑砂を撒布し、寺庭四周の街路上には黃砂を敷き寺院周圍の各建築物は國旗草花を交錯して窓闌を飾り、窓闌足らず家根の上更に十數階の棧敷を作りて高きは一席數十磅廉きも一席二磅を下らず。

朝疾くより寺庭內に込み入れる數千の群民花の如くに着飾りて寺庭內を徘徊し、數千の人足は僧侶の監督下に席を婦ひ砂をならし、巡査は鐵柵の外に立つて不虞に備へ警固の諸兵は漸次到着して定めの位置を守り、列國各賓客を接して來り會するに及んで、數千の群衆は寺庭內より拂ひ出され滿庭復一人の普通人民なく、午前十時大陽は曇天を破つて雲間を出で、古今未曾有の大盛典將に二時間の後を以て、此寺庭內に擧行せられんとする當時の光景眞に天下の絕觀たりき。

看よ寺院の二階と左右入口の觀席及、四周建築物の窓と屋根は、五色の衣を身に纏ひ、五色の草花を飾れる女帽を戴き、其身自ら五色解語の花とも見ゆる所謂貴女紳士は恰も春野に若草の我れ劣らじと咲き出でたらん如くに、あらん限りの窓と屋根に群がり集まり、萬眼一射聖ポールの式場に集注するに、今や式場設けの席は立錐の餘地を殘さず。

內國大臣各國公使の席に在つては、茲に大英の俊傑と世界列國の英雄を集め、就れも盛裝あらん限りの勳章を胸間に輝かして、我れ劣らじと

饒、る裡にも、特に人目を惹けるもの、右第一列の中央に、其黑髮を頭の中心より左右になでつけ、金光燦爛四邊を拂へる蝦夷錦を頭上より坐禪達磨の如く打ち被り金緑の眼鏡をかけし黃顏の女性腕輪を飾れる黃色の細腕を展べて恐る〳〵握手の禮を行ふもの、是ぞ英領印度の內親王と知られ、頭上よりの蝦夷錦は、顏と頭と覆はん事に絕えざる苦心を爲すと雖ども天下の絕觀其金緑の眼鏡より內親王の心界に映射する事甚しき時、自然達磨の被布頭より落ちて肩にかゝるを慌てゝ頭上に打ち被るも一興あり、是に隣りて黑天鵞絨寬濶の上衣豊かに、金條燦爛胸に二箇の大勳章を飾り、頭上金紅二色の絹もて印度流の頭髮を裹むもの、是が夫の印度親王なり、一列中印度親王の列席するもの猶他に四人、第三列亦二人の印度親王あり、孰れも龍宮乙女然たる印度禮服を着用し、一は白茶の錦他は紫に金地の模樣頸に寶石の頸輪腕に金銀の腕輪を飾りぬ、第五列の中央文官服に我古代冠の如き漆黑の冠を被る

もの埃及皇族にあらざるか、茲にも印度の三親王あり、石竹色の盛服に寶玉眞珠を胸一面に飾りたり、第七列の支那人八名は大使の從者なる得きか、禮帽孔雀の羽毛なく禮服繡箔の徽章なく、拱手して互ひに盛觀を嘆美しあへり、支那人の後列軍服長劍を佩き黑色の土耳其帽を冠つて、意氣少しく昂るもの土耳大使の從屬たり、此間內外泰西の文武兩官盛裝花を欺く夫人令孃、交互錯雜右側二十段の後席を塡充せるも、一見五色の花を見て就れを誰れと識別するの暇はあらず。

眼を轉じて左側公席を打ち眺むれば、我國民四千万同胞の眼光は、直ちに第二列十人目の席上に注ぐなる可し、茲に豊顏粗髯胸間一面に二十內外の勳章を輝かし、斜めに大綬を肩よりかけ、當式場中一人として斯く迄の勳章を飾れるものなき迄の名譽の紳士、白布のハンカチを丸めて食卓席のナプキンの如くし、堅く左右の兩手を握り詰めて、傲然四周を睥睨し、意氣殆んど滿場を呑むの慨あるもの、讀者知ずや我前首相伊

藤博文侯是れ即ち其人なり。

左側公席第三列薄青き洋服の着こなし、白皙人を欺く顔の色艶は、泰西婦人と識別するに苦しむも頭髪漆黒特種の顔だち遂に泰西婦人と其選を異にするもの我加藤公使夫人、マダム加藤と名乘られたり、是が隣席目鋭越しに四隣を見廻はし、知人もがなと泰然たる能はざるもの我加藤公使にして、是が背後の第四列泰然知己を四周に求めず、而も加藤公使と手を握つて自若たるは支那公使なり、第五列には大佐以上海軍の大禮服を着用せる軍人多く、六列土耳其帽の數人稍や人目を惹き、十二列五人の支那人一見して識別す可し、餘は世界各國各人種各宗教を代表し、各國禮服禮帽を集めて式場内の此兩隅に内外列國男女數百の俊秀を集むと雖も、一見唯五色豐富の花の如しと再言するを得るの外、復一言の能く是を名狀し得るものなからん、而も是れ漸く式場の左右兩隅たるに過ぎざるを記憶せよ。

更に左右公席の内側假設の神壇を中央にせる、左右五段の大理石階は、右に赤衣黒縁白色縮毛の假髪を頭上に戴き、白襟を垂れて貂毛を眉より胸に飾るもの、國内高等の法官と知らずや、黒き衣に緋と紫の袈裟をかけ、襟は白く衣は赤に縁どられ、漆黒の角帽に黒き總を垂れしを戴き、左側五段の席より溢れ出で、右側法官席の後方を塁斷するもの、大英全國各區寺々の高僧ならずや、其多くは一目類似の制服に身を固むと雖も更に細分類別せば、黒衣にして袈裟の赤きあり、緋衣にして袈裟の紫なるあり、紫袈緋衣にして角帽黒きあり、圓帽紫なるあり、是等僧群の一團是を假髪黒衣の法官に併せて、自づからくずみたるも一種彩爛の花に似たり、若し夫れ斯くずみし花團を以て、是を左右兩隣五色の光彩陸離たる男女美花の一團に對照せば如何、光輝燦爛人目を眩惑するの花と云ひ得るの他、一言一句名狀の辭なし、而も是れ猶式場の兩隅たるに過ざるを記憶せよ。